



産業ガスレポート

Vol.29

2013年 秋号



一般社団法人
日本産業・医療ガス協会

産業ガスレポート vol.29 2013年 秋号

CONTENTS

平成25年度 定時総会 会長挨拶	1
産業ガス部門 新役員	4
産業ガス部門 評議員・顧問	5
産業ガス部門 組織表	6
常置部会・委員会・ワーキング(WG)名簿	7
産業ガス部門 事務局の新体制	17
平成25年度 定時総会	
平成25年度 JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム	18
定時総会	19
平成25年度 協会表彰式	20
懇親会	24
平成24年度 事業報告	28
平成24年度 総会、部会、WG会議等開催記録	34
平成25年度 事業計画	42
会員の現状、今後の主要日程	46
エッセイ 国東半島(渡邊 秀生)	47
技術・国際ニュース	49
地域本部の活動報告	
北海道地域本部	55
東北地域本部	59
関東地域本部	63
東海地域本部	69
北陸地域本部	79
近畿地域本部	83
中国地域本部	91
四国地域本部	97
九州地域本部	101
統計データ一覧	106
編集後記	119

会長挨拶

会長 豊田 昌洋



日頃はJIMGAの活動にご支援ご協力を賜り、改めて御礼を申し上げます。

さて、昨年度は、欧州債務危機問題の再燃、電力不足に伴う節電要請、中国経済の成長鈍化、米国における財政の崖問題など、かつてないほどの困難を強いられました。本年度も世界経済は複雑な構造が続くものの、緩やかながら回復を示すと思われます。また、現在日本ではアベノミクスが功を奏し、株高、行き過ぎた円高の是正で、一時的に調整局面に入っておりますが、明るさが出ています。我々の業界にも今後良い影響が出るよう大いに期待しております。

しかしながら、昨年来の電力料金の値上げは東京電力に始まり、関西電力、九州電力と実施に移され、今後も他の電力会社に広がりそうがあります。JIMGAではこの1年半これらの値上げについて、圧縮努力等を電力各社、関係官庁に要請をして参りました。会員会社におかれましても電力料金の転嫁に向けて努力しておられるようですが、電力は当業界の死命を制する重要な問題でありますので、引続きあらゆる面から会員の皆様のお役に立てるように、働きかけて行く所存であります。

今までの東電、関電、九電による値上げの業

界への影響額は自家発電を除いて年間約88億円であり、東北、四国、北海道におきましても、現在値上げ申請中であります。この3地域が申請通りの値上げが認可されますと、業界への影響額は自家発電を除いて全国では年間約101億円となります。今後数か月間の燃料調整、円安による実質的な値上げも平成25年3月と比較してさらにkWhあたり1.2円程度考えられますので、自家発電を除いて別途、全国で年間76億円の負担増となります。

次に、今年度の課題についてお話をさせていただきます。JIMGA産業ガス、医療ガス部門におきましては、従来通りそれぞれ4つの課題に重点的に取り組みます。

まず産業ガス部門については、第一に「保安の一層の強化、推進」です。保安講習会やセミナーの開催、e-ラーニングの整備等により自主基準等の啓発活動に努めます。

第二に所有者不明容器・放置容器撲滅のためにRFタグの普及を更に推進し、容器管理の強化・徹底を図ります。この1年で20拠点、11万本増加し、現在は59拠点で26万本に装着されておりますが、このペースですと平成27年度末の目標310万本に到達することは非常に厳し

い状況です。よって、これを達成するために、容器RFタグ運営委員会、委員各位も今まで以上に個別訪問説明や講習会の開催による普及活動に取り組めますが、産業のみならず医療部門の会員の皆様、とりわけ地域の会員の皆様方のご理解、ご協力、ご採用をお願い申し上げます。

第三に環境安全部会を中心とした「環境問題への対応」です。電力多消費産業として使用エネルギーの削減に実績を残しておりますが、これからも更なる省エネを目指して取り組んで参ります。

第四に「国際基準との整合性の追求」です。このテーマは益々重要であり、国際部会を中心に活発に活動中です。世界のガス関連団体であるIOMA(国際酸素製造者協会)とISO(国際標準化機構)の場での取組みを進めます。

医療ガス部門につきましては、第一に「医療事故対策」です。昨年度、医療ガス学会等、実際に現場で医療ガスを使用している先生方と二酸化炭素等に関わる事故防止に向けての会合を開始しました。これは今年度も継続して行きます。また、医療ガス保安講習会は今年度、全国14か所で開催を予定しています。

第二に医療ガスの「国際整合化」です。昨年度『医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準』の説明会を全国10会場で開催いたしました。説明会での質問事項は、回答内容を厚生労働省に確認頂き、協会ホームページに掲載いたしました。今年度は実践の年です。各社経営トップの指導力をもって実践頂きますようお願いいたします。

第三に「MGR制度の拡充、充実」であります。現在延べ3,092名のMGR認定者となっております。今年度の更新時講習会は第1回、第4回の試験合格者を対象とするため1,000名を超える見込みです。今年度は制度創設後初めてとなるMGR管理者研修を実施いたします。また、薬

事法の営業所管理者とMGRのリンケージに向けての活動を行います。

第四に「地域防災協定の展開」です。この1年で13道県と新たに締結し、現在39都道府県と締結するに至りました。今年度は残りの8県との締結を完了及び昨年締結した県との運用マニュアルの作成、模擬訓練の実施に主眼を置いた活動を行います。

両部門共通の課題は、「コンプライアンスの徹底と広報活動の強化」です。特に広報活動の強化は、社会の皆様方に産業・医療ガスが必要不可欠なインフラ及びライフラインであることをご理解頂くために重要であると考えます。

以上産業ガス部門、医療ガス部門の課題を申し上げましたが、これらの活動は約25の部会、委員会、WGに会員会社から延べ約250名の方々が手弁当でご協力頂いており、着実に成果が上がってきております。引続き皆様方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

また、今年は特に次の3つを新たに始めたいと思っております。

一つ目は表彰制度の運用開始です。先ほど申し上げた通り、JIMGAの活動にはたくさんの方々の協力を頂いており、業界内のみならず社会的にも大変評価されております。皆様のご苦勞に報いるために、本年度からこの総会の場で表彰式を行います。今年度は産業ガス部門から11件、医療ガス部門から13件が受賞をされております。のちほど表彰式にてご披露させていただきます。また、せっかく始める表彰制度ですので、権威ある賞とするために、協会が一体となって本表彰制度を運用、盛り立てて行くことが重要であります。来年度以降も継続的に行いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

二つ目はNEDOからの委託事業である水素ステーション関連技術基準検討ワーキングの立

ち上げです。会員会社から出向者を3名受け入れ、平成27年からの燃料電池自動車の一般ユーザーへの普及開始に向け取組んで参ります。

三つ目は事務所移転に伴う産業ガス部門、医療ガス部門の更なる一体運営の強化です。7月1日より芝大門の新事務所にて業務を開始いたしますので、これまで以上に両部門の連携を密にし、協会の円滑な運営を目指します。

以上共通で2つ、産業ガス部門、医療ガス部門でそれぞれ4つの課題と本年度からの3つの取組みを申し上げましたが、引続き皆様方の協力、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご出席の会社の益々の発展、ご隆盛を、また出席の皆様方の益々のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。



定時総会の模様

産業ガス部門 新役員

(敬称略・順不同)

平成25年8月1日現在

理事

代表理事(会長)

豊田 昌洋(とよだ まさひろ)

エア・ウォーター株式会社
代表取締役副会長

理事(副会長)

渡邊 秀生(わたなべ ひでお)

日本液炭株式会社
代表取締役会長

理事(副会長)

間 邦司(はざま くにし)

太陽日酸株式会社
代表取締役副社長

理事(副会長)

鏑木 正(かぶらぎ ただし)

東京ガスケミカル株式会社
代表取締役社長

理事(副会長)

北代 耿士(きただい こうし)

日本エア・リキード株式会社
取締役会長

理事(副会長)

中井 喜三(なかい よしぞう)

株式会社リキッドガス
代表取締役社長

理事(副会長)

牧野 明次(まきの あきじ)

岩谷産業株式会社
代表取締役会長 兼 CEO

専務理事代行

林谷 英司(はやしたに えいじ)

日本産業・医療ガス協会
事務局

理事(副会長)

小池 哲夫(こいけ てつお)

小池酸素工業株式会社
代表取締役会長

監事

代表監事

森川 宏平(もりかわ こうへい)

昭和電工株式会社
執行役員情報電子化学品事業部長

理事(副会長)

竹内 弘幸(たけうち ひろゆき)

高圧ガス工業株式会社
代表取締役社長

監事

藤井 恒嗣(ふじい こうじ)

東邦アセチレン株式会社
代表取締役社長

産業ガス部門 評議員・顧問

(敬称略・順不同)

平成25年8月1日現在

評議員

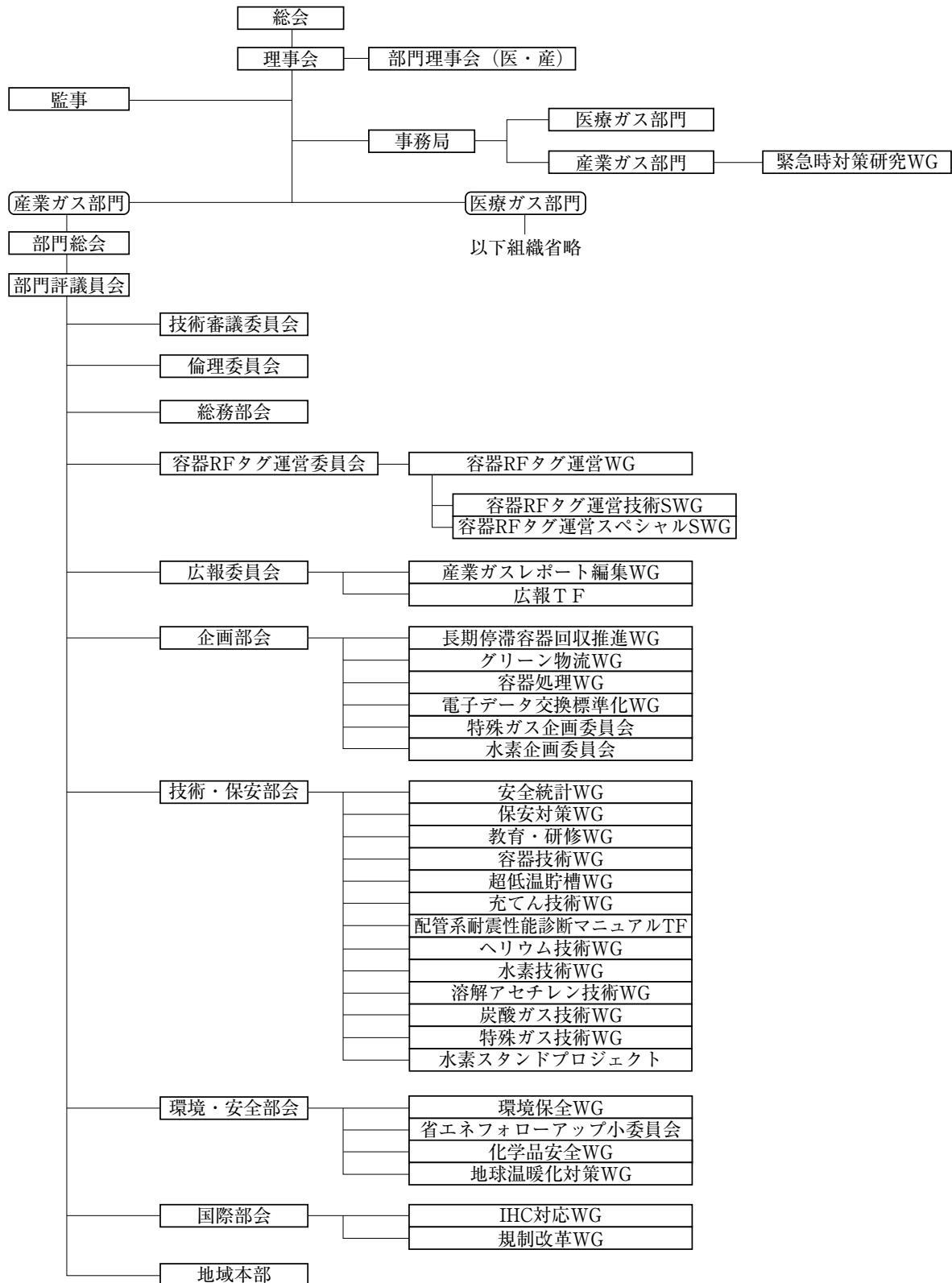
豊田 昌洋	エア・ウォーター(株) 代表取締役副会長
間 邦司	太陽日酸(株) 代表取締役副社長
北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
牧野 明次	岩谷産業(株) 代表取締役会長 兼 CEO
小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役会長
竹内 弘幸	高圧ガス工業(株) 代表取締役社長
渡邊 秀生	日本液炭(株) 代表取締役会長
鏑木 正	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
中井 喜三	(株)リキッドガス 代表取締役社長
森川 宏平	昭和電工(株) 執行役員 情報電子化学品事業部長
藤井 恒嗣	東邦アセチレン(株) 代表取締役社長
松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役 産業カンパニー長
天田 茂	太陽日酸(株) 専務取締役 電子機材事業本部 副本部長
武笠 紀秀	昭和電工ガスプロダクツ(株) 代表取締役社長
吉坂 和正	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
鈴木 敬治	高千穂化学工業(株) 営業部 部長
賢持 善英	太陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業本部 副本部長
上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
仲 進	ジャパンファインプロダクツ(株) 代表取締役社長
財満 正憲	太陽日酸ガス&ウエルディング(株) 代表取締役社長
田畑 実	イビデンケミカル(株) 取締役 ガス事業部長
曾我部 康	エア・ウォーター(株) 取締役 北海道支社長
坂本 雅博	太陽日酸(株) 執行役員 東北支社長
久保田正夫	東邦アセチレン(株) 代表取締役専務
笠谷 宏	岩谷産業(株) 首都圏支社長
佐波 充	相模アセチレン(株) 代表取締役
柚谷 滋信	太陽日酸(株) 常務執行役員 中部支社長
飯田 哲郎	名古屋酸素(株) 代表取締役社長
谷屋 五郎	宇野酸素(株) 取締役社長
姫尾 和彦	日本エア・リキード(株) 関西地域本部長
植田 秀樹	京都帝酸(株) 専務取締役
柳田 裕久	太陽日酸(株) 執行役員 中四国支社長
藤井 基博	藤井商事(株) 代表取締役会長
野村 茂	土佐酸素(株) 代表取締役社長
大橋 正明	四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
永江 裕	太陽日酸(株) 執行役員 九州支社長
田中 良典	エア・ウォーター(株) 執行役員 九州支社長

顧問

青木 弘	エア・ウォーター(株) 代表取締役会長・CEO
於勢好之輔	太陽日酸(株) 名誉相談役
田口 博	太陽日酸(株) 代表取締役会長

産業ガス部門 組織表

平成25年7月1日現在



常置部会・委員会・ワーキング（WG）名簿（敬称略・順不同）

平成25年7月1日現在

総務部会

部会長	間 邦司	大陽日酸(株) 代表取締役副社長
副部会長	市原裕史郎	大陽日酸(株) 取締役副社長
副部会長	波多野和彦	エア・ウォーター(株) 執行役員 事業企画部長
委員	平田 恭清	高圧ガス工業(株) 執行役員 営業管理部長
委員	牧瀬 雅美	岩谷産業(株) 専務取締役 兼 執行役員 産業ガス・機械事業本部長
委員	山本 幸夫	(株)リキッドガス 常務取締役 総務本部長
委員	福澤 秀志	東邦アセチレン(株) 取締役 管理本部 副本部長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームリーダー
委員	岡崎 隆	小池酸素工業(株) 常務取締役 管理部長
委員	安井 誠一	東京ガスケミカル(株) 専務取締役
委員	秋葉 和男	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 戦略企画本部長
委員	宮本 高	昭和電工ガスプロダクツ(株) 執行役員 総務部長

広報委員会

委員長	中井 喜三	(株)リキッドガス 代表取締役社長
副委員長	山本 幸夫	(株)リキッドガス 常務取締役 総務本部長
副委員長	諸石 努	大陽日酸(株) 管理本部 広報・IR部長
副委員長	岸 貞行	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 広報・IR室長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株) 広報部長
委員	牧瀬 雅美	岩谷産業(株) 専務取締役 兼 執行役員 産業ガス・機械事業本部長
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所 取締役 営業本部長
委員	富山 佳昭	東京ガスケミカル(株) 取締役 企画部長
委員	長岡 史明	高圧ガス工業(株) 執行役員 管理本部 副本部長 兼 総務部長
委員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株) ガス部 営業課 課長
委員	小島 厚	日本液炭(株) 管理本部 総務・人事部長
委員	中島 安博	昭和電工ガスプロダクツ(株) 経営企画部 主事
委員	府川 澄雄	(株)鈴木商館 取締役 管理本部 副本部長
委員	河島修一郎	帝人ファーマ(株) 在宅医療営業企画部 担当課長

広報委員会 産業ガスレポートWG

WG長	諸石 努	大陽日酸(株) 管理本部 広報・IR部長
委員	岸 貞行	エア・ウォーター(株) 上席執行役員 広報・IR室長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 広報・IR室 係長
委員	豊山 俊	日本エア・リキード(株) 広報部長
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 管理本部 広報・IR部 広報・IR課 担当課長
委員	小島 厚	日本液炭(株) 管理本部 総務・人事部長
委員	柴田 雅仁	(株)トリケミカル研究所 取締役 営業本部長
委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員	永田 敦子	日本エア・リキード(株) 広報部 マネージャー
委員	中島 安博	昭和電工ガスプロダクツ(株) 経営企画部 主事

広報委員会 広報TF

委員	大岡 光寿	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 工業ガス部 担当部長
委員	鎌田 暁子	大陽日酸(株) 管理本部 広報・IR部 広報・IR課 担当課長
委員	野田 優子	エア・ウォーター(株) 広報・IR室 係長

委員 永田 敦子 日本エア・リキード(株) 広報部 マネージャー

容器RFタグ運営委員会

委員長 竹内 弘幸 高圧ガス工業(株) 代表取締役社長
 副委員長 白井 清司 エア・ウォーター(株) 取締役 産業カンパニー
 産業ガス関連事業部長 兼 産業機材事業部長
 WG長 永野 訓司 高圧ガス工業(株) 理事 情報システム事業本部 システム営業部
 委員 黒木 幹也 高圧ガス工業(株) 取締役 東京事務所長 関東地区長
 委員 竹村 忠 高圧ガス工業(株) 理事 電算室 室長
 委員 横谷 和貴 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ヘリウムガス部 担当部長
 委員 川井 幸輔 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 担当課長
 委員 河原 英昭 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
 委員 網中 聡一 エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
 委員 橋本 和宏 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部
 シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー
 委員 塚本 健 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
 水素・特殊ガス部 係長
 委員 及川 哲 エア・ウォーター(株) システム部 部長
 委員 河野 靖彦 大陽日酸(株) ガス事業本部 営業統括部長
 委員 沼田 博美 大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 専門部長
 兼 ガス事業本部 RFタグ導入推進プロジェクト サブマネージャー
 委員 平尾浩二郎 大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部
 技術部 品質保証課長
 委員 壺内 俊宏 大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部長
 委員 厚沢不二夫 小池酸素工業(株) ガス部 営業課 課長
 委員 松田 保秀 日本液炭(株) 管理本部 情報システム部長
 委員 藤川 宝夫 (株)同栄 代表取締役社長
 委員 伊藤知佳子 全国高圧ガス容器検査協会 理事
 ((株)伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長)
 技術担当委員 坂東 竹夫 岩谷情報システム(株) 常務取締役
 技術担当委員 村上 泰之 岩谷情報システム(株) 開発本部 開発統括部 部長

容器RFタグ運営委員会WG

WG長 永野 訓司 高圧ガス工業(株) 理事 情報システム事業本部 システム営業部
 委員 竹村 忠 高圧ガス工業(株) 理事 電算室 室長
 委員 横谷 和貴 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ヘリウムガス部 担当部長
 委員 川井 幸輔 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 担当課長
 委員 河原 英昭 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部長
 委員 網中 聡一 エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
 委員 橋本 和宏 エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部
 シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー
 委員 白井 清司 エア・ウォーター(株) 取締役 産業カンパニー
 産業ガス関連事業部長 兼 産業機材事業部長
 委員 塚本 健 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部
 水素・特殊ガス部 係長
 委員 及川 哲 エア・ウォーター(株) システム部 部長
 委員 河野 靖彦 大陽日酸(株) ガス事業本部 営業統括部長
 委員 沼田 博美 大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 専門部長
 兼 ガス事業本部 RFタグ導入推進プロジェクト サブマネージャー
 委員 平尾浩二郎 大陽日酸(株) メディカル事業本部 バイオ・メディカル事業部
 技術部 品質保証課長
 委員 壺内 俊宏 大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部長
 委員 長谷川正泰 小池酸素工業(株) ガス部 生産技術グループ課長
 委員 藤川 宝夫 (株)同栄 代表取締役社長

委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会 理事 (株伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長)
委員	坂東 竹夫	岩谷情報システム(株) 常務取締役
委員	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 開発本部 開発統括部 部長
委員	上林 亮司	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 技術課 主任

容器RFタグ運営委員会技術SWG

SWG長	村上 泰之	岩谷情報システム(株) 開発本部 開発統括部 部長
委員	塚本 健	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 係長
委員	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 専門部長 兼 ガス事業本部 RFタグ導入推進プロジェクト サブマネージャー
委員	坂東 竹夫	岩谷情報システム(株) 常務取締役
委員	上林 亮司	高圧ガス工業(株) 情報システム事業本部 システム営業部 技術課 主任
委員	熊石 貴弘	エア・ウォーター・ソフテック(株) 大阪事業部 容器システムグループ リーダー

容器RFタグ運営委員会スペシャルSWG

SWG長	塚本 健	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 水素・特殊ガス部 係長
委員	永野 訓司	高圧ガス工業(株) 理事 情報システム事業本部 システム営業部
委員	竹村 忠	高圧ガス工業(株) 理事 電算室 室長
委員	河野 靖彦	大陽日酸(株) ガス事業本部 営業統括部長
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 担当課長
委員	橋本 和宏	エア・リキード工業ガス(株) オペレーション本部 シリンダーサプライチェーンマネジメント部 マネージャー
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株) ガス部 生産技術グループ 課長

企画部会

部会長	小池 哲夫	小池酸素工業(株) 代表取締役会長
副部会長	秋葉 和男	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 戦略企画本部長
副部会長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
委員	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役 産業カンパニー長
委員	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	池田 一雄	昭和電工ガスプロダクツ(株) 事業本部長付 担当部長
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 取締役 東京事務所長 関東地区長
委員	賢持 善英	大陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業本部 副本部長
委員	吉坂 和正	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
委員	田中 徹也	(株)リキッドガス 常務取締役 企画本部長
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株) 取締役産業ガス業務部長
委員	秋山 利一	東邦アセチレン(株) 営業企画部長

企画部会 特殊ガス企画委員会

委員長	吉坂 和正	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームマネージャー
副委員長	天田 茂	大陽日酸(株) 専務取締役 電子機材事業本部 副本部長
副委員長	鈴木 敬治	高千穂化学工業(株) 本社営業部 部長
代表者	北森 一孝	(株)A D E K A 執行役員 化学品営業副本部長
代表者	本多 竜二	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー 高純度化学薬品 ビジネスユニット長
代表者	阿部 友紀	関東電化工業(株) 営業本部 精密化学品第2部長
代表者	池谷 幹夫	ジャパンファインプロダクツ(株) 常務取締役
代表者	三坂 陽一	セントラル硝子(株) 電子材料営業部長
代表者	北岸 正樹	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 営業本部 本部長
代表者	林 直人	東亜合成(株) 基礎化学品事業部 高純度製品グループ グループリーダー
代表者	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
代表者	和田 光浩	三井化学(株) 精密化学品事業部 特殊ガスグループリーダー

企画部会 水素企画委員会

委員	松原 幸男	エア・ウォーター(株) 常務取締役 産業カンパニー長
副委員長	賢持 善英	大陽日酸(株) 常務執行役員 ガス事業本部 副本部長
副委員長	福田 俊司	昭和電工(株) 取締役 執行役員
副委員長	上羽 尚登	岩谷産業(株) 取締役副社長 兼 執行役員
幹事	神崎 昌久	尼崎水素販売(株) 代表取締役社長
代表者	菊原 誠	新潟水素(株) 代表取締役社長
代表者	守屋 憲二	伊藤忠工業ガス(株) 代表取締役社長
代表者	岡田 信久	岩谷瓦斯(株) 専務取締役
代表者	塩見 由男	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 代表取締役社長
代表者	見越 和宏	新日鉄住金化学(株) 代表取締役副社長
代表者	鈴木 慶彦	(株)鈴木商館 代表取締役社長
代表者	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
代表者	上田 義人	東曹ダイスイ(株) 取締役四日市工場長
代表者	田中 英行	東邦アセチレン(株) 取締役 生産・技術本部長
代表者	藤内 治敏	福岡酸素(株) 代表取締役常務 営業統括
代表者	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
代表者	尾川 知	丸由エ材(株) 常務取締役
代表者	小川 庄八	(株)渡商会 常務取締役 営業本部長

企画部会 長期停滞容器回収推進WG

WG長	河野 靖彦	大陽日酸(株) ガス事業本部 営業統括部長
委員	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	小林 誠一	日本液炭(株) 専務取締役 営業本部長
委員	田中 豪	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部 (東京) 部長
委員	椎名浩太郎	エア・リキード工業ガス(株) プロジェクトマネージャー
委員	黒木 幹也	高圧ガス工業(株) 取締役 東京事務所長 関東地区長
委員	帆足 樹	高千穂商事(株) カスタマーサービスセンター室 課長
委員	川井 幸輔	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 調達部 担当課長

企画部会 グリーン物流WG

WG長	網倉 吉彦	日本エア・リキード(株) 工業事業本部 バルクガスオペレーション統括部 物流業務部長
委員	野村三千昭	大陽日酸(株) 業務本部 ロジスティクス統括部 物流計画部長
委員	盛野 康雄	昭和電工ガスプロダクツ(株) 業務部長
委員	水津 久徳	岩谷産業(株) 業務部 物流担当 担当部長
委員	奥島 堅治	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部(物流)担当部長
委員	高橋 将智	エア・ウォーター炭酸(株) 営業企画グループ 業務担当課長
委員	水口 宏之	日本液炭(株) 業務・生産本部 企画業務部 企画業務課長

企画部会 容器処理WG

副部長	秋葉 和男	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 戦略企画本部長
WG長	久保 直樹	小池酸素工業(株) 取締役ガス部長
委員	鈴木 康春	全国高圧ガス溶材組合連合会 保安委員長(株)新東 取締役社長)
委員	関口 武尚	全国高圧ガス溶材組合連合会 事務局長
委員	脇坂 丈樹	(株)鈴木商館 総合営業部 部長
委員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査協会 理事 (株)伊藤高圧瓦斯容器製造所 代表取締役社長)
委員	滝沢 史朗	(株)関東高圧容器製作所 技術部部长
委員	田中 豪	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 エアガス部 (東京) 部長
委員	河野 靖彦	大陽日酸(株) ガス事業本部 営業統括部長

企画部会 電子データ交換標準化WG

WG長	沼田 博美	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 専門部長 兼 ガス事業本部 RFタグ導入推進プロジェクト サブマネージャー
委員	斉田 修実	大陽日酸(株) 管理本部 情報システム部 システム課長
オブザーバー	木村 昇男	(株)ジャパン・サービス インフラサービス部 副部長
オブザーバー	伊佐治和子	大陽日酸(株) 業務本部 業務統括部 システム開発部システム開発課 担当課長
委員	松永 覚	エア・リキード工業ガス(株) 財務経理部長
委員	秋宗 隆司	岩谷産業(株) 業務部 情報企画担当 担当部長
委員	及川 哲	エア・ウォーター(株) システム部 部長
委員	竹村 忠	高圧ガス工業(株) 理事 電算室 室長
委員	佐藤 輝彦	小池酸素工業(株) 情報システムグループ 課長
委員	三戸 勇一	(株)巴商会 環境安全部 容器管理課 課長
委員	矢口 正之	(株)鈴木商館 統合営業部 ガスチーム チーフ
委員	鈴木 敬治	高千穂商事(株) 本社営業部 部長

技術審議委員会

委員長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
委員	牧野 明次	岩谷産業(株) 代表取締役会長 兼 CEO
委員	楠木 正	東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
委員	生地 寛行	岩谷産業(株) 常務取締役 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
委員	勝又 宏	大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
委員	高橋 俊一	エア・ウォーター(株) 海外企画部長
委員	古本 理郎	日本エア・リキード(株) 常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長

技術・保安部会

部会長	北代 耿士	日本エア・リキード(株) 取締役会長
副部会長	生地 寛行	岩谷産業(株) 常務取締役 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
副部会長	勝又 宏	大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
容器技術WG長	保坂 昭一	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部長
超低温貯槽WG長	濱口 和夫	エーテック(株) 生産本部 技術部 部長(技術第3グループ)
充填技術WG長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
保安対策WG長	菅谷 英仁	岩谷産業(株) 環境保安部 担当部長
教育・研修WG長	塚本 元	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
安全統計WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
ヘリウム技術WG長	森 靖朗	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 ガス開発部 部長
特殊ガス技術WG長	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造・エンジニアリング本部 本部長 兼 東日本製造技術部 部長 兼 つくば特殊化学品センター センター長
水素技術WG長	御手洗浩二	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 業務部 水素・特殊ガス担当部長
炭酸ガス技術WG長	越部 薫	日本液炭(株) 技術顧問
溶解アセチレン技術WG長	野村 眞澄	高圧ガス工業(株) 代表取締役会長

技術・保安部会 容器技術WG

WG長	保坂 昭一	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部長
委員	賀陽 邦彦	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 ガス技術部 担当部長
委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
委員	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造・エンジニアリング本部 本部長 兼 東日本製造技術部 部長 兼 つくば特殊化学品センター センター長
委員	曳地 項次	(株)巴商会 技術本部 技術部 副部長
委員	網中 聡一	エア・リキード工業ガス(株) 安全・技術監査部長
委員	草野 宏	高圧ガス保安協会 機器検査事業部 検査企画課

技術・保安部会 超低温貯槽WG

WG長	濱口 和夫	エーテック(株) 生産本部 技術部 部長(技術第3グループ)
委員	平山 晃生	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント事業部 プラント・エンジニアリングセンター 設計部 プラント設計課 第二チームリーダー
委員	細谷 公憲	エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株) プロジェクト事業部 プロジェクト部 係長
委員	中村 康弘	超低温機器協会事務局
委員	斉藤 寿一	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 品質管理部長

技術・保安部会 充てん技術WG

WG長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	福田 浩二	岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員	菅野 鉄也	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 エンジニアリング部 供給技術課 担当課長
委員	中市 寛彦	東邦アセチレン(株) 技術部 次長
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株) 製造部 課長
委員	加納 郁久	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
委員	金田辰比呂	北酸高圧瓦斯(株) 常務取締役
委員	浜本 聖隆	宇野酸素(株) 技術本部 本部長
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ長
委員	三宅 新一	大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員	立花 靖司	土佐酸素(株) 常務取締役 製造・技術統括部長
委員	古賀 道義	福岡酸素(株) 取締役 技術統轄部長 兼 ガスエンジニアリング部長 兼 技術開発部長
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長

技術・保安部会 保安対策WG

WG長	菅谷 英仁	岩谷産業(株) 環境保安部 担当部長
委員	矢内 敏彦	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント&技術監査本部 安全・環境管理部長
委員	久和野敏明	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 保安管理部 保安管理課長
委員	大沼 倫晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	及川 行夫	上毛天然瓦斯工業(株) 保安技術部長

技術・保安部会 教育・研修WG

WG長	塚本 元	(株)リキッドガス 企画本部 企画部長
委員	片村 浩一	昭和電工(株) 情報電子化学品事業部 部長
委員	大沼 倫晃	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 課長
委員	藤岡 隆司	高圧ガス工業(株) 取締役 技術本部 副本部長
委員	柴田 善弘	大陽日酸(株) 技術本部 技術管理部 技術教育課長
委員	園田 竜	岩谷産業(株) 環境保安部 課長代理
委員	早坂 裕	東邦アセチレン(株) 技術部 課長

技術・保安部会 配管系耐震性能診断マニュアルTF

委員	中平 岩夫	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント&技術監査本部 インダストリアル・リスクマネジメント部長
委員	浅野 道	大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 プラント事業部 プラント・エンジニアリングセンター 設計部 副部長
委員	裏久保嘉昭	エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株) エンジニアリング事業部 空気分離装置部 副部長
委員	福島 正之	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 担当課長
アドバイザー	池田 雅俊	(株)プラント耐震設計システムズ 代表取締役社長

技術・保安部会 安全統計WG

WG長	加藤 保宣	エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 技術管理部長 兼 保安推進部長
委員	山田 正仁	日本エア・リキード(株) リスクマネジメント&技術監査本部 保安技術監査部 保安技術グループ主事
委員	田中 純一	大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 保安管理部 保安管理課 担当課長
委員	細山田 学	東京炭酸(株) 製造部長 兼 品質保証室長
委員	赤塚 広隆	高圧ガス保安協会 高圧ガス部 審議役

技術・保安部会 ヘリウム技術WG

WG長	森 靖朗	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 ガス開発部 部長
副WG長	道志 年章	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー 産業ガス関連事業部 プラントガス部長 兼 水素・特殊ガス部長
副WG長	金田 昌人	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループマネージャー
委員	池田 伸	(株)ジャパンヘリウムセンター 製造管理部長
委員	井出 正明	(株)巴商会 環境安全部 ガスターミナル 課長
委員	農頭 重喜	日本エア・リキード(株) 産業監査部長
委員	小林 篤	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 エンジニアリング部 供給技術課長
委員	小室 旭	(株)鈴木商館 低温機器部 専任部長
委員	大川 邦生	日本ヘリウム(株) 営業部部長
委員	加藤 要	東京ガスケミカル(株) 企画部 事業推進グループマネージャー

技術・保安部会 溶解アセチレン技術WG

WG長	野村 眞澄	高圧ガス工業(株) 代表取締役会長
副WG長	斎藤 祐輝	東邦アセチレン(株) 執行役員 環境保安・品質保証部長
WG委員	真藤 英明	関東アセチレン工業(株) 取締役工場長
WG委員	金田 孝雄	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 近畿事業所 姫路工場長
WG委員	中村 稔	大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 常務執行役員 技術本部長
WG委員	澤田 秀則	神奈川合同アセチレン(株) 常務取締役工場長
WG委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株) 代表取締役社長
WG委員	堂元 美樹	小池酸素工業(株) 千葉工場長
WG委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
WG委員	中西 清三	東海アセチレン(株) 代表取締役社長

技術・保安部会 炭酸ガス技術WG

WG長	越部 薫	日本液炭(株) 技術顧問
副WG長	菊池 義明	エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長 兼 生産技術グループリーダー
副WG長	澤田 昇	昭和電工ガスプロダクツ(株) 取締役 執行役員 生産本部 エンジニアリング部 技術管掌 兼 産業機材事業部 技術管掌
WG委員	及川 行夫	上毛天然瓦斯工業(株) 技術担当部長
WG委員	賀陽 邦彦	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 ガス技術部 担当部長
WG委員	塚本 元	近畿炭酸(株) 技術部長
WG委員	細山田 学	東京炭酸(株) 製造部長 兼 品質保証室長
WG委員	長谷川光一	知多炭酸(株) 本社工場長
WG委員	佐々木秀登	イワタニカーボニックス(株) 製造部長 兼 堺事業所長
WG委員	市川 敏之	宇部興産(株) 工業製造グループリーダー
WG委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん 取締役
WG委員	森田 寿一	共同炭酸(株) 製造課長
WG委員	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株) 神奈川工場長
WG委員	大澤 充史	国際炭酸(株) 取締役 工場長
WG委員	志賀 清	新日鉄住金化学(株) 君津ガス統括センター長
WG委員	松葉 昇	大洋化学工業(株) 工場長
WG委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長

WG委員	鯨井 寛司	東京ガスケミカル(株) 環境技術部長
WG委員	前原 郁美	福岡酸素(株) 品質管理部 次長
WG委員	小川 悦郎	(株)リキッドガス 営業本部 営業技術部長

技術・保安部会 特殊ガス技術WG

WG長 半材ガスチーム長	豊田 隆弘	大同エアプロダクツ・エレクトロニクス(株) 製造・エンジニアリング本部 本部長 兼 東日本製造技術部 部長 兼 つくば特殊化学品センター センター長 ジャパンファインプロダクツ(株) 安全推進部長
委員	野村 政幸	(株)ADEKA 鹿島工場 化学品製造部 化学品製造二課 係長
委員	平井 学	宇部興産(株) 機能品・ファインカンパニー 高純度化学薬品ビジネスユニット
委員	薬師神啓孝	関東電化工業(株) 技術本部 生産技術部 専任部長
委員	米村 泰輔	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ マネージャー
委員	金田 昌人	昭和電工(株) 基礎化学品事業部 管理グループ マネージャー
委員	三澤 一朗	住友精化(株) ファインガスシステム研究所 担当部長
委員	真子恵一郎	住友精化(株) 品質保証室 千葉品質保証課 品質管理グループ グループリーダー
委員	伊東 久和	セントラル硝子(株) 化成品技術部 課長
委員	星 友昭	大陽日酸(株) 電子機材事業本部 電子機材ガス事業部 電子機材ガス技術部 特殊ガス技術課長
委員 標準ガスチーム長	渡辺 勇夫	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 品質管理課 課長代理
委員	岩崎 恵樹	高千穂化学工業(株) 町田事業所 計測ガス工場 放電管・レーザーグループ 課長
委員	林 直人	東亜合成(株) 基礎化学品事業部 高純度製品グループ グループリーダー
委員	木曾 幸一	(株)トリケミカル研究所 常勤監査役
委員	村瀬 圭一	日本エア・リキッド(株) エレクトロニクス事業本部 安全・品質管理部 信頼性推進グループ長
委員	三本 敦久	三井化学(株) 機能化学品事業本部 精密化学品事業部 特殊ガスグループ 品質・技術サービスチーム
委員	上原 伸二	化学物質評価研究機構 東京事業所 化学標準部 技術第一課長

技術・保安部会 水素技術WG

WG長	御手洗浩二	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 業務部 水素・特殊ガス担当部長
WG事務局	井原 理博	岩谷瓦斯(株) 業務部 製品開発担当マネージャー
WG副事務局	岡本 歩	大陽日酸(株) 開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部 水素プロジェクト部 技術課 担当課長
WG副事務局	磯部 佳伸	昭和電工(株) 産業ガス事業部 産業ガスグループ 技術企画マネージャー
委員	佐藤 研一	尼崎水素販売(株) 所長
委員	生原 一樹	伊藤忠工業ガス(株) 技術保安部 部長
委員	岸本 顕嘉	岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室 ガス開発部 担当部長
委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株) 生産技術部長
委員	丸山 利和	新日鉄住金化学(株) 広畑製造所 技術グループ グループリーダー
委員	柏山 幸一	(株)鈴木商館 生産部 顧問
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	島田 寿郎	東京ガスケミカル(株) メンテナンスサービス部 技術グループ 兼 メンテナンスグループ マネージャー
委員	上田 義人	東曹ダイスイ(株) 取締役四日市工場長
委員	中市 寛彦	東邦アセチレン(株) 技術部 次長
委員	有岡 俊治	新潟水素(株) 部長
委員	平瀬 育生	日本エア・リキッド(株) アドバンスト・ビジネス&テクノロジー事業部 事業推進部 部長
委員	小林 隆	福岡酸素(株) 代表取締役常務 管理統轄
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
委員	澤田 庸介	丸由エ材(株) 専務取締役

委員 安久井 満 (株)渡商会 保安全管理部 部長

環境・安全部会

部会長 楠木 正 東京ガスケミカル(株) 代表取締役社長
副部会長 勝又 宏 大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
副部会長 坂本 公昭 エア・ウォーター(株) 上席執行役員 産業カンパニー オンサイト事業部長
副部会長 岩隈 秀峰 日本エア・リキード(株) 上席常務執行役員
リスクマネジメント&技術監査本部長
副部会長 安藤 憲雄 岩谷産業(株) 執行役員 環境保安部長

環境・安全部会 環境保全WG

WG長 佐藤 浩治 大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部長
委員 細川 純一 大陽日酸東関東(株) 水戸製造所長付
委員 上本 忠雄 岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員 菊池 義明 エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長
兼 生産技術グループリーダー
委員 磯部 佳伸 昭和電工(株) 産業ガス事業部 産業ガスグループ 技術企画マネージャー
委員 島田 和彦 日本ヘリウム(株) 横浜工場 工場長
委員 石垣 克浩 日本エア・リキード(株) ラージインダストリー事業本部
エネルギー管理部長
委員 富山 佳昭 東京ガスケミカル(株) 取締役企画部長
委員 武内 幸祐 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部 課長

環境・安全部会 省エネフォローアップ小委員会

リーダー 小長谷義明 大陽日酸(株) オンサイト・プラント事業本部 ガス生産技術部
委員 山根 広幸 日本エア・リキード(株) ラージインダストリー事業本部
製造技術部 電気・エネルギーグループ 担当部長
委員 宮川 卓男 エア・ウォーター(株) 産業カンパニー オンサイト事業部 生産技術部 課長
委員 森山 秀樹 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室
品質管理部 担当部長

環境・安全部会 化学品安全WG

WG長 平野 正 東京ガスケミカル(株) 品質保証部長
委員 桑野 晃一 岩谷産業(株) 産業ガス・機械事業本部 ガス技術・開発室
品質管理部 担当部長
委員 武内 幸祐 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 環境推進部 課長
委員 磯部 佳伸 昭和電工(株) 産業ガス事業部 産業ガスグループ 技術企画マネージャー
委員 土屋 茂 大陽日酸(株) 技術本部 品質保証統括部 品質管理部 品質管理課長
委員 三好 伸二 日本エア・リキード(株) 工業事業本部 安全・品質推進部 部長
委員 村瀬 圭一 日本エア・リキード(株) エレクトロニクス事業本部
安全・品質管理部 信頼性推進グループ長
委員 長谷川光一 知多炭酸(株) 工場長

環境・安全部会 地球温暖化対策WG

WG長 勝又 宏 大陽日酸(株) 常務取締役 技術本部長
委員 甲斐 守 大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部 環境管理課長
委員 網倉 吉彦 日本エア・リキード(株) 工業事業本部
バルクガスオペレーション統括部 物流業務部長
委員 菊池 義明 エア・ウォーター炭酸(株) 取締役 品質保証室長 兼 技術部長
兼 生産技術グループリーダー
委員 佐藤 浩治 大陽日酸(株) 技術本部 環境保安統括部 環境管理部長
委員 細川 純一 大陽日酸東関東(株) 水戸製造所長付
委員 上本 忠雄 岩谷瓦斯(株) 環境保安部
委員 磯部 佳伸 昭和電工(株) 産業ガス事業部 産業ガスグループ 技術企画マネージャー
委員 島田 和彦 日本ヘリウム(株) 横浜工場 工場長

委員	石垣 克浩	日本エア・リキード(株) エネルギー管理部長	ラージインダストリー事業本部
委員	富山 佳昭	東京ガスケミカル(株)	取締役企画部長
委員	武内 幸祐	エア・ウォーター(株)	コンプライアンスセンター 環境推進部 課長

国際部会

部会長	牧野 明次	岩谷産業(株)	代表取締役会長 兼 CEO
副部会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株)	海外企画部長
副部会長	古本 理郎	日本エア・リキード(株)	常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長
委員	井上 知浩	日本エア・リキード(株)	ラージインダストリー事業本部 製造技術部長
委員	仲山 一郎	大陽日酸(株)	技術本部 技術標準化推進部長

国際部会 IHC対応WG

副部会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株)	海外企画部長
副部会長	古本 理郎	日本エア・リキード(株)	常務執行役員 ラージインダストリー事業本部長
WG長	仲山 一郎	大陽日酸(株)	技術本部 技術標準化推進部長
委員	太宅 文昭	岩谷産業(株)	常務執行役員 産業ガス・機械事業本部 副事業本部長
委員	宮崎 淳	岩谷産業(株)	常務執行役員 技術部長 兼 水素エネルギー部長
委員	新垣 重雄	エア・ウォーター(株)	海外企画部 担当部長
委員	橋口 秀樹	日本エア・リキード(株)	工業事業本部 バルクガスオペレーション統括部 特殊ガス部長
委員	鯨井 寛司	東京ガスケミカル(株)	環境技術部長
委員	小泉 正男	(株)ハマイ	顧問
委員	田中 徹也	(株)リキッドガス	常務取締役 企画本部長

国際部会 規制改革WG

副部会長	高橋 俊一	エア・ウォーター(株)	海外企画部長
WG長	井上 知浩	日本エア・リキード(株)	ラージインダストリー事業本部 製造技術部長
委員	池富士 芳雄	岩谷瓦斯(株)	環境保安部
委員	柿本 明広	岩谷産業(株)	環境保安部 担当部長
委員	浦谷 明弘	エア・ウォーター(株)	保安推進部 担当部長
委員	井口 充弘	高圧ガス保安協会	高圧ガス部
委員	曳地 項次	(株)巴商会	技術本部 技術部 副部長
委員	久保田 裕士	大陽日酸(株)	技術本部 環境保安統括部 保安管理部長
委員	澤田 昇	昭和電工ガスプロダクツ(株)	取締役 産業機材事業部 技術管掌
委員	菊地 敏明	高千穂商事(株)	貿易課課長

緊急時対策研究WG

委員長	荒谷 幸治	エア・ウォーター(株)	産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(東京)課長
副委員長	葛上 真一	カンサン流通(株)	業務部長
副委員長	須賀 啓太	日本エア・リキード(株)	工業事業本部 バルクガスオペレーション統括部 エア・ガス部 主事
委員	日野 淳	大陽日酸(株)	業務本部 ロジスティクス統括部 物流計画部 バルクガス計画課長
委員	田結 莊嘉男	岩谷産業(株)	産業ガス・機械事業本部 調達部
委員	奥田 尚希	小池酸素工業(株)	ガス部 係長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームリーダー
委員	三好 英二	大陽日酸東関東(株)	土浦営業所長
委員	東川 達也	東京ガスケミカル(株)	産業ガス業務部 業務グループ 需給管理センター所長

注) 平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

産業ガス部門 事務局の新体制

専務理事代行	林谷 英司	
常務執行役員	達 嘉樹	
常務執行役員	増田 弘	
常務執行役員	小峰 史朗	
常務執行役員	和田 彰	
総務部長兼業務部長 (炭酸ガス担当)	山本 泰彦	
業 務 部 長 (特殊ガス、水素、アセチレン担当)	彦坂 稔	
経 理 部 長	大利 益三	
水素スタンドプロジェクトリーダー	小川 敬	
水素スタンドプロジェクトサブリーダー	岩井 健	
水素スタンドプロジェクトサブリーダー	藤本 祐樹	
北海道地域本部	事 務 局 長	高橋 宏史
東北地域本部	事 務 局 長	和田 敏
関東地域本部	事 務 局 長	小田 博
東海地域本部	事 務 局 長	渡辺 弘行
北陸地域本部	事 務 局 長	中村 孝
近畿地域本部	事 務 局 長	湯浅 正広
中国地域本部	事 務 局 長	桑田 満良
四国地域本部	事 務 局 長	中村 雅裕
九州地域本部	事 務 局 長	佐々木規人

平成25年度 JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム

日時：平成25年6月12日（水）13:00～14:50

場所：東京會館 9階 ローズルーム

技術・保安部会部会長 北代 耿士（挨拶要旨）



北代部会長

平素は、皆様には当協会の活動に対して多大なるご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

日常的に高圧ガスと向き合っている会員各社の皆様におかれましては、保安・安全の確保は何よりも優先すべきことであると考えます。自主保安を掲げてJIMGAのWGは精力的に活動し、これまでに刊行した基準指針類、安全ニュース、DVDやeラーニングなどの安全教育ツールは100件を超えています。これらはJIMGA会員会社の多大なご協力とご支援を得て達成したものでございます。誠にありがたく、心より感謝いたします。

本日のJIMGAシンポジウムは4つのテーマで講演して頂きます。

本日のシンポジウムが、皆様の日頃の業務のお役に立てることを切に願っております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いし、挨拶に代えさせていただきます。

プログラム

講演1. 技術・保安部会充てん技術WG（産業ガス部門）

「充てん工場の地震対策指針 追補（3.11東日本大震災を踏まえて）」

エア・ウォーター（株） 柴田 展良氏

講演2. 技術委員会（医療ガス部門）

「大震災の教訓と防災対策」

エア・ウォーター防災（株） 柏原 公明氏

講演3. 在宅酸素部会（医療ガス部門）

「在宅酸素濃縮器の発展の歴史・経緯」

山陽電子工業（株） 櫻井 秀行氏

講演4. 技術・保安部会 教育研修WG（産業ガス部門）

「JIMGA eラーニング『炭酸ガスの安全な取扱い』」

（株）リキッドガス 塚本 元氏

以下に、聴講者の皆様からお答え頂いたアンケートの一部を紹介します。

「充てん工場の地震対策は主要課題なので社内でも横展開をして周知徹底をはかりたい」

「eラーニングが興味深い。新人、女性社員教育に活かせるか早速試したい」

「大震災関連の発表については普段気づかない点についてもよく考察し、対策を考えていると感じた」

「指針の改訂や教育ツールの内容を再確認することができ参考になった」

「大震災の教訓と防災対策では本に書かれていない新たな情報提供があればよかった」

「eラーニングは毎年ガス種を増やして行って欲しい」

「講習内容4タイトルは多すぎる。2タイトル程度に絞る方が深い内容になると思う」

「レジメに記載されていない事柄をより多く話して頂きたい」

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。



シンポジウム風景

定時総会

日時：平成25年6月12日(水) 15:30～16:30

場所：東京會館 9階 ローズルーム

議決権数 1,078票

出席会員数 784票(委任状を含む)

議長：豊田 昌洋 会長

議事

事務局は定款第23条により議決権総数、出席者数、委任状数が本総会の全ての議案の決議に必要な定足数を満たしていると報告した。引続き総会の開会が宣せられた。豊田会長が議長席に着き、直ちに議案の審議に入った。定時総会に先立ち、医療ガス及び産業ガス部門総会が開催された。

<産業ガス部門総会>

第1号議案 産業ガス部門評議員選出の件

所属会社の人事異動等による産業ガス部門の評議員12名が推薦され、議場に諮ったところ全員の賛成により承認された。

<定時総会>

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

議長は平成24年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日)事業報告及び収支決算を議場に諮ったところ、全員の賛成により提案通り承認された。

第2号議案 平成25年度事業計画及び収支予算(案)の承認を求める件

議長は平成25年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日)事業計画及び収支予算(案)を議場に諮ったところ、全員の賛成により提案通り承認された。

第3号議案 理事・監事選任の件

議長は新理事1名の選任及び新監事1名の承認を議場に諮ったところ、提案通り承認され、選任された理事及び監事はこの就任を承諾した。

理事選任者：間 邦司

監事選任者：森川 宏平

その他報告事項

事務局より以下の報告があった。

(1) 本部事務所移転の件

7月1日から新事務所(東京都港区芝大門2丁目8番13号 サクセス芝大門ビル4階)で業務を開始する。

(2) 会員の動静について

(3) 今後の主要日程について

閉会

議長は以上で本総会における審議及び報告事項を全て終了したことを告げ、16時30分閉会を宣した。



定時総会風景

平成25年度 協会表彰式

6月12日開催の定時総会終了後、今年度から運用を開始した表彰制度に基づいて表彰式を行いました。表彰式では、協会の事業に協力して顕著な功績を上げられた、産業ガス部門11件、医療ガス

部門13件の個人や組織の代表者の方々に、会長から功労賞の表彰状と記念品を差し上げ、総会にご出席の会員の皆様から盛大な拍手を頂戴しました。受賞者の一覧は下記をご参照ください。

<産業ガス部門>

(順不同・敬称略)

表彰区分	受賞者名	内容概要	対象者数
技術功労賞	超低温貯槽WG 代表 濱口 和夫	「ローリー装備の長軸玉形弁ねじはめ輪破損によるLN ₂ 噴出事故対策」の作成	5名
業務功労賞	教育・研修WG 代表 塚本 元	安全DVD、e-ラーニングの作成	8名
業務功労賞	保安対策WG 代表 美澤 秀敏	高圧ガスハンドブック改訂版の作成	6名
災害功労賞	充てん技術WG 代表 柴田 展良	充てん工場の地震対策指針及び追補版の作成	14名
災害功労賞	東北地域本部 技術保安部会 代表 鈴木 富雄	「高圧ガス事業者の3.11東日本大震災被災体験事例集」及び「ヒヤリハット事例集」の作成	15名
標準化功労賞	化学品安全WG 代表 平野 正	「GHSに対応した産業ガスの分類・表示MSDSガイドブック」の作成	14名
標準化功労賞	IHC対応WG 代表 羽坂 智	「アルシン、ホスフィンの安全な取扱指針」の作成	8名
容器保安功労賞	東海地域本部 鋤柄 喜彦	東海高圧ガス容器管理委員会で平成15年から現在まで高圧ガス容器の保安に関する功績	1名
容器保安功労賞	四国地域本部 菅 清一	四国高圧ガス容器管理委員会で平成元年から現在まで高圧ガス容器の保安に関する功績	1名
地域活動功労賞	関東地域本部 松谷 厚雄	17年以上関東地域本部の産業ガス部門の協会運営に貢献	1名
地域活動功労賞	北陸地域本部 伊勢呂 庄太郎	18年間北陸産業ガス部門の協会運営に貢献	1名



表彰式の模様

技術功労賞		業務功労賞		業務功労賞	
超低温貯槽WG		教育・研修WG		保安対策WG	
濱口和夫	エーテック (株)	塚本 元	(株)リキッドガス	美澤秀敏	岩谷産業(株)
平山晃生	大陽日酸(株)	片村浩一	昭和電工(株)	矢内敏彦	日本エア・リキード(株)
細谷公憲	エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株)	大沼倫晃	エア・ウォーター(株)	久和野敏明	大陽日酸(株)
斉藤寿一	岩谷産業(株)	藤岡隆司	高圧ガス工業(株)	大沼倫晃	エア・ウォーター(株)
中村康弘	超低温機器協会	上島光雄	東京都高圧ガス保安協会	及川行夫	上毛天然瓦斯工業(株)
		園田 竜	岩谷産業(株)	小川幸士	元 ガス保安検査(株)
		早坂 裕	東邦アセチレン(株)		
		小川幸士	元 ガス保安検査(株)		
災害功労賞		災害功労賞		標準化功労賞	
充てん技術WG		東北地域本部技術保安部会		化学品安全WG	
柴田展良	エア・ウォーター(株)	鈴木富雄	大陽日酸(株)	平野 正	東京ガスケミカル(株)
福田浩二	岩谷瓦斯(株)	村上晃也	岩手工業(株)	神谷篤志	元 東京ガスケミカル(株)
小川光博	大陽日酸(株)	玉井義明	太平熔材(株)	矢崎隆一	大陽日酸(株)
中市寛彦	東邦アセチレン(株)	越後啓一	(株)東酸	池田 伸	(株)ジャパンヘリウムセンター
吉田智徳	相模アセチレン(株)	中村成伸	北日本アセチレン(株)	森山秀樹	岩谷産業(株)
加納郁久	大陽日酸(株)	進藤昌一	荘内ガス(株)	桑野晃一	岩谷産業(株)
板倉久郎	北酸高圧瓦斯(株)	長岡貢司	山形酸素(株)	進藤高章	日本エア・リキード(株)
谷屋五郎	宇野酸素(株)	佐藤 哲	カガク興商(株)	真子恵一郎	住友精化(株)
伊藤芳宣	知多高圧ガス(株)	河原祐路	東邦アセチレン(株)	武内幸祐	エア・ウォーター(株)
笠井勇人	中部エア・ウォーター(株)	桜井幸和	仙台日酸(株)	安田 匡	日本液炭(株)
三宅新一	大陽日酸(株)	篠原静夫	東北エア・ウォーター(株)	内藤章文	昭和電工(株)
立花靖司	土佐酸素(株)	原田敏兆	日本液炭(株)	渡邊一範	知多炭酸(株)
古賀義道	福岡酸素(株)	吉田 馨	仙台アセチレン(株)	渡辺勇夫	高千穂化学工業(株)
農頭重喜	日本エア・リキード(株)	泉田 実	(株)福島共同ガスセンター	菱池通隆	住友精化(株)
		笠井 健	北良(株)		
標準化功労賞		容器保安功労賞		容器保安功労賞	
IHC対応WG		東海地域本部		四国地域本部	
羽坂 智	大陽日酸(株)	鋤柄喜彦	大日本アガ(株)	菅 清一	菅機械産業(株)
大塚利明	元 高千穂化学工業(株)				
多田亮太	高千穂化学工業(株)				
西川幸伸	日本エア・リキード(株)				
丸子晃司	日本エア・リキード(株)				
仲山一郎	大陽日酸(株)				
石関貞夫	ジャパンファインプロダクツ(株)				
三澤一朗	住友精化(株)				
		地域活動功労賞		地域活動功労賞	
		関東地域本部		北陸地域本部	
		松谷厚雄	関東酸素工業(株)	伊勢呂庄太郎	日本液炭(株)

<医療ガス部門>

(順不同・敬称略)

表彰区分	受賞者名	受賞理由	対象者数
業務功労賞	在宅酸素部会（特別部会）代表 岸田 遼生	永年講習会を運営する外、事故防止DVDや患者・事業者向け冊子の制作等を通じ患者のQOL向上に貢献	18名
災害功労賞	エネックスジャパン株式会社	東日本大震災時に、宮城県との防災協定に基づく救援要請に応えるため自らの危険を顧みず救援酸素ボンベの運搬作業を何回も実施し災害時の被害低減等に貢献	1名
	株式会社田沼酸素商会		1名
	株式会社佐々啓		1名
	北良株式会社	永年協会活動・防災活動、保安講習会開催、災害時協定締結に貢献。大震災時には医療用酸素を無償提供し人命救護に貢献	1名
	東海地域本部 災害時対策委員会 代表 江場 大二	全国に先駆けて各県と防災協定を締結し、対策策定や防災訓練に取り組み、災害時マニュアルを策定、他地域の見本となっている	12名
標準化功労賞	大村 昭人	JIST7101改定原案作成委員会の委員長として関係機関との調整を行い、医療ガス設備の標準化に貢献	1名
	医療ガス製造・充てん部会 自主基準検討WG 代表 伊達 恒雄	実質的な国の基準となった自主基準の策定を行い、将来の国際整合化にも寄与することとなった	11名
保安教育功労賞	釘宮 豊城	MGR制度の準備段階からテキスト執筆・監修等に携り、自ら講師、試験委員会委員長も務めMGRの周知、質の向上に貢献	1名
	佐藤 哲	永年にわたり医療ガス保安講習会の講師を務め、また講師育成にも尽力されている	1名
	高澤 正樹	19年にわたり医療ガス保安講習会の講師を務める外、永年全国規模の715講習会の講師も務めている	1名
地域活動功労賞	林 豊	前身の医療ガス協会地域本部の設立に参画、以来保安・防災活動を牽引。阪神大震災時には医療用酸素を緊急手配、防災協定の早期締結に導いた	1名
	佐々木康二	過去6年にわたり四国地域本部長を務める等永年地域本部運営に携り、草の根講習会の運営・講師を務め、災害時協定の締結、訓練参加を主導した	1名



受賞者の皆様

業務功労賞		災害功労賞	
在宅酸素部会(特別部会)		(株)田沼酸素商会	
岸田遼生	元 帝人ファーマ(株)		
河島修一郎	帝人ファーマ(株)	災害功労賞	
高畠恒男	元 テルモ(株)	(株)佐々啓	
牧野 昱	元 フクダライフテック(株)		
原 浩一	エア・ウォーター(株)	災害功労賞	
高平進一	テルモ(株)	北良(株)	
加藤文之	フクダライフテック(株)		
大竹 清	(株)小池メディカル	災害功労賞	
古海敏恵	大陽日酸(株)	東海地域本部災害時対策委員会	
西坂 仁	エア・ウォーター(株)	江場大ニ	(株)エバ
米山昌志	バイタルエア・ジャパン(株)	大島康之	(株)大島商会
山田英俊	日本特殊陶業(株)	西尾 徹	静岡酸素(株)
石塚公彦郎	東邦アセチレン(株)	伊藤洋司	中京医療(株)
櫻井秀行	山陽電子工業(株)	松田美智春	大陽日酸(株)
安田 守	日本メガケア(株)	岸 勝俊	中部エア・ウォーター(株)
林 達男	チャートジャパン(株)	杉山智治	名古屋酸素(株)
岩亀 誠	ダイキン工業(株)	高橋伸之	名古屋日酸(株)
三浦秀明	フィリップスレスピロニクス(合)	南部 淳	南部薬品(株)
保安教育功労賞		境谷武久	日本エア・リキード(株)
釘宮豊城	湯河原厚生年金病院長	長房英則	(株)原田商店
		出村憲二	大陽日酸(株)
保安教育功労賞		標準化功労賞	
佐藤 哲	カガク興商(株)	大村昭人	帝京大学医学部名誉教授
保安教育功労賞		標準化功労賞	
高澤正樹	(株)千代田	医療ガス製造・充てん部会自主基準検討WG	
地域活動功労賞		伊達恒雄	(株)サイサン
四国地域本部		牧田啓吾	ティエヌメディカルエンジ(株)
佐々木康二	高松帝酸(株)	宇田川雅弘	昭和電工(株)
地域活動功労賞		大岡光寿	岩谷産業(株)
近畿地域本部		森山秀樹	岩谷産業(株)
林 豊	浪速酸素(株)	三浦 亨	エア・ウォーター(株)
災害功労賞		西本敬輝	エア・ウォーター(株)
エネックスジャパン(株)		平尾浩二郎	大陽日酸(株)
		岡村和也	日本エア・リキード(株)
		木村 広	日本液炭(株)
		瓦井浩之	光酸素(株)

懇親会

日時：平成25年6月12日(水)17:30～19:00

場所：東京會館 9階 ローズルーム

参加人数：270名

会長挨拶

会長 豊田 昌洋



本日は足元の悪い中、平成25年度定時総会にたくさんの方々にご出席頂きまして、誠にありがとうございました。本日の催しがすべて円満にかつ滞りなく終了しましたことをご報告申し上げますと共に、重ねて御礼申し上げます。また、ご多忙の中、厚生労働省からは原医政局長をはじめ幹部の方々、経済産業省からは大臣官房の渡邊審議官をはじめ幹部の方々、日頃お世話になっております高圧ガス保安協会からは作田会長をはじめ幹部の方々、また、我々の盟友でもあります全溶連からは深尾会長をはじめ幹部の方々、そしてその他諸団体の方々、本当にたくさんの方々にご出席賜りまして誠にありがとうございます。我々JIMGAもますます社会的な影響力が出てきたのではないかと、心からうれしく思っております。

昨年は大変難しい一年でした。皆さんご承知のように、ヨーロッパやアメリカ、BRICsもそれぞれ問題を抱えている状況の中、我が国の経済は東日本大震災の後遺症から抜け出せず、相も変わらず原発は動かずにエネルギーコストは上がるばかりです。私どもの電力代も東電、関電、九電による値上げの影響額は自家発電を除いて年間約88億円であり、東北、四国、北海道におきましても、現在値上げ申請中であり、この3地域が申請通りの値上げが認可されますと、業界への影響額は自家発電を除いて全国では年間約101億円となります。また、今後数か月間の燃料調整、円安による実質的な値上げも平成25年3月に比較し、さらに

kWhあたり1.2円程度考えられますので、これにより自家発電を除いて別途、全国で年間76億円の負担増となります。これを我々は自らの合理化や努力で消化することはもはや不可能です。皆様それぞれの立場で一生懸命努力をしてご理解をお願いしながら、事業が成り立つように進めて行く必要があるだろうと思っております。これを前門の虎とするならば、後門の狼は言うまでもなく、来年4月、再来年10月に行われるであろう消費税の引き上げです。これにつきましても、それぞれの対応を誤れば業界全体で私の計算ではざっと200億円程度の負担になると思います。この消費税問題はなんとしてでも全額お客様にご負担頂くように、皆様それぞれの立場でお願いして頂きたいと思っております。

電力問題、消費税とこの業界はいまや追い詰められております。お得意様はどんどん海外に出られ、国内のお客様は縮小し、産業ガスの使用量は間違いなく落ちており、末端のユーザーはいつの間にか店を閉めておられます。そういう中で、前門の虎、後門の狼は否応なしに我々の経営にふりかかってくる状況です。これを懸命に取組み、コンプライアンスを維持し、関係官庁のご指導も頂きながら、どのように対応して行くかは、皆様方の問題でもあり、JIMGAの問題でもあります。私は十分に考慮と検討を重ね、役員の皆様方に語りつつ、コンプライアンスに触れることなく、関係官庁のご指導のもとに一致団結して進めて行く方法があるのではないかと思っております。これを当面の課題として対応して参りますが、いずれにしても、自分たちの力で、自分たちの知恵で克服することが必要であり、そのために私どもが団結しなくてはならないと思っている次第です。世間の非難を受けることなく、我が業界が一定の地位を維持できるように今後も努めて行きたいと

思っています。なにかと難しい問題がありますが、会員の皆様方の向上・発展のために努力して参る所存です。どうぞ今後とも引続き、忌憚のないご意見とご指導・ご鞭撻を賜りますことを心からお願いいたします。

本日ご出席の皆様方の会社のご発展と皆様方のご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

ご来賓祝辞

経済産業省大臣官房審議官

渡邊 宏 殿

本日はご招待頂きまして誠にありがとうございます。現在、私ども経済産業省は、成長戦略の閣議決定に向けて一丸となって進めているところです。あらためて成長とは何かと考えてみますと、新しい付加価値をいかに作り出して行くかということだと思えます。さまざまな需要がある中で、ユーザーや起業家はいろいろなことを言います。その要望にきちんと対応して行くことは非常に重要なことですが、それだけでは御用聞きと紙一重になってしまいます。我々はユーザーが気づいていない課題に対して何らかの提案をし、隠れた課題を解決して、それに対する対価としての新しい付加価値というものを作っていくことが必要だろうと思えます。その企業行動をどういうふうにしたら促進できるだろうという観点で、成長戦略の中身を詰めて行きたいと考えている次第です。産業ガスの分野も新しい付加価値をまだまだ生み出す潜在能力を秘めているのではないかと思います。まさにこれから成長戦略を具体化して行く中で、産業界の皆様方からはこれまで以上に忌憚のないご意見とご鞭撻を頂ければと思っております。

最後に本日ご来席の方々のご健勝とご発展、そしてJIMGAのますますのご発展を祈念いたしま

して、挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

厚生労働省医政局長

原 徳壽 殿

本日はお招き頂き、ありがとうございます。本日の総会で24名の個人、組織に対し、協会として表彰されたと伺いました。



協会の多くの方が色々な分野で幅広く活動されている結果と存じます。

東日本大震災から2年経ちましたが、当時皆様には酸素を始めとする医療ガスを在宅酸素の患者さんだけでなく、病院で酸素ボンベが足りないという事態に対処して頂きました。当時私は防衛省にありましたが、私どもは酸素を運ぶことはできても作れない、緊急用の酸素が足りないという事態を経験し、防衛省においても酸素発生装置を装備品として装備しようという議論をしました。大震災の際には、協会の皆様には非常なご協力を頂き、その功績に対して本年3月11日に厚生労働大臣から協会に感謝状を贈呈させて頂きました。改めてこの場を借りてお礼申し上げます。

災害時に必要なインフラの一つに医療用ガスがあります。そのために協会で取組んで頂いている都道府県との「災害時における医療ガス供給協定」につきまして、今後どのような災害が起こるかわかりませんが、その際の大事な要素の一つであることには違いありません。日頃からこの活動を積極的に推進して頂きますようお願いいたします。

また、これから高齢化がどんどん進んで参ります。そんな中、医療サイドでは「在宅医療」を推進して行かねばなりません。皆様の業界としては小さなシェアかもしれませんが、酸素は人にとってなくてはならないものですから、在宅で酸素治療を安心して受けられるよう酸素の供給に万全を期して頂きたいと思えます。

最後にご参集の皆様のご健勝をお祈りして私の挨拶とさせていただきます。

ご来賓祝辞

高圧ガス保安協会会長

作田 穎治 殿

平成25年度の定時総会が滞りなく行われ、豊田会長をはじめ関係者の皆様には心からお祝い申し上げます。



昨年の一般高圧ガスの事故件数は379件で、前年に比べると79件減少しておりますが、平成23年は東日本大震災がありましたので、その案件86件を差し引きますと、7件の増加ということになります。高圧ガスの事故件数は、平成12年に増加に転じまして、以後10年以上増加し続けております。ちなみに10年前の平成14年の事故件数は139件で、平成20年には2.7倍まで増加しています。また、石油コンビナートにつきましては消防庁が調査をしていますが、平成20年は248件で、消防庁が統計をとりはじめた昭和51年から比べて過去最高の事故件数になります。これらのデータからわかるように一般高圧ガスの事故件数は着実に増えているということが言えると思います。事故の大半の原因は、ガス漏えいです。残念なことに、1年半の間に歴史に残るような大爆発火災事故が3件発生しております。いずれも死者を伴う事故で、発生した現場は日本を代表する大手の化学会社です。保安の確保には万全を期したはずのところこうした歴史的な大事故が起っています。これらの事故につきましては詳細な原因究明、再発防止対策も行われておりますが、3つの事故のうち2つは保安検査を自ら行うことができる認定事業者です。そういった意味でもこの事故は大変衝撃的でした。3つの事故にはいくつか共通点がございまして、そのひとつを申し上げますと、事故はいわゆる非正常状態のときに起き

ています。つまり何らかの製造プロセスにトラブルが起り、それを改善しようとしておおわらわになっているうちに、大爆発火災事故になってしまったということが言えると思います。他にも原因はありますが、いずれにせよ非正常状態に対する対策が十分ではなかったのではないかと指摘がされています。私ども高圧ガス保安協会としては、今後の調査においてこうした非正常状態に対する対策が十分になされているかどうか、保安システムを確立するだけでなく、そのシステムがきちんとまわっているかどうかという側面から十分に調査をして行きたいと考えております。

事故対策のためには経営トップが覚悟を決めて保安対策にのぞむことが大事だと思います。ご承知のように保安対策にはお金も人も時間もかかります。経営支援を導入しないと確実な保安対策はできません。経営トップが本気になって現場まで見に行き、第一線で保安に取り組んでいる人たちと膝を交えて意見交換をしながら、保安対策を具体的に考えて行くということが極めて重要ではないかと考えております。事故で一人の従業員が亡くなったということは会社から見れば一万分の一かもしれませんが、亡くなられた遺族の方にとりましてはその人がすべてです。愛する夫、手塩にかけて育てた子供、それを失ったときの悲しみ、喪失感は計り知れないものがあります。高圧ガスを取扱うということは、こういったリスクと背中合わせであるということです。このことを経営トップがまず認識し、高圧ガスを取扱う従業員の皆様方も同じような認識を共有することが大事だと思います。

今後共、JIMGAの皆様には保安の確保に大きなご尽力を賜りますようご期待申し上げますと同時に、ますますのご発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

乾杯挨拶

副会長 間 邦司

本日は天候が悪い中、関係官庁の幹部の方々、そして会員の皆様も北海道から九州、沖縄まで各地からお越し頂きまして、誠にありがとうございます。議事の内容については、ご出席の皆様はおわかりだと思いますが、中でも保安の重要性について話がありました。我々にとって保安は大前提だと思っております。しかし、その大前提のことができずに、1日1件以上はささいなことでも何かが起きており、皆様方の会社のどこかがその対応に追われているということだと思いますので、今後改めて行きたいと思っております。

日本産業・医療ガス協会のますますのご発展、会員の皆様のご隆盛とご繁栄を祈念いたしまして、乾杯の挨拶とさせていただきます。



中締め挨拶

副会長 鈴木 慶彦

大変厳しい日々が続いております。我々の業界がアベノミクスの恩恵を受けるのはいつになるのかはわかりませんが、長い目で見ると日本の産業界はあと12～13年で大構造改革が行われると読んでいますので、心配せずに12～13年後には新しい世界があるということをご期待したいと思っております。目先のことはともかく、日本はこのままだめにはならないと思っております。日本人は賢いですし、景気対策も的確にやっています。日本の未来のために我々は頑張らないといけないと思っております。12～13年後にJIMGAが立派に隆盛であるように、ご列席の皆様の後継者をご健勝でありますように祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



懇親会風景

平成24年度 事業報告

産業ガス部門事業報告

1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成 24 年 6 月 13 日

理事会

第 1 回：平成 24 年 6 月 13 日

第 2 回：平成 24 年 6 月 13 日

理事会・評議員会合同会議

第 1 回：平成 24 年 5 月 23 日

第 2 回：平成 24 年 11 月 28 日

賀詞交歓会

平成 25 年 1 月 11 日

全国事務局長会議

平成 25 年 1 月 11 日

臨時理事会

平成 25 年 3 月 11 日

2. 総務部会

第 1 回：平成 24 年 4 月 25 日

議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 24 年度理事会・評議員会合同会議、定時総会の開催について
- (3) 平成 23 年度決算案及び平成 24 年度予算案について
- (4) 広報活動の強化による組織の変更と広報委員会運営規程の改定について
- (5) 技術審議委員会運営規程の改定について
- (6) 入退会の会員について
- (7) 事務局職員の異動について
- (8) 会費検討WGの進捗状況について
- (9) その他

報告事項

- (1) 東京電力の値上げへの対応について
- (2) 夏期電力対策とタスクフォースの設置につ

いて

- (3) データ交換自主基準制定WG(仮称)の設置について

- (4) その他

第 2 回：平成 24 年 8 月 29 日

議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 会費検討WG検討結果報告

- (3) その他

第 3 回：平成 24 年 11 月 1 日

議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 売上高調査報告
- (3) 退会の会員について
- (4) 平成 24 年度産業ガス部門上期決算について
- (5) 評議員会・理事会合同会議の開催について
- (6) その他

報告事項

- (1) 会費検討WG検討結果進捗状況報告
- (2) その他

会費検討WG

- (1) 現行会費基準制定の制定経緯、会費増額の背景、JIMGAの事業目的に則った主要課題への取組みと今後の中期計画などを再確認し、その遂行に必要な事務局の体制、運営費用などを基に現行基準の問題点の洗い出しや各種シミュレーションを実施し、検討した。
- (2) その結果、昨今の経済状況下で全く新たなルールを作ることは現実的でなく、また実現は極めて困難であるため、会費検討の結論を次のとおりとする。

- ① 現在の会費体系を今後も継続する。
- ② 明らかに業態が変わっている会員には、

グループ(表)替えをお願いする。

- ③ 平成24年度実施の売上高調査の結果での会費の見直しをしない。
- ④ 新規の会員の加入を促進する。
- ⑤ 今後の課題を以下とする。
 - 1) 現在の基準を土台に、会費規程を制定する。
 - 2) 合併などによるグループ変更、区分変更のルール化は継続課題とする。
 - 3) 将来的には事業形態グルーピングや金額を見直し、抜本的に会費基準を改訂する。

表彰制度 検討小委員会・選考委員会

- (1) JIMGAでは表彰制度の規程、運用細則は既に平成21年6月に制定済であったが、運用は行っていなかった。今般JIMGA発足5年余経過したこともあり、より一層会員会社、JIMGAの認知、理解を得るため、平成25年6月からの運用を始めることとした。
- (2) 総務部会の傘下に検討小委員会と選考委員会を設置し、第1回目の運用の考え方を整理し、表彰受賞者の選考を行った。

3. 広報委員会

平成24年度は医療ガス部門にも活動範囲を拡大し、広報委員会は両部門を管掌範囲とし、広報活動を更に強化した。産業ガス部門の活動として、以下の5点を重点的に実施した。

- (1) ホームページの内容の充実
会員専用ページに「取引契約書モデル」、「容器管理指針発行状況」ページを設けた。
出版物ページのJIMGAnews掲載ページに、発行日記事の見出しを記載し、内容を解りやすく改善した。更にRFタグウェブサイト等内容の充実に努めた。
- (2) 産業ガスレポートの発行
9月末に秋号Vol.27、3月末に春号Vol.28を發

行した。定時総会、本年度の役員、評議員、常設部会・委員会名簿、組織表、技術・国際ニュース、地域本部活動報告、統計データ等とした。今回から名簿を本部、地域共にWGまで拡大し、役員の写真を掲載。「地域本部の活動報告」の内容充実に努めた。

(3) JIMGAnewsの発行

第9号(4月末)～第14号(2月末)を偶数月月末に発行した。各号4～5ページで協会行事のトピックスや組織の紹介を行った。特に下期からは会員紹介の新連載を開始し、医療ガス部門の記事を掲載して連携を図った。

(4) マスコミへの発信

6月13日定例会長記者会見を開催、電力問題への対応、JIMGA主要課題及び取組み状況を発表。14社17名が出席し、11紙(内一般紙1紙)で記事となった。11月28日定例記者懇談会を開催、電力エネルギー問題、主要課題及び取組み状況を発表。16社16名が出席し、11紙で記事となった。

2月12日、大阪にて臨時会長記者会見を開催、「関西電力(株)他電力会社及び経済産業省への電気料金値上げ抑制への要請内容と対応について」の対応等を発表。16社16名が出席し、15紙(内一般紙5紙)で記事となった。

4. 企画部会

- (1) 平成24年5月8日、11月5日の2回開催。各WGの活動報告の他、電子データ交換標準化WGの設置や取引契約書モデルの改定について審議を行った。
- (2) 長期停滞容器回収推進WG
 - ① 「容器管理指針」の発行支援は、平成24年5月長崎、8月静岡、平成25年1月熊本と平成8年に発行済みの長野を含め、発行済みが26都府県となった。

- ② 貸出容器の有償化に関して、考え方の意見交換を実施。延滞料、容器使用料、強制回収方式の導入について具体的に検討を行った。また、平成25年3月末発行のJIMGA会報「産業ガスレポート28号」にて特集記事として座談会「高压ガス容器の早期回収と海外の容器での取引の現状について」を実施。早期回収の啓発と延滞料から使用料への考え方を示した。

(3) グリーン物流WG

① CO₂排出量統計の実施

タンクローリによる製品輸送に係るCO₂排出量統計にて平成18年度を100として燃料原単位で平成23年は101.9となった。東日本大震災によるプラント停止やウエハーメーカー等の稼働減少が酸素、窒素、Ar、CO₂それぞれのガスの輸送効率に大きく影響し、燃料原単位を悪化させた。

- ② 新たなテーマへの取組みとして「エコタイヤのメリット調査を中期的に取組む」、「荷主としてのコンプライアンスの研究」、「委員会社若しくは協力運送会社のエコ運転推進活動の成功事例研究によるCO₂削減」を実施し、来期以降も継続課題として取組む予定。

(4) 容器処理WG

- ① 平成24年7月25日「高压ガス容器特別回収プロジェクト」との合同会議を開催。容器特別回収配布文書(ポスター)などの審議を行った。

(5) 電子データ交換標準化WG

- ① 8月29日キックオフミーティングを開催。計6回のWG会議とIT専門家を交えた項目検討会議、計7回の会議を開催。
- ② 作業の内容は大きく下記の業務面と技術面に分かれるが、業務面の対象、流れを決定するために委員各社へのアンケート

や会議による洗い出しを行った。その結果、テストデータを作成するまでに作業が進捗し、委員会社間でテストデータの交換を実施した。更にEDI業者を招き、EDIに関する勉強会を開催し、知見を深めた。

5. 容器RFタグ運営委員会

- (1) 平成23年4月に開始した全国展開フェーズ「Step4」の丸2年が経過。今年度は北海道、東北でも開始し、全国各地域へと拡大。3月末現在、9社58拠点で約25万本の容器へRFタグが装着。メーカー容器のRFタグを運用するディーラー数社に加え、充てん所を持つディーラー3社が自社容器へのRFタグ取付けを開始。全国展開の加速につながるものと期待。
- (2) 医療ガス容器へのRFタグ取付け・運用の課題整理が完了。
- (3) 普及・促進活動として、「各地域本部のRFタグ採用候補ディーラーへの採用要請個別説明」、「RFタグ開始準備編の説明会開催」、「全国高压ガス容器検査協会の講習会でのRFタグ取付け提案」を実施。
- (4) ISO規格化に向けた取組みとして平成24年7月ブリュッセル会議のWGで日本の提案内容が採用。平成25年2月ロンドン会議にてWD(Workin Draft)として承認。
- (5) 周波数帯移行への対応として、移行期間が平成24年7月25日から平成30年3月31日であるため、早い段階でのスムーズな移行を目指し、ソフトバンクと交渉中。

6. 技術審議委員会

- (1) 平成24年5月15日、11月21日開催。
- (2) 審議、承認案件は計10件。案件の一例は、
- * 水素ガス消費基準

- * e-ラーニング水素の安全な取扱い
- * セレン化水素の安全な取扱い指針
- * 充てん工場の地震対策指針 追補版

7. 技術・保安部会

(1) 平成24年5月11日、11月6日開催。部会全体の活動実績、計画の報告、承認。産業ガスレポート原稿依頼。

(2) 容器技術WG

① ISO/TC58 国内委員会への参画と基準原案の検討。ISO原案の審議は16件。

例えば

* 無線ガス自動識別技術を用いた識別と刻印(賛成)

* アセチレン容器の基本要件(賛成)

② TC58/SC4 国際会議への参加。RFタグのWD(作業原案)はJIMGA案を入れた修正案でPメンバー22カ国による投票が行なわれ、賛成13、反対ゼロ、棄権9で修正案が承認された。日本案が入った溶解アセチレン容器の基本要件の規格はFDIS(国際規格最終原案)に移行した。

(3) 超低温貯槽WG

① 日本のTC220への参加資格について他の業界団体との協調を得て、現在のOメンバー(投票権無し)からPメンバー(投票権あり)への変更を経済産業省、KHKに要請した。超低温技術はJIMGAにとり核心的、重要な技術であり、原案段階から積極的に参加して日本案を発することが目的である。

② 規制改革要望で容器製作用鋼板の裏表区別廃止については認められ改訂されることになった。他の要望事項も経済産業省と直接交渉を継続。

③ 超低温液化ガス充てん用フレキシブルホース、低温弁ねじはめ輪摩耗による液

化ガス噴出事故防止対策、CE日常点検など全国の地域本部で開催される保安セミナーで周知徹底する。

(4) 充てん技術WG

① 3.11東日本大震災を踏まえた地震対策指針追補版を作成し、技術審議委員会で承認され、JIMGA刊行物として発刊した。

② 全国地域本部で「地震対策追補版」と東北地域本部作成の「3.11東日本大震災被災体験事例集」を教材として保安セミナーを次年度に実施計画した。

③ 全国調査に基づきカードル技術指針の構成内容を検討した。国内法規に合致し、ISO規格を参考として構成を検討した。

(5) 保安対策WG

① 高圧ガス販売事業者のコンプライアンスを徹底するため、全溶連と共同でチェックリストの内容を検討した。セミナーも共催することで合意した。

② JIMGA作成中のCE自主保安検査基準についてKHKからKHK基準(KHKS)として共著の要請があった。検査方法など実務面ではJIMGAも協力し、KHKとタスクフォースを設置した。

(6) 教育・研修WG

① JIMGA e-ラーニング「水素の安全な取扱い」をホームページに掲載。地域本部のセミナーなどでe-ラーニング普及のプレゼンテーション。

② ガス別のe-ラーニングとして新規に「炭酸ガスの安全な取扱い」を決定し、炭酸ガス技術WGの協力を得て内容を検討した。

(7) 溶解アセチレン技術WG

① 溶解アセチレン製造事業所に現状の地震対策のアンケート調査を行い、結果をまとめて関係各社にフィードバックした。

- ② 「ラジアル炉」によるカーバイド残渣の処理テストを実施し、高含水率(80%)のまま消石灰、生石灰に乾燥・焼成できることを確認した。
- ③ ISO TC58の国際会議に委員を派遣し、会議の内容を委員に周知して今後の対応を検討した。

(8) 炭酸ガス技術WG

- ① 炭酸ガス関連会員20社の「総会」を期初に開催し、JIMGA技術・保安部会、環境安全部会、国際部会への派遣委員の活動報告を中心に情報の共有化を図る。
- ② 代表8社による定例会議で炭酸ガスに関する課題の紹介と「炭酸ガス保安講習会」を6地域本部で実施。
- ③ CE自主検査の取りまとめ及びe-ラーニング「炭酸ガス編」並びに「ヒヤリハット事例」の基礎資料提供の確認作業。
- ④ 「我が国における炭酸ガス事業の変遷」改訂版作成と「出荷・販売」実績の集計並びに炭酸ガス事業所の定修状況チェック。

(9) 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

- ① 特殊ガス企画委員会は国際部会に協力し、セレン化水素の安全な取扱い(和文)を完成させ、技術審議委員会に上程して承認された。この取扱い指針はJIMGAホームページに掲載され、JIMGA会員は全文閲覧が可能。
- ② 特殊ガス技術WGは前年度に改訂した特殊材料ガス77種のイエローカードを技術審議委員会に上程して承認された。このイエローカードを会員各社に配布し、各社のルートで普及に努めた。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

- ① 水素企画委員会は平成24年度圧縮水素仕向先別・荷姿別出荷実績集計表並びに平成25年度支部別水素プラント定期修

理計画表を作成。平成24年度の圧縮水素出荷実績は101,626千m³、前年比86%。

- ② 水素技術WGは「水素消費基準」の改訂3版を8月に刊行し、この普及を図るため平成25年2～3月に全国5か所で講習会を開催した。

(11) 安全統計WG

- ① 平成23年労働災害統計調査を実施し、分析を行った。死傷者件数26件、度数率0.70、強度率.012と昨年より悪化した値となった。
- ② 高圧ガス関係事故(災害)のトレース、分類、改正を推進。「JIMGA安全ニュース No.7」としてまとめ、技術審議委員会に上程、承認。

(12) ヘリウム技術WG

- ① 「液化ヘリウム取り扱い指針」の安全確認等内容を見直し、改訂作業を実施。
- ② デュワー容器での液化ヘリウムの輸出入についてWG内で勉強会を実施し、情報の共有化を図った。

8. 環境・安全部会

- (1) 平成24年5月16日、11月7日に部会を開催。各WGより活動実績および活動計画の報告を実施。

(2) 環境保安WG

- ① 平成23年度環境自主行動計画フォローアップ調査を行い、エネルギー原単位指数で74(1990年=100)を達成し、日化協の努力目標値の80の達成を確認。
- ② 省エネルギー実施事例のアンケートを実施。82件の事例の報告があった。
- ③ セパレートガスの平成23年度のLCI、CFPを作成。

(3) 化学品安全WG

- ① JIS(酸素・窒素・アルゴン)の改訂検討

実施。「アルゴン中の窒素分の分析として放電スペクトル法」を追加。

- ② 「GHSに対応した産業ガスの分類・表示・SDSガイドブック」の改訂検討。

(4) 地球温暖化対策WG

- ① 再生可能エネルギー特別措置法案7月1日法適用に向け、経済産業省他に意見、要望を提出。会員への情報提供実施。
- ② 日本経団連次期行動計画「低炭素社会実行計画」への対応・参加。日化協はじめ他産業団体と連携。
- ③ エネルギー・環境に関する説明会への参加、会員会社より意見集約と経済産業省への意見提出。

9. 国際部会

(1) 平成24年5月9日、11月21日に開催。IHC対応WG及び規制改革WG活動実績、年間活動計画報告、承認。IOMA (GC含む) への対応、台湾TIHPGIAとの技術交流会並びにIHC国際会議の対応。第32回IHC国際会議をJIMGA主催で、京都において開催した。

(2) IHC対応WG

- ① IHCの完了プロジェクトのJIMGA自主基準化の推進。20件程度の案件。

例えば、

- * シリンダー内部腐食の検出と防止
- * 往復動超低温ポンプ据付指針
- * 酸素と不活性ガスの安全な放出
- * セレン化水素の安全な取扱指針

- ② 検討中及び新規プロジェクトへの積極的な参画。20件程度の案件。

例えば、

- * 遠心式酸素圧縮機安全指針
- * 複層断熱容器の海上輸送指針
- * 低温貯槽充填時の過圧力の防止及び算定方法

- ③ JIMGA提案課題のフォローアップ。

* ヒヤリハット(電材編)

* 半導体用特殊材料ガスの安全な取扱い

* セレン化水素(JIMGA単独リードのプロジェクト)

- ④ 国際標準化作業のプラットフォーム業務開始。

- ⑤ IOMA及び地域別団体であるEIGA、CGA、AIGAとの交流、関係継続。

(3) 規制改革WG

- ① 規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、官への提出、実現に向けての行動。フレキシブルチューブの保安検査見直しは、3月末にパブリックコメントに出され、6月28日に改正が告示された。

- ② 平成13年からの継続審議中の14課題につき、引続きプロジェクトチームの検討等を通じて実現を図る活動。特に経済産業省への直接の要望を提示し、要望の実現を図って行く。例えば、材料試験における曲げ試験の表裏区別の緩和、食品添加物二酸化炭素の製造に関わる食品衛生管理者の見直し、在宅液化酸素装置の製造届出に関する要件緩和・見直し他。

- ③ 海外の規制、基準の調査、情報の発信。引続き調査等継続。

10. 地域本部と本部との一体運営

(1) 地域本部との情報共有化、一体運営の促進を図るために、豊田会長が全国のすべての9地域本部を訪問し、地域会員と打ち合わせを実施。

(2) 事務局長会議を平成25年1月11日開催。豊田会長地域訪問時の要望等に対する対応・対処について、内部監査結果報告について打合せを行った。

平成24年度 総会、部会、WG会議等開催記録

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
総会・理事会・評議員会・賀詞交歓会等					
1	平成24年度産業ガス部門総会・定時総会	産業ガス部門総会 1. 産業ガス部門評議員選任の件 定時総会 1. 平成23年度事業報告及び決算の承認を求める件 2. 平成24年度事業計画及び予算の承認を求める件 3. 評議員、理事及び監事選任の件	1回	6/13	
2	理事会	第1回 1. 平成24年度定時総会議案について 2. 規程の一部改訂について 3. 新入会員の承認について 第2回 1. 代表理事(会長)及び副会長等並びに部門別理事会所属理事の選任について 2. 総会等における会長に事故があるときの議長就任順位について	2回	6/13 (第1回、2回)	
3	臨時理事会	1. 報告事項(①電力問題への対応、②表彰制度の運用開始、③RFタグの今後の普及活動について、④水素利用技術研究開発事業(NEDO事業)に関する岩谷産業・日本エア・リキードからの協力要請について、⑤事務所移転)	1回		3/11
4	理事会・評議員会合同会議	第1回 1. 平成23年度事業報告及び平成23年度収支決算報告の件 2. 平成24年度事業計画及び平成24年度予算(案)の件 3. 産業ガス部門理事及び評議員候補者選任の件 4. JIMGA規程の一部改訂の件 5. 入会希望事業者審査の件 6. 定時総会招集の件 7. その他報告事項(①会費検討ワーキンググループ(WG)新設の件、②電力対策タスクフォース新設の件、③東京電力㈱の値上げへの対応について、④会員の動静について、⑤今後の主要日程) 第2回 1. 入会希望事業者審査の件 2. 平成24年度上期活動報告の件 3. 平成24年度中間決算財務諸表報告の件 4. その他報告事項(①豊田会長の地域訪問について、②電力・エネルギーの取組みについて、③内部監査報告、④今後の主要日程⑤会員の現状について)	2回	5/23、11/28	
5	賀詞交歓会	東京會館にて開催	1回		1/11

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
技術審議委員会					
1	技術審議委員会	第1回 1. 国際会議出席旅費一部負担実績 2. 上提案(4件)の審議、承認 第2回 1. 国際会議出席旅費一部負担実績 2. 上提案(4件)の審議、承認	2回	5/15、11/21	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
総務部会					
1	総務部会	第1回	3回	4/25、8/29、11/1	
		第2回			
		第3回			
2	会費検討WG	産業ガス部門会費検討	3回	3/14、4/4、5/21	
3	表彰制度 検討小委員会	1. 表彰制度の運用開始について説明 2. 表彰規程・表彰規程の運用細則、推薦書等について説明 3. 本年6月の総会実施予定分について 4. 来年度以降の実施予定について	1回		2/8
4	表彰制度 選考委員会	表彰候補者の選考について	1回		4/18

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
広報委員会					
1	広報委員会	第1回	2回	5/9、11/13	
		第2回			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
広報委員会					
2	産業ガスレポート編集 WG	第1回	2回	9/13	3/8
		第2回			
3	産業ガスレポート編集 TF	原稿チェック	2回	8/31	3/1

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
企画部会					
1	企画部会	第1回	2回	5/8,11/5	
		第2回			
2	長期停滞容器回収推進 WG	第1回	4回	7/12,10/17、 12/13	3/21
		第2回			
		第3回			
		第4回			

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
企画部会					
3	グリーン物流 WG	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. 総合エネルギー調査会高圧ガス及び火薬類保安分科会からの検討依頼について 3. モーダルシフト試算結果について 4. 液化ローリーのCNG化試算結果について 5. CO2排出量調査進捗状況について 6. 平成24年度活動方針について 7. 地球温暖化対策WG関連 8. その他 <p>第2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. 液化ローリーのCNG化、TGC様進捗状況について 3. CO2排出量調査に関する考察(意見交換) 4. グリーン物流検討テーマについて 5. その他 <p>第3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CNGローリー見学 2. 前回議事録確認 3. 委員会もしくは協力運送会社のエコ運転推進活動の成功事例研究によるCO2削減(各委員発表) 4. 荷主としてのコンプライアンスの研究について 5. その他(情報提供、タイヤ空気圧モニタリングシステム) <p>第4回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. CO2排出量調査について 3. エコ運転推進活動成功事例成果物確認 4. 荷主としてのコンプライアンスの研究について 5. 建交労からの要請について 6. 平成25年度の活動方針について 7. その他 	4回	7/12、10/17	1/17、4/17
4	容器処理WG 高圧ガス容器回収プロジェクト 合同会議	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年度高圧ガス容器特別回収プロジェクト議事録確認 2. 平成23年度高圧ガス容器特別回収結果資料審議(回収集計票報告、回収場所調査票報告) 3. 平成24年度高圧ガス容器特別回収配布文書(お願い文、回収要領、回収場所調査票、ポスター) 4. 放置容器処理事業特別枠中間報告 5. CRC西日本トピックス紹介 6. その他 	1回	7/25	
5	電子データ交換標準化WG	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. WG長の選任について 2. EDIの必要性と今後の進め方について 3. その他 <p>第2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. アンケート集計結果報告 3. 標準化対象プロセス範囲について(意見交換) 4. 標準化具体例について 5. その他 <p>第3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. アンケート集計結果報告 3. 標準化対象プロセス範囲について 4. 標準化具体例について 5. その他 <p>第4回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. 交換対象データ種類の検討 3. データ交換項目の検討 4. データ交換項目入力区分の検討 5. データ仕様の標準化対象項目 6. その他事項 7. サンプルデータ作成依頼 <p>第5回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. データ交換項目合意に向けて 3. データ交換システムについて <p>第6回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録確認 2. テストデータ交換 3. テストデータ作成によって判明した課題、改善点について各社発表 4. EDIに関する勉強会(SCSK株式会社) 15:00～ 5. データ交換方法等、今後の進め方について 6. その他 	6回	8/29、9/26、11/15	1/28、2/22、3/29

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
企画部会					
6	電子データ交換標準化項目検討会議	1. データ交換項目合意に向けて 2. 次回3月29日の会議の議題について 3. その他	1回		3/18

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
RF タグ運営委員会					

1	容器RF タグ運営委員会	第1回 第2回	1. 全国展開の状況 2. WG 活動報告 3. 技術SWG 活動報告 4. 普及・促進について 5. 平成24年度の活動方針と重要課題 1. 全国展開の状況 2. WGからの報告 3. 技術SWG 活動報告 4. 普及・促進について	2回	4/27、10/11	
2	容器RF タグ運営委員会 WG	第1～4回 第5回 第6～8回	1. STEP4 の進捗 2. WGの各種課題について 3. 技術SWGの各種課題について 4. 普及促進について 1. STEP4 の進捗 2. WGの各種課題について 3. 技術SWGの各種課題について 4. 普及促進について 5. 周波数帯移行について 1. 全国展開(STEP4)の進捗 2. 普及・促進について 3. WG 課題について 4. 技術SWG 活動報告	8回	5/31、6/26、 7/27、8/28、 11/20、12/17	1/31、 2/28
3	容器RF タグ運営委員会技術 SWG	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	1. ISO21007-2対応方針 2. RF タグ取付業務委託時の運用イメージと課題 (最終報告) 3. EPC コード利用申請状況 4. ウェルキャット独自M/W 開発着手 5. 「ヘッダーフォーマット定義書」改訂 6. 課題管理表 1. RFID 周波数変更に伴う新旧レスポンス検証報告 2. Windows 版M/Wver3.0障害報告 3. ドキュメント改訂報告 4. 課題管理表 1. ISO21007-2ワーキングドラフト 2. 周波数帯移行の技術的課題について 3. ウェルキャット独自M/W完成イベント要領検討 4. EPC シリアル番号重複発生 5. 課題管理表 1. ISO21007-2ワーキングドラフト 2. 周波数帯移行の進捗管理方法について 3. 住金機容器メーカーコード 4. 課題管理表 1. 周波数帯移行の進捗管理方法 2. ISO ロンドン会議 3. 課題棚卸し 4. 容器メーカーコード表改訂 等 1. バルブハンドル埋め込み型タグ測定結果 2. タグ交換進捗率の考え方について 3. サト-新製品貼付型タグ、小容器用タグ紹介(別紙) 4. システム構築ガイドライン修正案(別紙) 5. ISO 準備状況 6. 課題一覧 1. ISO ロンドン会議報告、今後の作業について 2. NDA 契約締結対象となる条件の検討 3. RF タグ廃棄方法の公開について 4. 課題一覧	7回	4/16、6/19、 9/19、10/15、 12/5	1/18、 2/19

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日		
				H24年	H25年	
技術・保安部会						
1	技術・保安部会	第1回 第2回	平成23年度活実績及び平成24年度活動計画報告 平成24年度上期活動進捗状況報告	2回	5/11、11/6	
2	容器技術WG		ISOTC58原案審議	4回	4/24、7/24、 10/30	1/24
3	超低温貯槽WG		ISOTC220原案審議、セミナー、規制改革要望	6回	4/13、7/2、 9/3、10/19、 12/14	2/26
4	充てん技術WG		地震対策指針、カードル技術指針	7回	4/18、6/5、 7/13、8/20、 10/9	1/23、 3/13
5	保安対策WG	第1～2回 第4～7回 第3回	CE自主保安検査基準、セミナー、全溶連チェックシート CEローリー-接続金具	7回	4/20、6/18、 7/30、8/17、 10/15、12/10	2/22
6	教育・研修WG		炭酸ガス e-ラーニング	6回	7/26、9/14、 10/25、12/12	1/28、 3/5
7	安全統計WG	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	ヒヤリハットアンケート集計方法検討 平成23年労働災害統計調査結果報告 安全ニュース「高圧ガス関係事故の推移と傾向」 ヒヤリハット事例集様式の検討 ヒヤリハット事例集の編集	5回	6/18、8/27、 10/9、12/4	2/18
8	ヘリウム技術WG	第1回 第2～4回	デュワー容器の輸出入と航空機輸送について 「液化ヘリウム取り扱い指針」の改訂検討	4回	5/10、7/20、 10/5	1/29
9	配管系耐震性能診断マニュアルTF	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	「耐震性診断マニュアル」の内容確認 既存配管図面による耐震性診断の検討 現地耐震診断の試行(川崎オキシトン(株)) 既設配管耐震診断説明会の実施(KHK主催) 既設配管耐震診断説明会の質問内容確認	5回	8/21、9/19、 10/16、12/10	1/15
10	CE自主検査指針TF		「CE定期自主検査指針」の作成	3回	10/1、12/3	2/7

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日		
				H24年	H25年	
環境・安全部会						
1	環境・安全部会	第1回 第2回	平成23年度活動実績、24年度活動計画 平成24年度上期活動進捗報告	2回	5/16、11/7	
2	環境保全WG	第1回 第2～4回	節電・省エネアンケート調査 節電・省エネ事例集の作成	4回	4/24、7/19、 10/23	1/23
3	化学品安全WG	第1～3回 第4回 第5回	JIS改訂検討、GHS関連の改正 JIS改訂検討：追加分析方法の調査・検討 GHS改正に対応してガイドブックの見直し	5回	4/10、6/8、 9/7、11/14	2/1
4	地球温暖化対策WG	第1・3回 第2回	再生可能エネルギー全量買取制度動向 「エネルギー・環境政策の選択肢」	3回	4/24、7/19、 10/23	
5	省エネフォローアップ小委員会	第1回 第2回 第3回	フォローアップ調査結果集計結果検討 フォローアップ調査結果まとめ、LCI調査 次期環境自主行動計画フォローアップ調査準備	3回	6/21、9/13	3/6

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
国際部会					
1	国際部会	第1回 IOMAGC、2WGの平成23年度活動・平成24年度活動計画 第2回 IOMAGC、2 WGの平成24年度活動中間報告他	2回	5/9、11/21	
2	IOMA	第1回 IOMA、理事会、GC：サンティアゴ(チリ) 第2回 IOMAGC：英国、エジンバラ	2回	11/10～13	5/8
3	THPGIAとの技術交流会	台湾 THPGIAとの第7回技術交流会：医療関連主体	1回	12/10～11	
4	CGA 創立100年祭	米国アリゾナ州フェニックスで開催	1回		4/8～10
5	IHC 対応 WG	IHC プロジェクト対応	5回	4/25、9/12、10/31	1/29、4/16
6	IHC 国際会議	第1・3回 Web.Conference 第2回 第31回 IHC 国際会議：フランクフルト(EIGA 主催) 第4回 第32回 IHC 国際会議：京都(JIMGA 主催)	4回	6/6、7/24～26	1/10、3/5～7
7	H ₂ SeAHTF 会議	第1～2回 前回宿題の検討、内容の検討 第3回 最終会議	3回	4/3、5/18、6/28	
8	O ₂ CAHTF	前回宿題の検討、内容の検討	15回	4/17、5/22、6/20、7/17、8/17、9/27、10/25、11/26、12/14	2/20、3/13、4/3、4/4、4/17、5/9
9	LCPAHTF	第1回 前回宿題の検討、内容の検討 第2回 最終会議	2回	4/20、6/14	
10	規制改革 WG	規制改革要望の検討	6回	2/6、4/9、6/18、9/10、12/5	3/1
11	経済産業省保安課との打ち合わせ	規制改革要望の打ち合わせ	2回	4/26、8/24	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
特殊ガス企画委員会・技術WG					
1	平成24年度定時代表者会議	平成23年度活動報告、平成24年度活動計画	1回	5/9	
2	統計作成 TF 会議	平成24年特殊材料ガス、標準ガス販売統計	2回		3/5、3/27
3	技術 WG 会議	第1回 平成24年度活動計画 第2～5回 JIS Z7253 対応警告表示ラベル 第6回 平成24年度活動まとめ、平成25年度計画	6回	4/17、6/7、9/6、10/25、12/19	3/19
4	標準ガスチーム会議	第1回 標準物質協議会対応、Ⓡ刻印検討 第2～3回 RF タグ、JIS Z7253 対応警告表示ラベル 第4回 容器則基本通達問題	4回	6/1、9/3、12/10	3/26
5	半材ガスチーム会議	JIS Z7253 対応警告表示ラベル	1回	10/19	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
水素企画委員会・技術WG					
1	平成24年度定時代表者会議	平成23年度活動報告、平成24年度活動計画	1回	4/27	
2	水素技術WG会議 第1回 第2回 第3回 第4回	平成23年度活動報告、平成24年度活動計画 研修(新エネルギーサテライト)、水素ガス消費 基準 水素ガス消費基準 平成24年度活動報告、平成25年度活動計画	4回	5/22、8/31、 12/7	3/15
3	水素ガス消費基準編集会議	水素ガス消費基準講習会用資料作成	5回	7/19、9/25、 11/2、12/7	1/16

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
溶解アセチレン技術WG					
1	溶解アセチレン技術WG会議 第1回 第2回 第3回	平成25年度活動方針、地震対策 カーバイド残渣処理、地震アンケート中間報告 地震アンケートまとめ、ISO会議報告	3回	6/1、10/2、 11/27	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
炭酸ガス技術WG					
1	炭酸ガス技術WG会議 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	他のWG活動報告検討、講習会資料作成、総会 準備 他のWG活動報告検討、講習会資料作成 他のWG活動報告検討、講習会立会者調整 他のWG活動報告検討、講習会派遣講師調整 他のWG並びにTF活動報告検討 他のWG活動報告検討	6回	4/25、6/20、 7/18、9/28、 12/18	2/25
2	炭酸ガス技術WG総会	1. 平成23年度活動報告と平成24年度活動計画 2. JIMGA各部会/WG活動報告 3. 第16回保安講習会開催要領	1回	5/18	
3	炭酸ガス保安講習会 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	1. 九州地域本部(福岡商工会議所) 2. 関東地域本部(大田区産業プラザ) 3. 東北地域本部(仙台ガーデンパレス) 4. 東海地域本部(愛知県産業労働センター) 5. 近畿炭酸(株)地域本部(大阪商工会議所) 6. 中国地域本部(広成ビル)	6回	9/26、11/7、 11/9、11/14、 11/16、11/20	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H24年	H25年
地域本部事務局長会議					
1	事務局長会議	1. 協会全体に係わる事項 2. 地域本部との意見交換	1回		1/11

産業ガス部門延べ会議回数 208回

平成25年度 事業計画

1. 主要会議

産業ガス部門総会・定時総会

平成25年6月12日

理事会

第1回：平成25年6月12日

第2回：平成25年6月12日

理事会・評議員会合同会議

第1回：平成25年5月22日

第2回：平成25年11月28日

賀詞交歓会

平成26年1月15日

全国事務局長会議

平成26年1月15日

2. 総務部会

- (1) 決算・予算審議
- (2) 定時総会、理事会、評議会開催の件
- (3) 入退会、職員異動
- (4) 表彰制度の運用
- (5) その他、規程の改定等審議

3. 広報委員会

- (1) JIMGAが果たす社会的責任やコンプライアンスへの取組みを的確に情報発信し、協会の地位向上を図り、協会全体の事業活動を支援するために以下の取組みを行う。
 - ① ウェブサイトの内容の充実。ウェブサイトの内容の更なる充実に努める。特に、英語のJIMGA紹介ウェブサイトを作成し、日本のみならず世界に情報発信を行う。
 - ② 産業ガスレポートの発行。活動・事業の記録書として、活動・事業の報告、重要課題への取組み、トピックス、統計データ等の内容で、9月末と3月末の年2回発

行する。

- ③ JIMGAnewsの発行。協会解説、ニュース等の通信紙として、活動、事業のダイジェスト、ニュース、会員紹介の内容で、年6回偶数月の月末に発行する。医療ガス部門の掲載などで内容の充実に努める。
- ④ マスコミへの発信。協会の動向や意志を協会トップや役員から直接発信するべく、記者会見や記者懇談会などを通じて、情報発信の機会をより一層広げ、パブリシティの充実に努める。6月、11月の年2回を定例記者会見とし、適時臨時記者会見を開催し、情報発信を行う。
- ⑤ 医療ガス部門との広報活動の連携強化。社会インフラとしての産業・医療ガスの認知度の向上と、ワンボイスでの情報発信により広報活動を強化する。

4. 企画部会

- (1) 各WG間での情報を共有し、保安確保のための活動を継続する。
- (2) 長期停滞容器回収推進WG
 - ① 平成24年度の成果、方向性を継承しつつ課題を設定する。各種ツールの整備を引続き行うと共に、業界に完成したツールの利用を促し、長期停滞容器回収を促進する。
 - ② JIMGAの会報、ウェブサイト等を活用し、長期停滞容器を回収するための各種ツールの普及に努める。
 - ③ 地域行政の「容器管理指針」発行について、未だ発行されていない行政に対する取組みを更に強化し、官民一体となった保安体制を推進させる。

(3) グリーン物流WG

- ① 地球環境問題を広義に捉え、業界として取組み可能な課題を取り上げ、幅広く議論する。
- ② 液化ガスローリーのCNG化検討。日本ガス協会若しくは会員会社のCNG走行結果から導入・実運用について検討する。
- ③ CO₂排出量統計の実施。CO₂排出量統計を実施し、その結果を考察し、更なるCO₂削減策を模索する。

(4) 容器処理WG

「高圧ガス容器特別回収プロジェクト」との合同会議にて同プロジェクトを推進する。

(5) 電子データ交換標準化WG

高圧ガス業界での取引に係るデータを標準化することによって、コストの削減と時間の短縮を目的とする。データ交換実験結果を基に、商取引、保安関連情報の標準化などの業務面での作業を完了する。技術面ではフォーマット、通信規約の確定を目標とする。

5. 容器RFタグ運営委員会

- (1) 引続きStep4課題の管理・解決、及び共有を図りながら普及促進を加速させる活動を推進する。また、医療用小容器へのタグ取付けなどハードの技術的課題を解決する。
- (2) 電波法改正に伴う950MHz帯から920MHz帯への周波数移行に伴い、産業ガス業界が不利益を被ることがないよう課題を整理し、ソフトバンクと交渉する。
- (3) ISO規格化に向けた取組み。平成28年1月までにISO規格化を目指し、平成26年2月パリ会議におけるCD(Committee Draft)承認に向けた活動を推進する。

6. 技術審議委員会

年2回開催し、JIMGAの活動の中心である技術、保安、環境、安全等に関して上程案を審議する。

7. 技術・保安部会

- (1) 年2回開催し、各WG間の情報を共有して技術、保安に関する検討を推進する。

(2) 容器技術WG

- ① ISO/TC58国内委員会活動。委員会への参加と基準原案の検討を行う。
- ② TC58/SC4国際会議へ参加する。
- ③ 容器自動認識(RFID)のISO規格原案(CD)に日本案を反映させる。
- ④ AE試験について調査する。

(3) 超低温貯槽WG

- ① ねじはめ輪摩耗による事故対策を既刊のJIMGA自主基準書に追加記載する。
- ② 国内法関連では、引続き高圧ガス保安法及びKHK基準等を詳細に検討、規制改革案件を抽出し、国際部会と共同で経済産業省高圧ガス保安室と直接折衝する。
- ③ ISO TC220国内委員会への参加とTC220国際会議に出席する。

(4) 充てん技術WG

- ① カードル自主技術指針を詳細に検討。実機による落下試験を実施する。
- ② 全国地域本部で地震対策指針追補版のセミナー実施、周知徹底する。

(5) 保安対策WG

- ① 高圧ガス販売事業者のコンプライアンス徹底のため、全溶連と共同でチェックリストの作成及びセミナーを開催する。
- ② タスクフォースを設置し、KHKと共同で自主検査指針の策定及びKHKS化に向け活動する。11月の技術審議委員会に上程し、同時にKHKとKHKSについての最終協議を行う。

- ③ 高圧ガスローリー乗務員保安指針の改訂（ねじはめ輪、保安責任者立会い追記）、11月の技術審議委員会に上程予定。

(6) 教育・研修WG

- ① e-ラーニング「炭酸ガスの安全な取扱い」をJIMGAのウェブサイトに掲載。セミナーなどでPRし、ガス業界やJIMGAの理解向上につなげる。
- ② 新規課題で酸素e-ラーニングの内容を検討する。

(7) 溶解アセチレン技術WG

- ① アセチレン製造事業所の耐震対策に関する啓発活動を推進する。
- ② カーバイド残渣の有効利用の実情調査及び問題点を抽出する。
- ③ RFタグ普及推進と現状の把握。
- ④ 基準・規格等の見直しを検討する。

(8) 炭酸ガス技術WG

- ① 第16回炭酸ガス保安講習会開催の総括、反省と次回への課題検討を行う。
- ② 炭酸ガス技術もSDS及びラベル見直し作業炭酸ガス関連規程類の制定。「炭酸ガスローリー乗務員保安指針」、「CE自主保安検査基準」の策定検討を行う。
- ③ 炭酸ガス技術WGによる現地研修会を行う。

(9) 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

- ① JIS Z7253対応の警告表示ラベルを作成し、技術審議委員会の承認を得た上で、各社で対応する。
- ② 必要に応じてMSDSの見直しを行う。
- ③ 半導体材料ガスならびに標準ガスの統計を作成する。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

- ① 「ヒヤリハット事例集（水素ガス編）」の改訂を行う。
- ② 各地域本部と連携して保安対策を推進

する。

- ③ 平成25年度圧縮水素仕向け別・荷姿別出荷実績、集計表、並びに平成26年度水素プラント定期修理計画表を作成する。

(11) 安全統計WG

- ① 事故情報の収集及び原因分析を行い、JIMGA ウェブサイトに掲載する。
- ② 労働災害統計を引続き実施、分析を行い災害防止に活用する。
- ③ 産業ガス業界の労働災害を中心としたヒヤリハットを収集し、内容を検討、分析して事例集を作成する。

(12) ヘリウム技術WG

- ① 「液化ヘリウム取り扱い指針」に安全確認等の内容を織り込み、教育資料として改訂を行う。
- ② 液化ヘリウムに関する情報の収集と共有化を行う。
- ③ ヘリウムバンドルの安全対策について検討する。

(13) 水素スタンドプロジェクト

平成27年からの燃料電池自動車の一般ユーザーへの普及開始に向けた、NEDOからの委託事業である水素ステーション関連技術基準検討ワーキングを立ち上げる。2つのテーマ「液体水素による貯蔵・水素スタンド規制・基準の整備」「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備」を実施するため、会員会社から出向者3名を受け入れ対応する。

8. 環境・安全部会

- (1) 3WGとの連携を密にして活動する。エネルギー政策の見直しと地球温暖化対策関連の動向をフォローし、電力多消費産業の立場から対応する。

(2) 環境保全WG

- ① 省エネルギーの更なる取組みと電力需給対策への対応。環境自主行動計画フォローアップ調査。参加65社(セパレート62社、液化炭酸3社)。
- ② 環境に関する会員会社の情報の共有化を行う。
- ③ 日本経団連の低炭素社会実行計画への取組み。

(3) 化学品安全WG

- ① GHS対応SDS及びラベルについて、引続き整備と啓発・普及に努める。
- ② 酸素・窒素・アルゴンのJIS改訂に向けて検討する。
- ③ 改正化審法や危険物輸送など化学品安全に関する情報収集と会員への提供。

(4) 地球温暖化対策WG

- ① 地球温暖化をめぐる政策審議、法制化の動きをフォローし、業界としての意見・要望を取りまとめ、政策に反映すべく活動する。
- ② 電力需給対策への対応と情報収集を行う。
- ③ 産業9団体、日化協等の産業団体との連携を図る。

9. 国際部会

- (1) IHC対応WG、規制改革WGの2WGとの連携
台湾THPGIAとの技術交流会は大震災後予定通り昨年12月に再開(第7回)、今年12月に引続き第8回目の技術交流会を開催予定。
IHC国際会議、IOMAへの対応。
- (2) IHC対応WG
 - ① IHC完了のプロジェクトのJIMGA自主基準化を推進する。
 - ② IHC検討中及び新規プロジェクトへ積極的に参画する。
 - ③ 対象案件が多くなってきたので、次の三

段階に分類することを決定。

* 今まで通り日本語に完訳。

* 重要部分のみ和訳。

* 表紙並びに目次を和訳し、本文は英文をそのままとしてJIMGAのアーカイブドキュメントとして保管する。

- ④ 従来から検討していたプラットフォームのアップグレードの導入による、IHC活動のコンピューター自動化を開始する。

(3) 規制改革WG

- ① 規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、官への提出、折衝、実現に向けての行動。経済産業省との直接の折衝により、より多くの規制改革要望の実現を目指している。“酸素充填容器の定期点検”及び“在宅液化酸素装置の製造届出に関する要件緩和・見直し”について、直接の対話を開始する。
- ② 海外の規則、基準の調査、情報の発信。
- ③ 会員への周知・PR。要望事項の経緯、成果の周知。

10. 地域本部と本部との一体運営

- (1) 本部と地域間の双方向の情報・連絡の発信や共有化を図る。
- (2) 地域本部でのセミナー、講習会の実施、RFタグの普及推進、長期停滞容器回収について、共同で取組む。

会員の現状、今後の主要日程

1. 会員の現状

平成25年4月1日現在

	医療ガス部門	産業ガス部門	合計
正会員*	769社	306社	1,075社
賛助会員	0社	23社	23社
海外会員	0社	5社	5社
合計	769社	334社	1,103社

※正会員社数は議決権を表す。

2. 今後の主要日程

	開催年月日	開催場所
平成25年度 第2回産業ガス部門・医療ガス部門 合同理事会・評議員会	平成25年11月28日(木)	メルパルク大阪
平成26年 JIMGA新年賀詞交歓会	平成26年1月15日(水)	東京會館
平成26年度 産業ガス部門 理事会・評議員会合同会議	平成26年5月21日(水)	東京會館
平成26年度 定時総会	平成26年6月10日(火)	東京會館

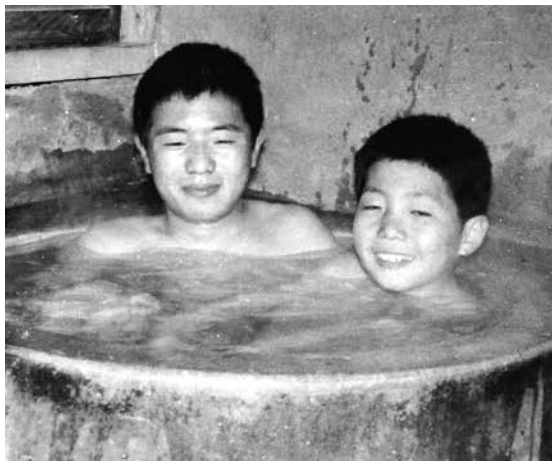
国東半島

JIMGA副会長 渡邊 秀生

二毛作の麦の取り入れは、雨との勝負である。本格的な梅雨の到来までに、刈り取った麦を脱穀し取り入れないと、半年の丹精が台無しになってしまう。だから、どこの田んぼでも、皆真っ暗になるまで働いた。そして、脱穀が終わった麦藁を、風呂の炊き付けにする分を除き、次の稲の作付けのために、田んぼで焼くのである。

夜の静寂に、麦藁の焼ける音が次々こだまし合い、一面を白い煙が包み込む。やがて、その黒なのか白なのか分からない、幻想の世界の中から、無数の蛍が湧き上がってくる。蛍は、焚付け用の麦藁を積み込んだ、リヤカーを引く私の周りで、戯れるように乱舞し、払っても振り払っても、いつまでも私にまとわりついてくる。一緒に帰る祖母も無口、疲れ切った私もただ無言であった。

人は、還暦を過ぎる頃から、子供帰りをするようで、最近では、瞼を閉じると、やたらにこのときの情景が浮かんでくる。



麦藁で炊きつけた当時の風呂（右側が筆者）

私は、大分県豊後高田市という、国東半島の西側の付け根に位置する、有名からは程遠い小さな町の生まれである。だから、「出身は？」と問われると、「大分県の国東半島」と応えることが多い。国東は「くにさき」と読むが、大分空港があるのと、「仏の里」として最近全国的に知られるようになってきたので、こう応える方が手っ取り早いからである。

国東半島は、宇佐神宮の八幡信仰と山岳修験とが融合し、独特の山岳仏教文化が花開いた地であり、奈良朝後半から平安・鎌倉時代にかけて、最盛期を迎えたようである。そのせいか、私の生まれた町にも、鄙には稀な雅な地名がいくつもあり、くだんの田んぼの近くを流れる川を「桂川」といい、山谷が比叡山そっくりな「西叡山」もある。

国東半島は、周囲100km位の円形の半島であり、最高峰の^{みたこ}両子山(721m)を中心として、尾根と谷とが幾筋も放射状に走る。そのため、隣の村里に行くにも、一度谷伝いに海岸線まで下りてから、また谷を上らねばならないという不便さがあった。国東半島には、その昔、六郷満山と謳われるくらい、多くの密教系寺院が存在したが、不便さゆえか、その多くが埋もれたまま残り、千年の昔を今に伝えてくれている。

半島内には、貴重な文化遺産も数多くあり、特にわが町、豊後高田市にある「富貴寺」は、平泉の中尊寺金色堂、宇治平等院鳳凰堂と並ぶ、日本三大阿弥陀堂の一つとして、国宝に指定されている。

「莊子」に、役に立たない木だからこそ、誰にも伐られることなく長生きができたという、無用の木の寓話があるが、国東半島は、素朴、無欲なるがゆえに、千年の歳月を生きて来られたのではなかろうか。古典が人生を説いてくれるように、国東半島も、人生の生き方や価値観を、我々に教えてくれている。

国東半島の名所というと、一番有名なのは、半島の中心点に位置する両子寺であるが、国東半島の真髄は、鄙びた古刹や野仏にこそある。寺院も、文殊仙寺、岩戸寺、天念寺、長安寺など挙げればきりが無いが、共通点は、絢爛の対極にある「鄙^{ひな}」である。その皆が、山や里の暮らしに溶け込んだ鄙寺なのである。また、国東塔などの石塔や仁王像などの石像も、そこかしこに点在しており、仏の里にふさわしい風景をかもし出している。

国東半島の全容は、陸地からは見づらいが、海からの景色は素晴らしい。私は帰郷の折に、大阪南港から新門司港へのフェリーに乗ったことがあるが、周防灘から見る国東半島の山々は、言い表せないほど厳かであった。また、国東半島北東部の海上に浮かぶ、「姫島」から見る国東半島も絶景である。

出典は分からないが、かの渋沢栄一翁が好んだという、「天意夕陽を重んじ、人間晩晴を貴ぶ」という古詩がある。日中どんなに晴れていても、夕方に雨が降れば、その日は一日雨が降ったように感じられるのと同様に、

人生も、晩年が晴れやかなものでないと、人生の全部がつまらないものを感じられてしまう。だから、人は晩年の生き方こそが一番大事だ、という意味だそうである。

そんな言葉に触発され、先日私も、人生晩晴の一助を求め、出身高校の在京同窓会に初めて出席した。なにしろ45年ぶりでもあり、まさに浦島太郎状態。同級生ですら、顔も名前も不確かで、冷や汗の連続という有様であった。また、男子よりも女子の方が、圧倒的に饒舌かつ元気で、おばさんパワーにたじろがされた一日でもあった。この場で市民権を得るには、とにもかくにもも連続して出席することしかない、ということも分かったが、果たして、来年出席する勇気が出るのか出ないのか、今のところ、悩めるハムレット?の心境である。

名実共に老境に差し掛かり、最近家内とは、終の棲家は^{つい}大分県にしようと話している。人生の最後は、生まれ育った国東半島の山河に見守られながら・・・というのは、贅沢すぎる望みなのかもしれないが、



同窓会写真（前列右から2人目が筆者）



技術・国際ニュース



1. 技術・保安部会

容器技術 WG

今年度も容器に関するISO規格の改訂・新規規格化案件に対し、容器使用者の立場から対応について検討することを中心に活動しています。

最近では、アセチレン容器の基本要求事項と型式試験の規格について、大きな進展がみられました。JIMGAとしては、これまでエキスパートを派遣して議論に参加するなど積極的に関与してきましたが、ようやくFDISがまとまり、つい先日承認されました。今後は国内基準・規格への反映などを検討して行く予定です。

JIMGA仕様のRFタグのISO規格化については、1月に開催されたISO/TC58/SC4においてISO21007-2:2013を改訂することが合意され、JIMGAの意見が反映されたCDが提示されました。現在、RFタグ運営委員会メンバーの協力を得て検討作業を進めております。

今年度注視しているAT試験の規格化動向につきましては、複合容器の再検査への適用が新規の規格化として検討されています。WGとしては最重要案件として、引き続き関連情報の入手と理解に努める予定です。

超低温貯槽 WG

平成25年度、当WGは下記の4点の事項について重点的に活動する計画です。

(1) 自主基準の作成

平成23年度のねじはめ輪への安全対策に関する成果を反映させるべく、高圧ガスローリ乗務員保安指針 液化酸素、液化窒素、液化アルゴン編 (JIMGA-T-S/62/10) 及びCE設置事業所・ローリ運行事業所関係基準 (JIMGA-T-S/11/08) の改訂を行います。

(2) ISO/TC220 (超低温貯槽) への参画

6月に従来のOメンバーからPメンバーに移行することができ、TC220国際会議 (U.S.AワシントンDCにて) にもPメンバーとして参加しました。今後はこれまで以上に積極的に、ISO規格案に対する国内意見の反映、情報の収集・発信に努めて行きます。

(3) 規制改革要望の抽出・実現

経済産業省に直接提出した超低温容器の容器製作用鋼板の表裏区別の廃止、容器製造時の膨張測定試験の廃止、超低温貯槽向けガス耐圧試験用流体 (空気・窒素) の明記について、規制改革WGを通じて各規制改革要望案を引続きフォローして行きます。

(4) 高圧ガス販売事業者保安セミナーでの講演

「CEの構造と安全な取扱い」「ねじはめ輪の安全対策」「超低温液化ガス (酸素・窒素・アルゴン) 充填用ステンレス製フレキシブルホースに関する取扱い自主指針」をテーマに、今年度は近畿、九州の各地域本部にて講演を行います。

充てん技術 WG

4月17日定例会議を開催し、新年度の活動計画を「カードル技術指針」の作成と昨年制定した「充てん工場の地震対策指針：追補」の普及啓発並びに工場見学研修と決定し、活動を進めています。「カードル技術指針」作成については、作業部会により検討を進め、5月28日、7月4日と精力的に部会を開催しています。この後、カードルの実機による落下、転倒試験等を行い、指針のバックデータとする予定です。また本指針については、今後水素技術並びにヘリウム技術WGからもご意見を頂き、特殊ガス技術、容器技術WGへも内容をご案内したいと考えています。この後、9月末には成案とし、10月に完成させ、11月の技術審議委員会へ上程したいと考えています。

なお下期の活動予定は、各社のご協力を頂きながら、11～12月頃、当WGの定例会議と工場見学研修を予定したいと考えています。

また当WGでは、6月12日開催されたJIMGA総会に先立つシンポジウムにおいて、昨年制定した「充てん工場の地震対策指針：追補」を発表しました。また総会では、これまでの地震対策指針等の作成作業の成果が認められ、産業部門の「災害功労賞」を受賞することができました。指針作成にご協力頂いた皆様や資料をご提供頂いた東北地域本部 技術保安部会の皆様には、あらためて厚くお礼申し上げます。

保安対策 WG

CE(液化酸素・液化窒素・液化アルゴン・液化炭酸ガス)の定期自主検査指針については、骨子が完成し、現在WG内にタスクホースを設置してJIMGA基準を制定すると共に、KHKと共同して保安検査基準(KHKS)の策定に向けて活動中です。

JIMGA発刊の「高圧ガス販売事業所自己診断指針」(平成19年12月)をベースに、中小販売事業者を対象とした保安指針の作成及び活用方法について全国高圧ガス溶材組合連合会と協議を継続中です。「高圧ガスローリ乗務員保安指針」については、ねじはめ輪、受入時の立合い等の記述を挿入すべく作業を開始しました。「高圧ガスハンドブック」の累計発行部数は本年7月31日現在、8847冊となっています。

教育研修 WG

(1) e-ラーニング個別ガス編への取組み

JIMGAのウェブサイトに掲載している教育用教材【高圧ガスの安全基礎知識】【水素の安全な取扱い】に加え、【炭酸ガスの安全な取扱い】を作成し、6月にリリースしました。会員企業向けの教育用だけでなく、一般ユーザーにも産業ガスの基礎知識の習得や危険性、取扱い方法について

知ってもらうことを目的にしており、安全に関する注意事項、事故事例、理解度テスト等を盛り込んだ内容になっています。現在、個別ガス編第3弾として【酸素編】を取り上げ、来年6月のリリースに向けて検討を進めています。

水素スタンドプロジェクト

JIMGAは今年度より、国家プロジェクトの一環としてNEDOの規制適正化事業のうち、「液体水素貯蔵・水素スタンドの規制・基準の整備に関する検討」「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討」の2テーマを受託し、新たに組織された水素スタンドプロジェクトにて取組んでいます。

「液体水素貯蔵・水素スタンドの規制・基準の整備に関する検討」は、高圧ガス保安法においてすでに基準化されている圧縮水素スタンドに、液体水素による水素貯蔵・払い出し工程を加えて追加基準化するものです。「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討」は、一日の処理量が30m³未満である小規模な水素スタンドの基準等の整備が目標です。

これらの基準を整備することで、このような形態の水素スタンドの市街地への建設や、ガソリンスタンドとの併設を可能とすることを目指します。これは、平成27年に計画されている燃料電池自動車の一般市販化のための水素インフラの先行整備に、大きく貢献するものと考えています。

安全統計 WG

(1) 事故情報の収集と活用

会員各社より高圧ガス事故、高圧ガス作業に関連する労災事故の提供を呼びかけ、必要に応じてJIMGAのウェブサイト(会員専用ページ：災害・事故情報)に原因・対策等を掲載し、情報の共有化を図ります。

(2) 労働災害統計調査の実施

従来通り労働災害情報の分析・検討を実施します。死傷者数、度数率、強度率等の数値を把握し、産業ガス業界の事故・災害防止の資料として活用します。

(3) ヒヤリハット事例集の作成

会員各社より高圧ガス作業に関連する労働災害のヒヤリハット事例を提出して頂き、作業区分ごとのヒヤリハット事例集として取りまとめ、JIMGAのウェブサイトに掲載しました。

(4) 高圧ガス関連事故（災害）の分類、解析

KHKの平成24年事故事例データベースを基に、事故原因をより詳細に分析（設備面、ソフト面）し、情報を提供します。

(5) 安全ニュースの発行

KHKと産業ガスの事故統計の比較による分析を行い、安全ニュースとして発行します。

(6) 産業保安に関する行動計画の検討

経産省より要請のあった産業保安に関する行動計画の検討を行い、素案を作成します。

ヘリウム技術 WG

(1) 液化ヘリウム取り扱い指針（平成25年度改訂版）を平成25年5月の技術審議委員会に上程し、承認されました。会員各社のユーザー・社員を対象とし、安全確認、物性等の内容を充実させてわかりやすく改訂しました。JIMGAのウェブサイトでご活用ください。

(2) ヘリウム輸送（特に海上輸送）での法的解釈等の問い合わせに対応するため、WG内で整理、分析の勉強会を開催して参ります。

(3) ヘリウムソース、海外情報の情報収集・分析を行い、共有化に取り組めます。特に、デュアー容器の安全対策に注力します。

(4) GHSに対応したSDS・ラベルについて検討を行う予定です。

(5) 長尺容器・液化ヘリウム容器の検査状況に

ついて現状の調査を行い、技術・安全対策をWG内で検討し、共有化を推進して参ります。

2. 環境・安全部会

環境保全 WG

平成23年の原子力発電所事故の影響により、全国の原子力発電所が停止し、一部は再稼働したものの、本格的な再稼働への工程は不透明な状態が続いています。原子力発電代替の方策として再生可能エネルギーの導入促進がなされていますが主力は火力発電であり、化石燃料の使用量増加に伴って電力のCO₂排出係数を押し上げ、「節電活動」による温室効果ガス削減効果への悪影響が懸念されます。

特に電力多消費産業である産業ガス業界は環境負荷低減活動としての省エネルギー／節電活動に取組み、JIMGAとして日本経団連「環境自主行動計画」に日本化学工業協会（日化協）を通して参加しています。その活動結果を取りまとめた「産業ガス業界の環境自主行動計画フォローアップ調査」報告書を日化協に提出しました。今後は「環境自主行動計画」に代わる次期行動計画「低炭素社会実行計画」に参加します。

夏・冬に節電要請が出されるなど電力の安定供給が懸念され、円安や化石燃料輸入量の増加による電力料金値上げなど、省エネルギー／節電活動は環境負荷低減だけでなく企業活動に重要な位置付けとなりました。昨年度、会員各社からアンケート方式で省エネルギー事例を募集し、その結果及び平成16年度、平成19年度に発行した「省エネルギー事例集」の事例を加え、「省エネルギー事例集平成25年度版」としてJIMGAのウェブサイトで公開しました。

化学品安全 WG

本WGで平成23年に作成し、JIMGAのウェブサイトにも記載されている『GHSに対応した産

業ガスの分類・表示・MSDSガイドブック』の見直しを行っています。今回の改訂は平成23年の国連GHS文書の改訂、「GHS対応ガイドブック」（日本化学協会編2012年版）の発行、新たに※JIS-Z-7253(2012)が制定されたことによります。この見直しは5月の技術審議委員会に上程し、ご承認を受けています。

今回の『GHSに対応した産業ガスの分類・表示・MSDSガイドブック』の見直しに伴いJIMGAのウェブサイトに記載されているMSDS(一般ガス単体12種類、混合ガス15種類)の改訂作業も進めています。

※JIS-Z-7253「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート」

3. ガス別技術 WG

炭酸ガス技術 WG

(1) 会議の開催

炭酸ガス技術WG総会の開催(1回/年)、定例会議(6回/年)

(2) 個別課題炭酸ガス保安講習会の総括・課題検討、液化炭酸ガス用のSDSおよびラベルの見直し、定例会メンバーの見学会実施。

進捗状況は次の通りです。5月17日にWG総会を行い、昨年度の活動実績報告、今年度活動計画の承認、関係WGの活動実績報告、炭酸ガス保安講習会の総括・課題検討を行いました。定例会議も予定通り4月、6月に開催し、関係WGの活動報告及び必要事項の検討、個別課題についての議論を進めています。

溶解アセチレン技術 WG

溶解アセチレン技術WGは平成24年度と同じく野村WG長体制で平成25年度も活動して行きます。東邦アセチレン(株)の委員が齋藤(絃)氏から齋藤(祐)氏に変更となりましたが、従来同様

10名で運営して参ります。

平成24年度は「アセチレン事業所の地震・津波対策」のアンケートをまとめ、会員各社の代表者や保安責任者等に配布して保安活動の強化を推進しました。また、カーバイド残滓を赤見製作所の「ラジアル炉」で乾燥・焼成処理のテストを行い、生石灰や消石灰が得られることを確認しました。

平成25年度も下記のテーマを目標に掲げて活動を進めて行く予定です。

- (1) アセチレン事業所の耐震対策に関する啓発活動の推進
- (2) カーバイド残滓の有効利用
各事業所の実情調査及び問題点の抽出
- (3) RFタグの普及推進と現状把握
- (4) 基準・規格等の見直し推進

水素技術 WG

平成25年度は、「ヒヤリハット事例集(水素ガス編)」の改訂に取り組んでいます。この事例集は平成2年に旧水素保安協議会技術部会が作成しましたが、これ以降見直しがされていません。そこで今回見直しを行い、水素取扱い者に周知を図って安全の確保に努めて行きたいと考えています。現在、サブWGにより会員会社から収集した事例の内容を検討しており、年度内にまとめて平成26年度の技術審査委員会での承認を目標として進めています。

また、昨年度着手し、改訂した「水素消費基準」をもとに、各地域本部の要望に応じて水素ガスに関する講習会を随時実施して行きます。

本年度も4回のWG会議を計画しており、第2回WG会議では9月20日に長崎次世代エネルギーパークを訪問して次世代型の太陽光発電システムを見学し、会員会社の技術・知識向上を図ります。

特殊ガス技術 WG

(1) JIS-Z-7253対応警告表示ラベルの作成について

昨年度より作成を実施した79種類のJIS-Z-7253対応警告表示ラベルについて、平成25年5月22日第1回技術審議委員会に上程し、承認されました。警告表示ラベルのファイルはCD-Rで会員各社に配布されますので、必要時には各社でPLラベルと併せて製作・貼付するようお願いします。

(2) MSDS等の文書改訂について

JIS-Z-7253対応のMSDSについては、本年度は取扱い品目の見直しを行う予定です。また、記載内容変更の必要が発生した場合、特殊ガス技術WGで審議を行いながら迅速に改訂を行って参ります。

(3) 国際部会への協力について

今後も継続して、要請があれば委員派遣等を行いながら協力をして参ります。

(4) RFタグについて

現状では特殊ガス容器への採用は困難ではありますが、継続して容器RFタグ運営委員会WG等の情報入手に努めて参ります。

(5) 各省庁・関係団体への連携と協力について

各省庁・関係団体へは、これまで通り極力密接な連携と協力を行って参ります。

4. 国際部会

IHC対応 WG

今年3月5～7日に京都にて第32回IHC会議を開催しました。国際整合化基準の新規と改訂プロジェクトを毎年合計20件以内として活動していますが、今後改訂が増加するため、新規のプロジェクトが減らないよう人材をうまく活用することが議論され、IOMAグローバル委員会で報告することとなりました。

5月8日にはスコットランドのエジンバラにてIOMAグローバル委員会が開催され、リスク評価と安全を切り口にして各協会の空気分離装置関連

基準を調査し、今後取組むプロジェクトを検討することが承認されました。具体的には次回8月に開催されるIHC会議にて議論する予定です。

5月22日にJIMGA技術審議委員会が開催され、次の整合化基準『遠心式酸素圧縮機安全指針』を上程し、承認されて『多層断熱式コンテナ及び小型貯槽の海上輸送指針』並びに『低温貯槽への過充填防止のための算定方法』の2件が確認されました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

6月12日に平成24年度功労賞に、IHC対応WGとして『アルシン・ホスフィン』の基準化に取り組んだ委員会にJIMGAより表彰が贈られました。継続的に表彰されるよう取組んでいきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

6月より国際整合化基準のJIMGA版翻訳会議をWeb/電話会議で行うことになりました。これまで、各社から選抜された委員がJIMGAの会議室に一堂に会し、半日もしくは1日かけて基準の翻訳を行っていたため、委員の皆さんの時間・費用の大きな負担を各社に強いる状況でした。このたび委員の皆さんが自社のオフィスに居たまま、PCの画面で基準の原文を見ながら電話にて会議を行うweb/電話会議を採用しました。現在、本システムを使用し、『高濃度酸素雰囲気下での火災』と『外槽の設計・運転指針』の2基準の検討を行っています。今後はこのシステムを使い、翻訳作業に係る負担を軽減しますので、ご承知頂くと共にご協力をお願いいたします。

規制改革 WG

従来から引続き会員各社並びにWG委員他からの規制改革要望について、実現を図る活動を積極的に進めています。従来通り、規制改革の要望については、基本的には2つの方法で行っています。

一つは内閣府が窓口となって進められている「国民の声」に対する要望、もう一つが、JIMGA

からの規制改革要望の実質的な受け手である経済産業省の商務流通保安グループ保安課への直接の規制改革要望です。「国民の声」には、現在「食品添加物二酸化炭素の製造に関わる食品衛生管理者の見直し」について昨年要望を提出しています。

しかし、受け手である内閣府等の事情があって昨年提出した要望が今年に出し直されており、未だその回答は得られていません。一方、昨年経済産業省との直接の規制改革要望話し合いにおいて取り上げた「酸素充てん容器の定期点検」及び「在宅液化酸素装置の製造届出に関する要件緩和・見直しの件」について、商務流通保安グループ保安課で、この2件を鋭意検討して頂くため、改めて

すべての資料を提出しました。商務流通保安グループ保安課においては、7月から担当等が異動となったため、現在改めてご検討頂いています。

従来から進めている個別案件で、窒素指定設備老朽化対策については、基本的な案は既に高压ガス保安協会から経済産業省に提示されています。検討抱き合わせとなっていた水素ステーションの案件が一段落したことにより、今後は検討がより進められる予定で、今期中にまとめ、実現されるように活動をして行く予定です。

規制改革要望については、上記以外に種々案件があり、今後も積極的に進めて行きます。引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

かいけつ・びんびんまる

“怪傑・瓶々丸”[®] シリーズ

Ver 8.0 シリーズ
新登場
(RFタグ対応版)

資料請求・訪問デモ
お申し込み随時受付中！
アシスト・ワン ホームページ
<http://assist1.co.jp>

おかげさまで容器管理システム納入実績NO.1
パソコン1台から大規模環境までご要望にあわせたご提案をさせていただきます

《トータル型管理システム》
かいけつ びんびんまる
“怪傑・瓶々丸”
Nシステム・N-Liteシステム

《オールインワン簡易管理システム》
かいけつ らくらくびん
“怪傑・楽々瓶”
簡易容器管理 簡易販売管理

《小型容器管理システム》
かいけつ かんたんびん
“怪傑・簡単瓶”
Jシステム (自社導入型)
Uシステム (最終消費先活用型)

システム概念

PICK UP SYSTEM
保安管理 法令順守の保安管理システム発売中

- 周知書
毎年発行の周知・受領書の印刷により、周知業務の改善
- 保安台帳
周知記録・MSDS記録・点検記録を保安台帳に反映
- ガス貯蔵量チェック
最終消費先 及び 自社の貯蔵量チェック、貯蔵量違反防止
- 点検記録
各種点検の記録 (社内・始業・充てん設備・最終消費先 等)

PICK UP SYSTEM
RFタグ対応 新電波法 (920MHz帯) 対応のハンディ近日発売

- ハンディの特長
大容量小型高性能ハンディ・RFタグ対応
バーコード読取性能UP (弊社従来機比較)
- 現場での作業効率を大幅に向上
作業効率改善・ミス防止を強化 (詳しくはお問合せ下さい)

新型RFタグ対応ハンディ

取扱店

神鋼商事 (株)		(株)富士通マーケティング	
東日本溶材部	TEL (03) 3276-2345	産業営業本部	TEL (03) 5804-8241
西日本溶材部	TEL (06) 6206-7186	東海営業本部	TEL (052) 211-1761
西日本中国グループ	TEL (082) 228-7444	神戸支店 第二営業部	TEL (078) 371-8582
西日本九州グループ	TEL (092) 431-4911	九州支店 ビジネス営業部	TEL (092) 472-4711
名古屋支社 機械・溶材部	TEL (052) 563-8201		

開発・販売元

株式会社 アシスト・ワン

東京本社 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場一丁目24番16号 (内田ビル)
TEL (03) 6233-9810 (代) FAX (03) 3232-2551

大阪支社 〒556-0011 大阪市浪速区難波中一丁目9番10号 (マッセ難波ビル1号館)
TEL (06) 6648-7780 (代) FAX (06) 6648-7788

地域本部の活動報告

北海道地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月17日(金)16:50～17:40

会場：札幌全日空ホテル「白樺の間」

本部出席者：

副会長 中井 喜三

常務執行役員 加藤 尚嗣

常務執行役員 和田 彰

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告承認の件

第2号議案 平成24年度収支決算報告承認の件

第3号議案 平成25年度事業計画(案)承認の件

第4号議案 平成25年度収支予算(案)承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

曾我部本部長挨拶

本日はお忙しい中、本総会にご出席賜りありがとうございます。また、本日の総会に本部より、中井副会長、加藤常務執行役員、和田常務執行役員にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年12月に政権が変わってから、株高、円安が進行し、景気回復への期待が強まっています。しかし、まだまだ北海道においては景気回復の実感がない状況にあり、今後の景気動向に期待しているところです。

我々を取巻く環境としては、電力の問題があります。昨年は夏と冬に北海道でも節電が実施され、特に冬季は大変厳しい電力事情を何とか乗り切った状況ですが、今年も引続き節電への取り組みが継続する状況にあります。さらに北海道電力も9月から企業向けで10%以上の値上げを申請しており、値上げが実施されると我々にとっては大きなコスト増の要因となり、仕事を完遂する中で避けて通れない問題です。

昨年度、北海道地域本部の活動としては、産業ガス部門では、保安セミナーを開催しました。会員の皆様には、準備段階から運営にご協力頂き、また、多くの会員の皆様にセミナーに参加頂きました。改めてご協力に感謝申し上げます。医療ガス部門では、9月7日に北海道庁知事室にて高橋知事と「災害時における医療ガス等の供給に関する協定書」を締結しました。また、幹事・会員に対して災害マニュアルの素案説明会を開催し、活発なご意見を頂きました。現在も道医療業務課と対応協議を継続しております。

今年度、産業ガス部門は「地震・震災に関する保安セミナー」を開催し、一層の保安啓発活動に努めます。また、本部が推進しているRFタグについて北海道地区での更なる普及促進活動の一層の強化を図ります。医療ガス部門においては「災害時マニュアル」を完成し、北海道医療業務課との連携体制を構築して行く予定です。また、災害時対策をメインテーマに医療ガス保安講習会の開催を予定しております。さらに、MGR営業所管理者の資格要件に関する要望について、JIMGA本部の協力を頂きながら問題解決して行く予定です。

今後、更なる活動を通して保安の強化推進、関連法令の周知徹底等に努め、当協会が責任ある団体として安全かつ適切な産業・医療ガスの提供に



曾我部本部長挨拶

寄与する団体であることを社会的に広く周知し、地域の発展のために取組んで参りたいと思いますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本日ご参加の皆様方の会社のご隆盛、ご健勝を祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。

中井副会長挨拶

日頃はJIMGAの活動にご支援、ご協力頂き、改めてお礼を申し上げます。

曾我部本部長のお話にもあったように、JIMGAが昨年度活動を強化したことは、電力値上げの問題です。JIMGAとして関係官庁、電力各社へ値上げ圧縮を要請して参りました。電気料金は我々の事業にとって重要な問題です。本部としても引続き会員の皆様のお役に立てるような働きかけを行なって行く所存であります。

次に、JIMGAの取組む課題として産業ガス・医療ガス部門においてそれぞれ4つの課題に重点的に取組みます。



中井副会長挨拶

産業ガス部門

- ①保安の一層の強化、推進
- ②所有者不明容器・放置容器撲滅のためにRFタグの普及推進

この1年で16拠点、11万本増加、現在53拠点で23万本に装着されていますが、平成27年に310万本への装着を目指しています。

- ③環境への取組み強化と電力問題
- ④国際統合化

医療ガス部門

- ①事故対策
草の根講習会を今年度も14ヶ所で開催することで事故撲滅に努めます。
- ②国際統合化
- ③MGR制度の拡充・充実
現在延べ3,092名のMGR認定者となっています。今年度も更新時講習の実施によりMGRの資質の向上に努めます。
- ④地域防災協定の展開

この1年で12道県と新たに締結し、現在38都道府県との締結に至りました。特に北海道地域本部におかれましては昨年9月に締結頂きました。地域本部皆様のご努力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

両部門共通の課題は2つあります。

一つはコンプライアンスの徹底です。二つ目は、我々の産業ガス・医療ガスが社会のインフラ及びライフラインとしての重要性を社会の皆様方にご理解頂くことです。

今年は、特に地域の皆様方にもお取組みをお願いしたいと思っています。

一つは先ほども申し上げましたRFタグの普及であります。現状毎月約1万本程度普及しておりますが、これでは平成27年度末の目標310万本には到底、到達することは不可能であります。これを達成するには、とりわけ地域の皆様方、会員の方々のご理解、ご協力が重要です。

もう一つは表彰制度の運用開始を今年から始めますが、これについて地域の方々のご理解、ご参加、お力をお借りしたいと思っています。権威ある賞にするためには、本部と地域が一体となって本表彰制度を盛り立てて行くことが重要ですの

で、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日のご出席の皆様方の益々のご健勝とご発展、またそれぞれの会社の発展隆盛を祈念して挨拶とさせていただきます。



総会風景

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

(1) 保安強化、保安啓発活動促進

保安啓発のセミナーを北海道溶材商業会と共催にて開催します。今年度のセミナーのテーマは、「地震・震災に関する保安セミナー」です。製造に従事される方だけではなく、広く販売関係に従事されている方にもご参加頂き、知識、技術の習得と保安啓発を推進して行きます。

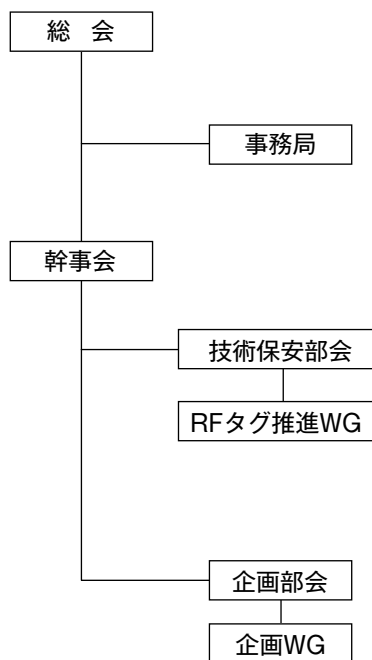
(2) RFタグ普及の推進

最新情報の提供及び普及準備の説明会等を開催し、普及活動を推進して行きます。

(3) 視察会開催による会員の交流

高圧ガスに関連する設備等の視察会を開催し、会員の交流を図ります。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同 役員



本部長
曾我部 康
エア・ウォーター(株)
取締役北海道支社長

幹事	松岡 喜義	日北酸素(株) 代表取締役社長
幹事	乾 隆	函館酸素(株) 代表取締役社長
幹事	中川 学	日本エア・リキード(株) 北海道支店長
幹事	吉澤 尚芳	東邦アセチレン(株) 札幌事業所長
幹事	片岡 伸行	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 管理グループリーダー
会計監事	矢野根 巖	日北酸素(株) 取締役相談役
事務局長	高橋 宏史	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 課長

技術保安部会 (RFタグ推進WG兼務)

部会長	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	石川 隆一	日北酸素(株) 技術部長
委員	中山 稔	函館酸素(株) 製造技術部 部長代理
委員	鈴木 浩二	日本エア・リキード(株) 北海道恵庭工場長
委員	渡辺 幹雄	東邦アセチレン(株) 技術課 課長
委員	三浦 克仁	高圧ガス工業(株) 札幌営業所長
委員	野村 真澄	北海道アセチレン(株) 代表取締役社長
委員	高橋 健	大陽日酸(株) 東北支社 札幌事業所長
委員	大内 直也	日本液炭(株) 北海道支店長
委員	土田 恭裕	北海道エア・ウォーター(株) 技術保安部 技術グループリーダー
委員	三浦 岳	共同炭酸(株) 工場長
委員	横山 則美	苫小牧共同酸素(株) 工場長

企画WG

委員	柴田 展良	エア・ウォーター(株) 総務部 事業所管理グループ(札幌) 技術グループリーダー
委員	山中 能生	エア・ウォーター(株) 産業カンパニー産業ガス関連事業部 エアガス部(札幌) 課長
委員	石川 隆一	日北酸素(株) 技術部長
委員	加藤 展弘	函館酸素(株) 設備工事部 部長
委員	籠池 智	日本エア・リキード(株) 北海道支店 係長
委員	渡辺 幹雄	東邦アセチレン(株) 札幌事業所 技術課 課長
委員	志田 勝広	北海道エア・ウォーター(株) 医療営業部 設備グループ グループリーダー
委員	高橋 健	大陽日酸(株) 東北支社 札幌事業所長
委員	唐崎 直文	日本液炭(株) 北海道支店
委員	山本 和彦	北海道アセチレン(株) 工場長
委員	小南 順治	高圧ガス工業(株) 札幌営業所 係長
委員	安彦 紀男	エア・ウォーター炭酸(株) 札幌支店長代理
委員	横山 則美	苫小牧共同酸素(株) 工場長
委員	三浦 岳	共同炭酸(株) 工場長

注) 平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東北地域本部

1. 合同定時総会

(JIMGA東北地域本部産業ガス部門、医療ガス部門)

日 時：平成25年5月23日(木) 15:45～17:00

会 場：ホテルメトロポリタン山形

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成25年度事業計画および収支予算(案)の承認を求める件

第3号議案 役員の一部選退任の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

来 賓

関東東北産業保安監督部東北支部

柏木 広憲 殿

山形県環境エネルギー部危機管理・

くらし安心局危機管理課 須藤 勇司 殿

高瀬 康信 殿

本部出席者

副会長 北代 耿士

常務執行役員 達 嘉樹

常務執行役員 鈴木 正晴

坂本本部長挨拶

東北地域の景気は、日本銀行仙台支店によると全体としては回復しつつあり、公共投資は震災復興事業を中心に大幅に増加しているとしています。一方、生産は下げ止まって持ち直しに向かっているとなっています。これまでの経験では、産業ガスの需要は消費先の生産が回復した後、半年から1年程度遅れて回復するようですから、まだまだ大変な時期が続くものと思われます。また、

医療ガスでは、ガスの販売量はあまり増減がなく、医療費の節減の中で単価の下落が続いているようです。

JIMGAでは、これまでと同様に保安を重視した活動を行って参ります。保安には間接費がかかりますので、直接費である程度の利益がなければ成り立ちません。東北電力では、一般向けの電力料金をこの7月ぐらいから11.41%値上げするようです。産業用電力も同様に値上げが避けられませんので、ガスのコストアップを吸収しながら、保安の資金を捻出する必要があります。各社におかれましては、大変難しい経済環境となっていますが、ぜひとも業界全体で保安活動が一步でも二歩でも向上するようがんばって行きましょう。

最後に本日お集まりの各社様の益々のご発展と業界全体の発展を祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。



坂本本部長挨拶

来賓ご挨拶

関東東北産業保安監督部 東北支部

柏木 広憲 殿

平成24年の高圧ガス災害事故は379件で、平成23年度の458件に比べると減少していますが、この5年間で災害事故件数が300件以上と高止まりの傾向になっています。そして、平成23年には



定時総会風景

千葉と山口で爆発火災事故が2件、平成24年には山口と兵庫で爆発火災事故が2件、地域住民や消防署員を巻き込む重大事故が発生しています。そこで、今年度は特に3つの課題に取り組んでいきます。一つ目は災害事故件数の低減を図り、重大災害や死傷事故の防止を図っていきます。二つ目は東日本大震災を教訓にして、地震津波の対策を着実に実施していきます。三つ目は高圧水素を利用する燃料電池自動車は、平成27年から一般普及が進みますので、これらの保安確保や規制に取り組んでいきます。

関東東北産業保安監督部東北支部としましては、関係団体や高圧ガス事業者各位と連携して、高圧ガス保安活動に全力を上げて取り組んで参りますので、皆様にはより一層のご協力を頂きたくお願い申し上げます。

山形県環境エネルギー部危機管理・

くらし安心局危機管理課

須藤 勇司 殿

高圧ガスは、自動車、機械、半導体、燃料電池、医療分野等の幅広い分野で重要な役割を担う存在となっています。一方、取扱いを誤ると、重大事故に繋がる危険性もあり、法令遵守や自主保安の確保は、生産、流通、消費などの段階でも極めて重要なこととなっています。

山形県としましては、保安確保のための情報提供を行って参ります。また、関係団体や高圧ガス事業者各位と連携を深めて、利用者に対する周知や注意喚起等の保安活動の強化を図って行きたいと思っております。JIMGA東北地域本部及び会員の皆様には、今後も一層のご協力を頂きたくお願い申し上げます。

2. 平成24年度産業ガス部門活動方針

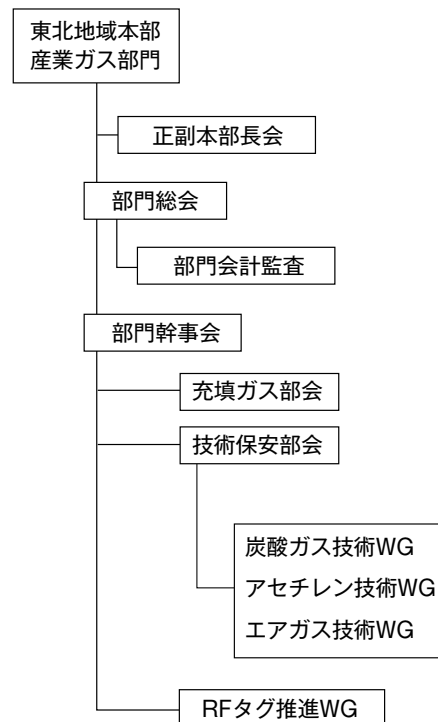
(1) 保安対策の推進

- ・ 高圧ガス保安法及び関連法規の周知とその遵守
- ・ 協会自主基準、ガイドライン、指針の普及及びセミナー開催
- ・ 長期停滞容器の回収と放置容器の撲滅

(2) 各部会、技術WG活動の推進

(3) 関係公官庁及び関係団体との連携強化

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長
坂本 雅博
大陽日酸(株)
執行役員 東北支社長



副本部長
大場 正仁
山形酸素(株)
代表取締役社長



副本部長
久保田 正夫
東邦アセチレン(株)
代表取締役専務



副本部長
梶原 克己
エア・ウォーター(株)
執行役員 東北支社長

- 幹事 丸山 信 日本エア・リキード(株) 東北支店長
- 幹事 加藤 尊康 高圧ガス工業(株) 東北地区長
- 幹事 伊達 久顕 上毛天然瓦斯工業(株) 仙台営業所長
- 幹事 佃 淳一 第一開明(株) 代表取締役社長
- 幹事 相場 栄利 (株)相場商店 代表取締役社長
- 会計監事 熊谷 孝嘉 岩手工業(株) 代表取締役社長
- 会計監事 南場 勉 日本液炭(株) 東北支社長

充填ガス部会

- 部長 葛西 信二 (株)東酸 代表取締役社長
- 委員 工藤 良一 (株)工藤酸素店 代表取締役社長
- 委員 相場 栄利 (株)相場商店 代表取締役社長
- 委員 吉田 等 太平熔材(株) 代表取締役社長
- 委員 佃 淳一 第一開明(株) 代表取締役社長
- 委員 笠井 昭彦 北良(株) 取締役会長
- 委員 大場 正仁 山形酸素(株) 代表取締役社長
- 委員 沼澤 隆二 (株)福島共同ガスセンター 常務取締役工場長
- 委員 梶原 克己 東北エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
- 委員 伊藤 武彦 カガク興商(株) 代表取締役社長
- 委員 江良 昌三 荘内ガス(株) 代表取締役社長
- 委員 荻部 裕一 仙台日酸(株) 常務取締役工場長

技術保安部会

- 部長 鈴木 富雄 大陽日酸(株) 東北支社 技術部長
- 委員 玉井 義明 太平熔材(株) 保安管理部 次長
- 委員 中村 成伸 北日本アセチレン(株) 工場長
- 委員 村上 晃也 岩手工業(株) 専務取締役
- 委員 越後 啓一 (株)東酸 取締役製造部長
- 委員 長岡 貢司 山形酸素(株) 執行役員事業部長
- 委員 進藤 昌一 荘内ガス(株) 取締役技術部長
- 委員 荻部 裕一 仙台日酸(株) 常務取締役工場長
- 委員 原田 敏兆 日本液炭(株) 東北支社 技術サービス課長

委員	河原 祐路	東邦アセチレン(株)	執行役員生産・技術本部副本部長
委員	吉田 馨	仙台アセチレン(株)	取締役工場長
委員	佐藤 哲	カガク興商(株)	高压ガス保安統括
委員	篠原 静夫	東北エア・ウォーター(株)	保安技術グループリーダー
委員	沼澤 隆二	(株)福島共同ガスセンター	常務取締役工場長

RFタグ推進WG

推進責任者	坂本 雅博	大陽日酸(株)	執行役員 東北支社長
推進責任者	大場 正仁	山形酸素(株)	代表取締役社長
推進責任者	久保田正夫	東邦アセチレン(株)	代表取締役専務
推進責任者	梶原 克己	エア・ウォーター(株)	執行役員 東北支社長

炭酸ガス技術WG

グループ長	只野 英仁	昭和電工ガスプロダクツ(株)	東北支店副主事
委員	小田島秀樹	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(東北駐在)
委員	寺田 和廣	エア・ウォーター炭酸(株)	品質保証室 課長
委員	伊達 久顕	上毛天然瓦斯工業(株)	仙台営業所長
委員	原田 敏兆	日本液炭(株)	東北支社 技術サービス課長

アセチレンガス技術WG

グループ長	齋藤 祐輝	東邦アセチレン(株)	執行役員環境保安・品質保証部長
委員		北日本アセチレン(株)	
委員		大陽日酸(株)	
委員		岩手工業(株)	
委員		仙台アセチレン(株)	

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

エアガス技術WG

グループ長	福田 浩	大陽日酸(株)	東北支社 業務部長
委員		東北エア・ウォーター(株)	
委員		東邦アセチレン(株)	
委員		(株)仙台サンソセンター	
委員		(株)大平洋ガスセンター	
委員		秋田液酸工業(株)	
委員		日本エア・リキード(株)	
委員		(株)いわきサンソセンター	
委員		岩谷産業(株)	
委員		小池酸素工業(株)	
委員		北日本酸素(株)	

※委員は検討案件に合わせて、各委員会社より選任する

注)平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

関東地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月15日(水)16:00～16:30

会場：ホテルJALシティ田町 東京 「瑞祥の間」

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告の承認を求め
る件

第2号議案 平成24年度収支報告の承認を求め
る件

第3号議案 平成25年度事業計画(案)の承認
を求める件

第4号議案 平成25年度収支予算(案)の承認
を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認
された。

報告事項

JIMGA本部・関東地域本部の移転について

本部出席者(合同懇親会)

会 長 豊田 昌洋

専務理事 豊澤 幸平

笠谷本部長挨拶

昨年暮れに日本のリーダーが代わりました。アベノミクスと言われる経済政策を打ち出し、その期待感と日銀の思い切った金融緩和策より、我が国の経済も少しは持ち直しているかに見えます。しかし、東日本大震災から2年が過ぎた今も一向に復興は進んでおりません。また東京電力に始まった電力料金値上げ問題は全国に波及しています。エレクトロニクス業界の依然としての不振、炭酸ガス、ヘリウム等の不足等で、我が産業ガス業界を取巻く状況は厳しさを増していると思われます。このような状況だからこそ、安全・保安

の重要性を再認識し、自主保安の活動を推進して行きたいと考えます。

平成24年度は、各グループが計



定時総会風景

4回のセミナー・講習会を運営し、延べ380名の方々に受講して頂きました。特に昨年は3年ごとの「炭酸ガス保安講習会」が開催されました。炭酸ガス技術グループを中心とし、周りの協力を得て160名を超える受講者を集めることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

産業ガス部門の重要課題の一つとして、「容器管理指針」発行があります。昨年度は静岡県・長野県にて発行されました。これにより、1都5県にて「容器管理指針」が発行されたこととなります。今年度も1県でも多くの発行が実現できるように活動をして行きたいと考えています。

円安による、原材料の高騰、特に電力料金の値上げ等、今年度も大変厳しい年となると思われます。関東地域本部産業ガス部門は、本年もセミナー・講習会を開催して所属会員・顧客・消費者への高圧ガスに関する知識習得を支援し、「事故ゼロ」・「安全・保安の確保」を主たる活動目標に掲げ、なお一層の努力をしたいと考えています。本年度も皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

懇親会

笠谷代表地域本部長挨拶

本年度、小池本部長のあとJIMGA関東地域本部の代表地域本部長を務めさせていただきます笠谷でございます。

我々の重要使命の一つは、高圧ガスを安全にご使用頂くことにあります。昨年末、政権交代があ

り、次々と打ち出される経済政策により、景気が少しずつ上向いているかにみえます。しかし、電力料金の値上げ、円安による原材料の高騰が懸念され、我々を取り巻く状況は厳しさを増していると言わざるを得ません。このような状況であるからこそ、事故は絶対に起こさないという気合いを持って活動して行きたいと思えます。

関東地域本部は、今年度もJIMGA組織の中核としてJIMGAの活動に積極的に参画し、産業・医療両分野の共通課題として、ガスの製造・充填・使用における事故の撲滅を目指した保安体制の強化に取り組めます。「保安講習会の開催」を行うほか、産業ガス部門では、「容器RFタグの導入促進」と「放置・不明・長滞容器の撲滅」を、医療ガス部門では、「災害時における防災協定の締結」、「MGR制度の充実」などをテーマに、役員一丸となって活動を展開して行きたいと思えます。

冒頭に申し上げたように、大変厳しい環境下ではありますが、今年度も高圧ガス関連の事故が少しでも減るように、明るく、積極的に活動して行く覚悟でございます。会員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

- (1) 地域における環境・安全・保安・技術等に関して、JIMGA本部と連携し、関東地域本部産業ガス部門構成員及び消費者に対する周知徹底と教育・広報・情報の収集等地域に則した活動を行う。
- (2) 自主保安の一層の充実を図る必要があるこ

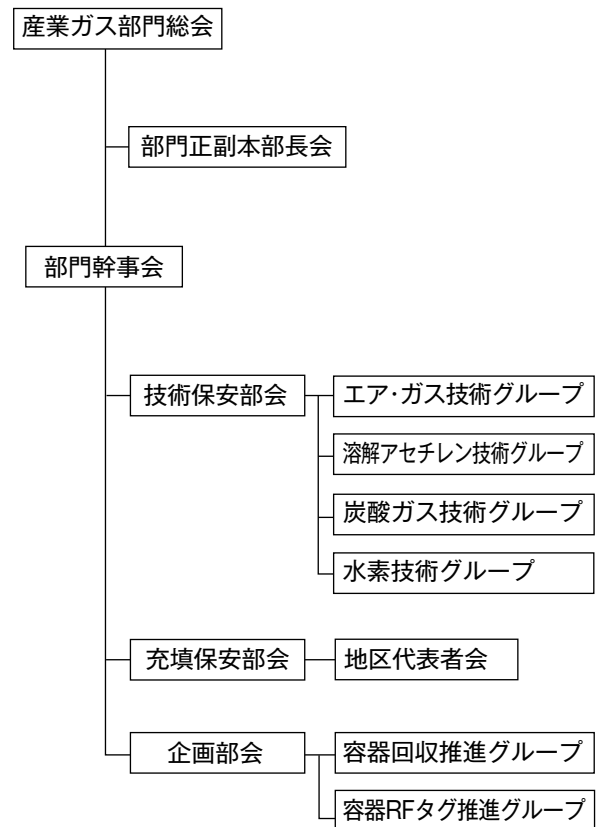


笠谷本部長挨拶

とから、セミナー・講習会を開催し、本部一体となって事故発生防止に努める。

- (3) 所属会員相互の向上発展に資するため、会員間の意思疎通に努めると共に、各グループ間の連携を強化し、活動の充実を図る。
- (4) 容器RFタグの導入推進をJIMGA本部WGと協力して行う。
- (5) 企画部会容器回収推進グループ、地区毎の関連諸団体と共同で、放置容器・不明容器・長期停滞容器の回収を促進する。また、「容器管理指針」の発行を行政に働きかける。

3. 組織図



野平副本部長の中締め挨拶

4. 役員・部会・WG名簿(平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長
 笠谷 宏
 岩谷産業(株)
 首都圏支社長



副本部長
 武佐 正毅
 エア・ウォーター炭酸(株)
 取締役東京支店長



副本部長
 佐波 充
 相模アセチレン(株)
 代表取締役



副本部長
 野平 忠彦
 エア・ウォーター・
 ハイドロ(株)
 常務取締役

幹事	是永 敏弘	日本エア・リキード(株)	東日本地域本部	本部長
幹事	黒木 幹也	高圧ガス工業(株)	取締役 東京事務所長	関東地区長
幹事	池田 一雄	昭和電工ガスプロダクツ(株)	事業本部長付担当部長	
幹事	山本 恭弘	岩谷瓦斯(株)	理事	関東事業所長
幹事	熊川 薫	(株)鈴木商館	取締役	営業本部 副本部長
代表監事	小池 康洋	小池酸素工業(株)	取締役	東京支店長
監事	松下 尚生	エア・ウォーター(株)	関東支社	支社長代理

技術保安部会

部会長	武佐 正毅	エア・ウォーター炭酸(株)	取締役	東京支店長
副部会長	寺田 和廣	エア・ウォーター炭酸(株)	品質保証室	課長

エア・ガス技術グループ

グループ長	福永 直樹	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部	関東グループ長
副グループ長	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部長	
委員	梶野 昭彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当	担当部長(首都圏駐在)
委員	石坂 英一	カンサン(株)	高崎事業所	エア・ガス工場長
委員	長谷川正泰	小池酸素工業(株)	ガス部	課長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株)	基礎化学品事業部	管理グループ 企画・業務チームリーダー
委員	柄沢 直樹	大陽日酸(株)	関東支社	技術部長
委員	細川 純一	大陽日酸東関東(株)	ガスビジネス統括本部	製造技術担当部長
委員	高野 義文	東京ガスケミカル(株)	取締役	産業ガス業務部長
委員	関 啓助	北国酸素(株)	代表取締役	
委員	森田 耕治	エア・ケミカルズ(株)	常務取締役	プラント長
委員	杉山 光	川崎オキシトン(株)	代表取締役	社長
委員	茂浦 悦男	(株)JFEサンソセンター	取締役	工場長
委員	河原 俊治	新相模酸素(株)	代表取締役	社長
委員	大西 悦雄	新洋酸素(株)	代表取締役	社長
委員	田中 義隆	(株)千葉サンソセンター	代表常務取締役	
委員	中村 耕輔	(株)ティーエムエアー	代表取締役	社長
委員	福山 幸男	東京液化酸素(株)	代表取締役	社長
委員	飯田 秀昭	東京酸素窒素(株)	代表取締役	社長

委員	野口 行敏	長野液酸工業(株)	代表取締役社長
委員	福家 裕樹	(株)浜松エア・サプライ	常務取締役 工場長

溶解アセチレン技術グループ

グループ長	杉岡 孝雄	高圧ガス工業(株)	神奈川工場長
副グループ長	堂元 美樹	小池酸素工業(株)	千葉工場長
委員	佐藤 康彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(関東駐在)
委員	澤田 秀則	神奈川合同アセチレン(株)	常務取締役 工場長
委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	樺澤 繁樹	関東アセチレン工業(株)	常務取締役
委員	吉田 智徳	相模アセチレン(株)	製造部 課長
委員	橋本 孝二	(株)鈴木商館	安全環境部 マネージャー
委員	新田 義治	大陽日酸(株)	北関東支社 技術部長
委員	柳川 宗昭	田邊工業(株)	保安部 副係長
委員	勝井 基一	東海産業(株)	環境保安室長
委員	井上 敏廣	東京高圧山崎(株)	茨城工場長
委員	手塚 悦男	栃木共同アセチレン(株)	取締役統括部長
委員	内田 達也	エア・リキード工業ガス(株)	関東支社 東京営業所長
委員	川人 政男	東日本高圧(株)	千葉工場長
委員	若林 満	横浜ケミカル(株)	取締役製造部長

炭酸ガス技術グループ

グループ長	堂本 健	エア・ウォーター炭酸(株)	技術部生産・技術グループ 次長
副グループ長	佐藤 孝	昭和電工ガスプロダクツ(株)	南関東支店 副主事
委員	佐藤 康彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(関東駐在)
委員	庄司 昭史	高圧ガス工業(株)	ガス事業本部 次長
委員	坂本 三夫	上毛天然瓦斯工業(株)	技術部 製造課 係長
委員	会田 広司	東京ガスケミカル(株)	エンジニアリング・サービス部 エンジニアリンググループ
委員	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長

水素技術グループ

グループ長	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	生産技術部長
副グループ長	廣澤 徳幸	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 関東事業所 千葉工場長
委員	梶野 昭彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(首都圏駐在)
委員	清瀬 信	関東エア・ウォーター(株)	産業事業部 課長
委員	飯島 俊雄	昭和電工(株)	基礎化学品事業部 管理グループ 企画・業務チームリーダー
委員	大山 裕之	(株)鈴木商館	生産部 部長
委員	柄沢 直樹	大陽日酸(株)	関東支社 技術部長
委員	半澤 卓也	新潟水素(株)	取締役工場長
委員	澤田 庸介	丸由工材(株)	常務取締役
委員	安久井 満	(株)渡商会	保安管理部 保安管理グループリーダー

充填保安部会

部長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副部長	熊川 薫	(株)鈴木商館	取締役 営業本部 副本部長
副部長	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	取締役社長
副部長	松谷 厚雄	関東酸素工業(株)	専務取締役

副部会長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
委員	戸田 稔	千葉小池(株)	代表取締役
委員	阪田 亮	千葉エスディーガスセンター(株)	常務取締役 工場長
委員	茂垣 行雄	(株)星医療酸器	取締役営業本部長
委員	瓦井 貞光	光酸素(株)	代表取締役会長
委員	村橋 正之	伊藤忠工業ガス(株)	神奈川支店長
委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役社長
委員	四元 章	(株)市川総合ガスセンター	取締役工場長
委員	岩上 知司	岩谷産業(株)	静岡支店長
委員	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
委員	川中子重男	北関東日酸(株)	常務取締役
委員	佐瀬 猛雄	北関東東洋(株)	取締役製造部長
委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	代表取締役社長
委員	堀口 靖之	カンサン(株)	代表取締役社長
委員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	橋 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役社長
委員	杉野 邦夫	武蔵野ガスセンター(株)	代表取締役社長
委員	斎藤 常久	小野里酸素(株)	代表取締役
委員	白根 政明	(株)サイサン	取締役 産業ガス部 部長
委員	福地 俊弘	埼京日酸(株)	取締役工場長
委員	島田 隆昭	(株)シマキュウ	代表取締役社長
委員	長谷川道明	東邦新潟(株)	取締役社長
委員	中川 裕義	東洋高圧ガス(株)	部長
委員	本島 章夫	東海産業(株)	代表取締役社長
委員	田邊 英	田邊工業(株)	代表取締役社長
委員	遠藤 治	(株)TOKAI	高圧栃木支店長
委員	山田 好夫	東横化学(株)	相模原支社長
委員	吉田 昌平	ヨシダ高圧(株)	代表取締役社長
委員	北條 一夫	フジオックス(株)	常務取締役 営業本部長 兼 ガス溶材部長
委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
委員	羽場 義人	岡谷酸素(株)	常務取締役 営業本部
委員	松下 尚生	関東エア・ウォーター(株)	取締役 産業事業部長 兼 東京支店長
委員	村野 行重	横浜ケミカル(株)	営業部長
委員	山本 剛士	静岡酸素(株)	取締役工場長
委員	三好 英二	太陽日酸東関東(株)	土浦営業所長
委員	安東 雅弘	東海溶材(株)	ガス部 部長
委員	津田 篤文	東京高圧山崎(株)	専務取締役
委員	志田 和善	日東物産(株)	取締役部長
委員	栗屋 秀則	富士酸素工業(株)	常務取締役
委員	木澤 眞一	宮原酸素(株)	次長

地区代表者会

委員長	佐波 充	相模アセチレン(株)	代表取締役
副委員長	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
副委員長	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
副委員長	川中子重男	北関東日酸(株)	常務取締役
正委員	市村 博	市村酸素(株)	代表取締役社長

正 委員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
正 委員	熊川 薫	(株)鈴木商館	取締役 営業本部 副本部長
正 委員	中川 裕義	東洋高压ガス(株)	部長
正 委員	北條 一夫	フジオックス(株)	常務取締役 営業本部長 兼 ガス溶材部長
正 委員	松下 勝美	カンサン(株)	取締役インダストリ営業部長
正 委員	栗屋 秀則	富士酸素工業(株)	常務取締役
正 委員	志田 和善	日東物産(株)	取締役部長
正 委員	羽場 義人	岡谷酸素(株)	取締役営業本部長
正 委員	橘 隆之	(株)カネコ商会	代表取締役
副 委員	金子 茂男	小松川酸素(株)	取締役社長
副 委員	鴨川 俊次	東邦酸素工業(株)	取締役社長
副 委員	木澤 眞一	宮原酸素(株)	次長

企画部会

部 会 長	野平 忠彦	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	常務取締役
副 部 会 長	時田豊志和	エア・ウォーター・ハイドロ(株)	生産技術部長

容器回収推進グループ

グループ長	松下 勝美	カンサン(株)	インダストリ営業部 取締役部長
副グループ長	保々 賢次	小池酸素工業(株)	城北支店長
委 員	芝好 秀明	日本エア・リキード(株)	東日本地域本部 工業事業 営業統括部長
委 員	黒木 幹也	高压ガス工業(株)	取締役 東京事務所長 関東地区長
委 員	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部長
委 員	大橋 忠生	上毛天然瓦斯工業(株)	取締役営業本部長
委 員	宮内 裕二	日本液炭(株)	関東支社 営業部 業務・物流課長
委 員	大山 裕之	(株)鈴木商館	生産部 部長
委 員	井上 保	(株)渡商会	営業部 主任
委 員	柳川 隆則	(株)宝山産業	代表取締役社長
委 員	笠谷 宏	岩谷産業(株)	首都圏支社長
委 員	中川 裕義	東洋高压ガス(株)	部長

容器RFタグ推進グループ

グループ長	神谷 利男	日本液炭(株)	関東支社 技術サービス課長
副グループ長	大西 孝好	関東エア・ウォーター(株)	管理部長
委 員	飯塚 浩幸	太陽日酸(株)	関東支社 ガス営業部長
委 員	厚沢不二夫	小池酸素工業(株)	課長
委 員	宮澤 源	東京ガスケミカル(株)	シリンダーガス部 シリンダー企画グループマネージャー
委 員	長谷川正泰	小池酸素工業株(株)	生産・技術グループ 課長
委 員	梶野 昭彦	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(首都圏駐在)
委 員	永野 訓司	高压ガス工業(株)	理事 情報システム事業本部 システム営業部長
委 員	原田 耕造	相模アセチレン(株)	常務取締役
委 員	田村 行正	城東日酸(株)	取締役工場長
委 員	青山 光雅	城南共同酸素(株)	常務取締役
委 員	内田 徹	川口総合ガスセンター(株)	代表取締役社長

注)平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

東海地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月14日(火) 16:00～17:20

会場：ホテル キャッスルプラザ

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告の承認を求め
る件

第2号議案 平成24年度収支決算の承認を求め
る件

第3号議案 平成25年度事業計画の承認を求め
る件

第4号議案 平成25年度予算の承認を求め
る件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認
された。

報告事項

平成25年度東海地域本部役員の内

本部出席者

副会長 松枝 寛祐

常務理事 篠塚 賢藏

常務執行役員 小峰 史朗

柚谷本部長挨拶

東海地域本部の会員の皆様にはご多忙中のと
ころ、平成25年の定時総会にご出席頂き、あり
がとうございます。また、公務ご多用中のと
ころ、中部近畿産業保安監督部土屋保安課長様を
はじめ、多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、厚
く御礼申し上げます。

さて、この1年を振り返りますと、政治も経済
も我々を取り巻く環境は大きく変化をし始めて
おり、今年に入って日本経済は明るい兆しも見
えてきております。安倍政権による経済政策が
功を奏し、金融経済は、近年にない活況を呈
してござ

す。しかしながら、实体经济におきましては、
出遅れ感が否めないものの、自動車をはじめ
とする輸出牽引型企業の在庫調整も進み、徐々
にはありますが、夏場から秋口にかけて高稼働
を予定する企業も出始めております。何とかこ
の潮流に乗り、私共業界も永年にわたる低迷
からの脱却を切に願う次第であります。

一方、我々高圧ガス業界におきましては、保
安の確保、国際整合化、電力問題等の課題が
山積しており、これらの課題の達成如何によ
って今後我々の業界に影響が出てくることも
懸念されます。

高圧ガス保安法関連に目を向けますと、過
去12年間連続して増加を続けていた高圧ガス
事故は、平成23年の1,052件をピークに、昨
年初めて減少しましたが889件発生しており、
依然として



柚谷本部長挨拶



総会議案審議

高止まりの状況です。特に石油コンビナートにおける重大事故も複数発生しており、製造事業所における漏洩も増加傾向を示しています。こうした状況を受けて経済産業省産業構造審議会保安分科会では先の答申において、企業による自主保安の徹底、業界団体の保安取組み強化、そして政府が行うべき対応強化を掲げており、高圧ガス最大の業界団体である私共に課せられた責務の重さを強く認識しております。

こうした中、JIMGAでは産業ガス部門及び医療ガス部門両部門の共通の課題としまして、『①コンプライアンスの徹底、②社会のインフラ及びライフラインとしての重要性を社会の皆様方にご理解頂くこと』を掲げており、更に、会員の行動指針といたしまして、産業ガス部門では『①保安の確保、②不明容器、放置容器の回収・撲滅、③環境への取組みと電力問題、④国際整合化』の4つ、医療ガス部門では『①医療ガス事故対策、②医療ガスの国際整合化、③MGR制度の拡充、④地域防災協定等の展開』の4つの課題がそれぞれあります。

東海地域本部では、JIMGA本部の課題をブレークダウンし、①事故防止と法令遵守の周知徹底、②供給及び消費上の安全対策の推進、③保安を確保するための各種講習会の開催、④災害時対策の強化、⑤不明容器・放置容器をなくすための容器管理体制の強化の5点を課題として取組み、事故撲滅に努めたいと存じます。

本日の総会では、活発なご意見を頂きながら、議案審議を進めたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

来賓ご挨拶

中部近畿産業保安監督部 保安課長

土屋 昌英 殿

昨今の経済情勢につきましては、安倍バブルや円安株高基調により、東海地域における自動車産

業はリーマンショック前の様相を取り戻していません。また一方で、輸入原材料の高騰などもあり、燃料価格のアップ、物資の高騰なども含まれますと、まだまだ予断を許さない状況ではないかと考えます。産業ガスおよび医療ガスは生活に必要なものであり、更なる伸びが期待されるころではありますが、まだまだ厳しい状況であると思っています。

高圧ガスの保安の確保は景気に左右されることなく、皆様一人一人が着実に実施されることが重要です。経済産業省の組織改正が昨年9月にあり、原子力安全保安院から商務流通保安グループの組織下に置かれました。

高圧ガス保安行政は、産業構造審議会において3つのテーマで議論されています。1つ目は『自然災害への対応』、東日本大震災を踏まえ、東南海・南海地震を想定した災害のため耐震化や津波対策を実施することです。2つ目は『産業ガス事故への対応』、経年劣化対策、ヒューマンエラーへの対応、またコンビナート事故も頻発しており、現場力保安力への対応の取組みです。3つ目は『時代に要請される技術に対応した課題への対応』、水素ガスステーションの導入促進、燃料電池自動車の水素ガス領域への対応などがあります。

平成24年の高圧ガス事故統計を見ますと、製造所における事故は減ったものの、消費の事故は増えており、事故件数は依然として高止まりの水準となっています。これらの事故の原因は、誤判断、誤操作、ヒューマンエラー、管理不良による設備の老朽化、施設の劣化、腐食が目立っています。また、昨年は宮城県において天然ガス用のFRP容器の解体作業中に爆発し、2名が死傷する痛ましい事故が起きており、残ガスの確認を十分にやっていたというヒューマンエラー、確認不足が報告されています。

このような高圧ガスの事故を撲滅するためにも、貴協会においては、東海高圧ガス容器管理委

員会と連携しての高圧ガス容器保安対策指針の啓発活動、防災訓練や保安講習会の実施、また高圧ガス容器管理としてRFタグ導入促進などがあります。先ほど取組みの報告にもありました災害時マニュアルや東北地域本部の被災体験事例集の作成など、災害防止対策をはじめとしたさまざまな取組みに深く敬意を表する次第です。

今後共、産業ガス・医療ガスが一致連携して、更に取組みを進めて頂きたいと思えます。

来賓ご挨拶

**愛知県防災局 消防保安課 産業保安室長
村上 倫正 殿**

貴協会は、高圧ガスの供給面で健康で豊かな県民生活を支えて頂き、高圧ガスの保安面で県民生活を安心・安全なものとする上で大きく寄与して頂いています。愛知県としましても日頃の活動に心から感謝しています。

さて、全国的に高圧ガス事故件数は高止まりの状態です。注意していても事故は発生してしまうものですが、事故原因を分析して言われていることは、「事故の多くは設備の劣化」によるものです。従いまして、古い設備はしっかり保全・点検し、事前予防することが当然のことながら重要です。

事故統計の見方を少し変えてB級事故(大事故)以上を抽出しますと、事故原因としては設備の老朽劣化が減少し、原因が際立って大きくなるのが認知・誤操作・誤判断のヒューマンエラーです。この状態から、大きな事故はヒューマンエラー、小さな事故は施設の老朽劣化という傾向が見えてきます。平成25年度も始まりましたが、皆様の保安の技術と知識を十分に発揮して頂いて、事故撲滅にご尽力を賜りたく、よろしく願いいたします。

愛知県の保安大会は毎年10月に実施していますが、平成25年度は区切りとなる第50回を迎えます。多くの方々にお越し頂き、賑やかに盛り

上げたいと思っております。10月30日の午後に愛知県産業労働センター大ホールで開催を計画していますので、ご参加頂きますようお願いいたします。

来賓ご挨拶

**愛知県健康福祉部 健康担当局 医薬安全課長
高橋 裕 殿**

日頃は皆様方に医薬安全行政につきまして特別のご配慮、ご理解を頂きまして、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

南海トラフ巨大地震が懸念されており、東日本大震災を教訓として、国を挙げて一層の災害時対策が進められています。愛知県では、災害時に医療ガスの安定供給を確保するために、貴協会と平成11年より「災害時医薬品等の供給に関する協定」を締結しており、多大な貢献をして頂いています。その中で、総会議案書の第1議案において、愛知県の緊急通行車両事前届出済証の発行が滞っているとの指摘があり、誠に申し訳ないと思っています。災害時の医療体制の確保には、医療用ガスの供給が不可欠です。緊急通行車両事前届出済証の発行は速やかに対応して参りますので、引き続きご協力を頂けますようお願いいたします。

なお、毎年参加して頂いています総合防災訓練は、本年度は9月1日に稲沢市で開催予定となっています。災害時に医薬品等を円滑に搬送できるよう搬送訓練等を実施したいと考えていますので、ご参加頂きますようお願いいたします。

来賓ご挨拶

**高圧ガス保安協会 中部支部 事務局長
青山 伸治 殿**

平成25年東海地域本部定時総会が滞りなく終えられましたこと、お慶び申し上げます。また、日頃はKHKセミナー、ISOなどの事業にご支援ご

協力頂いておりますことを感謝申し上げます。

先程もお話がありましたように、現在アベノミクスということで雰囲気は良いのですが、まだ具体的には何も進んでいません。先日、期待されるトヨタ自動車グループでは経常利益が1兆3千億円と言われており、今後の景気の拡大に大いに期待したいと存じます。

高圧ガス保安関係ですが、先程もお話がありましたように昨年事故件数が15%減少しました。しかし、一昨年は震災関係及び自然災害が非常に多く85件ありましたので、昨年の事故件数は減少しましたが、事故の水準は大変高いという問題があります。

昨年は、コンビナートの大きな爆発事故が続き、設備の老朽化や失われる技術力との問題が指摘されています。事故報告書を見ますと、技術伝承の不足、規則ルールの軽視、リスクアセスメントの不足、現場安全管理力の低下、当事者意識の不足などいくつもの原因が挙げられていますが、これらは業界にとって共通した取り組むべき課題ではないかと思っています。

皆様方には事故撲滅に向けた継続的な取り組みをお願い致しますと共に、最近活発化しています地震への対応としてBCP事業継続計画の策定や緊急事態に対応した訓練をお願い致します。また、KHKでは事故防止の意識向上に向けたセミナーを積極的に開催していますので、活用して頂ければと思います。

懇親会

JIMGA本部 松枝副会長挨拶

日頃はJIMGAの活動にご支援、ご協力を頂きまして、改めて御礼を申し上げます。

さて、1年前と比較しますと政治・経済情勢は大きく変わりつつあり、我々の業界にも今後良い影響が出るよう大いに期待しております。しかし、昨年来の電力料金の値上げは東京電力に始

まって他の電力会社にも広がりそうであります。暑い夏を乗りきるための電力をどうするかという問題もありますが、当業界の死命を制する重要な問題であり、JIMGAとしましては会員の皆様のお役に立てるよう働きかけて参ります。

また、RFタグの導入は、本年3月時点で23万本に装着されており、本年度12万本に装着が予定されていますので、合計35万本の装着になります。しかし、平成27年に310万本の装着計画からは大きく乖離しています。高圧ガスを販売することは、安全を売ることでもありますが、高圧ガス事故は減少していません。RFタグを普及することによって、大きな比重を占めている高圧ガス容器に関わる事故の撲滅を図るのが我々の務めです。しかし、新しいことはコストがかかります。コストアップ要因をどう解決して行くか、ユーザーにも皆様方にもご理解を頂くようなPRがもっと必要であると考えます。

また、RFタグですが、現在ISOの中でRFタグに関する日本側の提案がほぼ認められる方向で進んでおり、数少ない日本発の世界基準ができるのではないかと期待しています。ISOに対する申請等でご苦勞をかけている皆様には、感謝したいと思います。

国際統合化については、我が国では高圧ガス保安法という法律に基づいていますが、欧州や米国においてはそれぞれ自主基準があります。特に



松枝副会長挨拶

欧州では、こういったそれぞれの基準を国際標準化していこうということで、IOMAの中にIHC(国際整合化会議)というのがあって、そこで討議されています。日本よりも先に、欧州や米国が規制や基準を作っています。それをJIMGAとして受け入れられるものと受け入れられないものを見分けながら、日本の発言も聞いてもらえるように努力しているところです。

5月8日にグローバル委員会がエジンバラで開催され、縁あって参加してきました。日本は言葉の問題があり、基準その他の疑問や提案が出された時に対応がどうしても遅れてしまいます。それを克服しながら、世界に日本の存在を認められ、今後のグローバル経済の中で日本の立場が強くなるようにして行きたいと思っています。また、医療ガスにおいてもPIC/S(医薬品製造査察共同機構)への対応があり、厚生労働省のあと押しを頂きながら、日本も参加する方向で作業を進めています。

基準からいえば、今後、水素時代、あるいはそこまで至らなくても、水素燃料電池における水素の供給等それに対する保障をどうするのか、いろいろな問題があります。そういう中で、日本の立場も本質的なところで議論してより良いものができればと考えています。

JIMGAの表彰制度は規約が出来て4年経ち、豊田会長の強いお考えもあり、今年をはじめて実施されます。産業ガス部門11件、医療ガス部門13件が決まり、6月の総会で表彰されることになりました。日頃自らの会社の業務を離れ、公的なことで協力して頂いている方がたくさんおられます。WGを入れて約300名の方々に活動して頂き、貢献して頂いていますので、受賞者の皆様をぜひ温かく迎えて頂きたいと思っています。

東海地域の皆様の活動が非常に活発であることをうれしく思っています。会員各社のご発展と皆様のご健勝を祈念して挨拶とさせていただきます。

懇親会

南部副会長兼医療ガス部門本部長挨拶

総会では長時間にわたり熱心なご審議を頂き、お疲れさまでした。皆様のご協力により、本年の総会もつつがなく終わることが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。また、ご来賓の皆様方には大変お忙しい中を総会に引続き懇親会にもご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から2年が経過しますが、未だに避難生活を余儀なくされ、復旧・復興にはほど遠い地域もあります。我々の活動している東海地域でも、かねてより東海地震は30年以内に90%近い確率で発生すると言われておりますが、東日本大震災後予測が見直され、東海・東南海・南海連動地震よりもはるかに規模の大きな「南海トラフ大地震」の発生が懸念されております。東海地域本部では、災害時対策委員会を設け、災害時の連絡体制の構築、備蓄品の配備を進めると共に、昨年報告させて頂いた『災害時マニュアル』を作成し、他地域でのマニュアル作成の見本ともなっておりますので、ぜひお手元において見返して頂きたいと思っております。また今年度は講習会としまして「東日本大震災体験事例集:容器の転倒防止・津波対策」が計画されておりますので、ぜひご聴講頂きたいと思っております。

医療ガス部門の事故としては、在宅酸素療法の患者様の火災事故並びに医療現場での酸素ガスと



南部医療ガス部門本部長挨拶

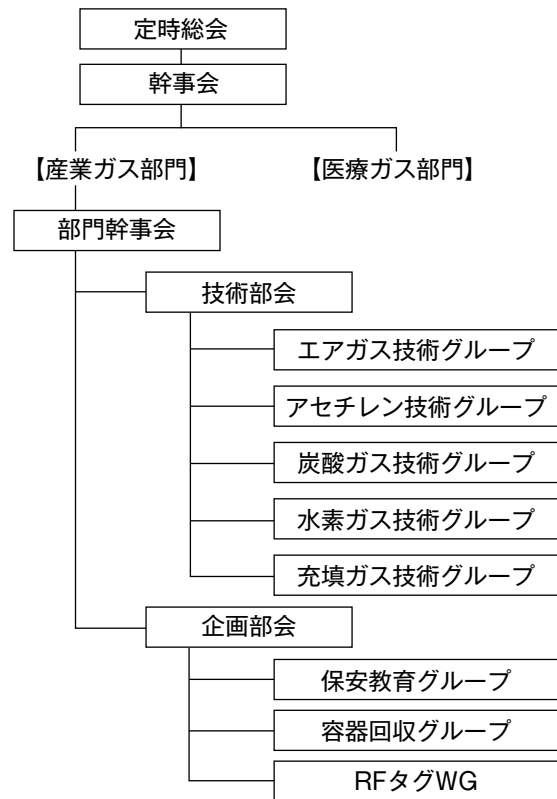
炭酸ガスのとり違い事故があとを絶ちません。本年度は三重県での医療機関向けの「医療ガス保安講習会」を計画しており、注意喚起をはかり、事故撲滅に努めて行く所存です。関係者の方はぜひご参加頂きたいと思います。

最後になりますが、本日承認・採択されました本年度の事業計画には、業界が抱える課題が盛り込まれています。皆様のご理解並びにご協力を頂くことによってこれらの課題を解決して業界が更に発展し、ひいては皆様方の会社がますますのご発展をされることを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

2. 平成25年度活動方針

- (1) 事故防止と法令遵守の周知徹底
- (2) 供給及び消費上の安全対策の推進
- (3) 保安講習会等の開催
- (4) 災害時対策の強化
- (5) 容器管理体制の強化
- (6) JIMGA本部との連携
- (7) その他東海地域本部の目的達成のための事業

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長
 杉谷 滋信
 大陽日酸(株)
 常務執行役員 中部支社長



副本部長
 鋤柄 喜彦
 大日本アガ(株)
 代表取締役



副本部長
 吉田 浩之
 日本液炭(株)
 中部支社長



副本部長
 飯田 哲郎
 名古屋酸素(株)
 取締役社長

- | | | |
|--------|-------|---------------------------|
| 幹事 | 永野 英美 | 東亜テクノガス(株) 代表取締役社長 |
| 幹事 | 渡邊 栄治 | 大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 名古屋支店長 |
| 幹事 | 勝見 欣司 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 執行役員 中部支店長 |
| 幹事 | 平山 俊夫 | 岩谷瓦斯(株) 理事 東海事業所長 |
| 代表会計監事 | 山本 裕 | 岩谷産業(株) 常務執行役員 中部支社長 |
| 会計監事 | 諏訪 高敏 | 豊田ガスセンター(株) 常務取締役 工場長 |

エアガス技術グループ

- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| グループ長 | 長妻 瑞夫 | 日本エア・リキード(株) 東海支店長 |
| 委員 | 高橋 貢三 | 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在) |
| 委員 | 三津田 真 | 中部エア・ウォーター(株) 管理部 業務グループ 部長 |
| 委員 | 松田美智春 | 大陽日酸(株) 中部支社 技術部長 |
| 委員 | 寿美田克彦 | 東亜テクノガス(株) 取締役業務本部長 |

アセチレン技術グループ

- | | | |
|-------|-------|----------------------------------|
| グループ長 | 鋤柄 喜彦 | 大日本アガ(株) 代表取締役 |
| 委員 | 土井不可止 | イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 課長 |
| 委員 | 仙波 寛 | 高圧ガス工業(株) 名古屋工場長 |
| 委員 | 瓦林 督弘 | 大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長 |
| 委員 | 伊東 俊雄 | 大陽日酸ガス&ウェルディング(株) 名古屋支店 営業課 課長代理 |
| 委員 | 成瀬 宜 | 竹中高圧工業(株) 営業部 部長 |
| 委員 | 橋本 行雄 | 東海アセチレン(株) 浜松工場 取締役工場長 |

炭酸ガス技術グループ

- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| グループ長 | 板橋 享 | 日本液炭(株) 中部支社 名古屋ガスセンター長 |
| 委員 | 高橋 貢三 | 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在) |
| 委員 | 夏目 卓也 | エア・ウォーター炭酸(株) 名古屋支店長代理 |
| 委員 | 松本 郁磨 | 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務 |
| 委員 | 松葉 昇 | 大洋化学工業(株) 工場長 |
| 委員 | 五十子 智 | 知多炭酸(株) 本社工場 品質管理課長 |
| 委員 | 山田 修三 | 東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長 |

水素ガス技術グループ

グループ長	平山 俊夫	岩谷瓦斯(株) 理事 東海事業所長
委員	高橋 貢三	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在)
委員	三好 拓	中部エア・ウォーター(株) 北陸支店 富山営業所 グループ長
委員	松本 郁磨	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務
委員	澤田 正樹	大陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術二課長
委員	栂田 茂樹	東亜テクノガス(株) 取締役管理部長
委員	鈴木 一磨	日本エア・リキード(株) 中部地域本部 工事事業部 営業担当部長
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長

充填ガス技術グループ

グループ長	橋本 修	協栄高圧ガス(株) 技術顧問
グループ長	杉山 智治	名古屋酸素(株) 名古屋営業部 部長
委員	瀧澤 豊	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所 岡崎工場長
委員	湯浅 喜和	イワタニ三重ガスセンター(株) 工場長
委員	森本 孝	春日井ガスセンター(株) 代表取締役
委員	松島 智彦	ガステックサービス(株) 西三河事業所長
委員	七尾 剛司	岐阜エア・ウォーター(株) 工場長 兼 営業部長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員 工場長
委員	高垣 満正	ケミカルジャパン(株) 代表取締役
委員	大西 智基	小池酸素工業(株) 名古屋支店長
委員	日比富士雄	(株)ジーシー東海 取締役工場長
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	服部 裕次	大日本アガ(株) 大府事業所 取締役製造物流部長
委員	高橋 憲一	竹中高圧工業(株) 常務取締役
委員	盛林 峰一	知多高圧ガス(株) 技術部 兼 品質管理担当 主任
委員	三津井 篤	中京産商(株) 常務取締役
委員	中根 信敏	中部エア・ウォーター(株) 名古屋充填工場長
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユナイテッド(株) 工場長
委員	諏訪 高敏	豊田ガスセンター(株) 常務取締役 工場長
委員	斎藤 輝久	名古屋ガスセンター(株) 本社 業務グループ長
委員	高橋 伸之	名古屋日酸(株) 工場長
委員	鋤柄 貴彦	日本エージェー(株) 安城工場 専務取締役
委員	原田 敬生	(株)原田商店 代表取締役

保安教育グループ

グループ長	松田美智春	大陽日酸(株) 中部支社 技術部長
委員	高橋 貢三	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当課長(中部駐在)
委員	笠井 勇人	中部エア・ウォーター(株) 技術グループ長
委員	新町 健児	共同高圧ガス工業(株) 執行役員 工場長
委員	仙波 寛	高圧ガス工業(株) 名古屋工場長
委員	松本 郁磨	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 主務
委員	坂下 公朗	杉浦高圧(株) 取締役
委員	吉岡 正弘	竹中高圧工業(株) 製造部 課長
委員	藤原 隆	中部液酸(株) 管理部長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長

委員	高橋 伸之	名古屋日酸(株) 工場長
委員	富成 繁憲	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中部グループ長
委員	板橋 享	日本液炭(株) 名古屋ガスセンター 長

容器回収グループ

グループ長	浅野 泰義	杉浦高压(株) 部長
委員	土井不可止	イビデンケミカル(株) 大府ガス営業部 課長
委員	中田 雅敏	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所 岡崎工場業務担当 マネージャー
委員	水野 良彦	協栄高压ガス(株) 業務課長
委員	相木 好永	高压ガス工業(株) 名古屋工場 次長
委員	松本 郁磨	昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店主務
委員	花井 正賢	大日本アガ(株) 社長付(物流担当)
委員	瓦林 督弘	太陽日酸(株) 中部支社 技術部 技術一課長
委員	伊東 俊雄	太陽日酸ガス & ウェルディング(株) 名古屋支店 営業課 課長代理
委員	小野 勝	竹中高压工業(株) 営業部 次長
委員	浅井 純	知多高压ガス(株) 業務部 課長代理
委員	小久保光男	中京産商(株) 溶材部 溶材課 課長
委員	中根 信敏	中部エア・ウォーター(株) 名古屋充填工場長
委員	伝田 伸男	東亜テクノガス(株) 技術統括部 課長代理
委員	渡邊 雅樹	東海ガスユニテッド(株) 工場長
委員	井上 洋一	豊田ガスセンター(株) 製造部 次長
委員	大貝 信夫	名古屋ガスセンター(株) 十四山工場
委員	服部 宗弘	名古屋酸素(株) 取締役製造部長 兼 小碓工場長
委員	渡辺 芳洋	名古屋日酸(株) 製造課 充てん係
委員	生田 直也	エア・リキード工業ガス(株) 中日本オペレーションセンター長
委員	板橋 享	日本液炭(株) 名古屋ガスセンター長
委員	鋤柄 貴彦	日本エージーエー(株) 安城工場 専務取締役

RFタグWG

グループ長	柚谷 滋信	太陽日酸(株) 常務執行役員 中部支社長
委員	山本 博昭	エア・ウォーター(株) 執行役員 中部支社長
委員	長妻 瑞夫	日本エア・リキード(株) 東海支店長
委員	森本 孝	高压ガス工業(株) 執行役員 名古屋工場
委員	鋤柄 喜彦	大日本アガ(株) 代表取締役
委員	早川 宏一	竹中高压工業(株) 代表取締役社長
委員	勝見 欣司	昭和電工ガスプロダクツ(株) 執行役員 中部支店長
委員	尾田 朝良	日本液炭(株) 中部支社 営業部長
委員	山本 裕	岩谷産業(株) 常務執行役員 中部支社長
委員	山田 修三	東亜テクノガス(株) 取締役技術統括部長
委員	橋本 修	協栄高压ガス(株) 技術顧問
委員	杉山 智治	名古屋酸素(株) 名古屋営業部 部長
委員	新町 健児	共同高压ガス工業(株) 執行役員 工場長
委員	坂下 公朗	杉浦高压(株) 取締役
委員	南部 淳	南部薬品(株) 代表取締役社長
委員	西尾 徹	静岡酸素(株) 代表取締役社長
委員	大島 康之	(株)大島商会 代表取締役
委員	伊藤 洋司	中京医療(株) 取締役営業部長

委員 江場 大二 (株)エバ 代表取締役社長

注)平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

豊富な
導入実績

RFタグ付高圧ガス容器管理をご検討なら 安心のデンソーウェーブへ

DENSO
DENSO WAVE
<http://www.denso-wave.com/>



RFタグ付高圧ガス容器管理の導入メリット

- | | |
|-----------|---------------------|
| 保安面の向上 | 長期停滞容器、不明容器、盗難容器の減少 |
| 顧客サービスの向上 | 利用日数情報を元にした発注管理の効率化 |
| 資産効率の向上 | 容器早期回収による資産の有効活用 |



BHT-605QUMWBが
業務の効率化をお約束

UHF帯RFタグ(920MHz)対応
ストレスのない高い読み取り性能

高速、方向自在の
読み取り

持ちやすい
ストレート形状と
ワイドキーピッチで
ラクラク操作

耐久性に
優れた
高信頼設計

株式会社 **デンソーウェーブ** <http://www.denso-wave.com/> 本社 〒470-2297 愛知県知多郡阿久比町大字草木字芳池1

東京支社 Tel:0120-585-271 東北営業所 Tel:022-782-0071 静岡営業所 Tel:054-208-3271 中部支店 Tel:0566-75-7901 大阪支店 Tel:06-6310-6422 広島営業所 Tel:082-504-1101 福岡営業所 Tel:092-643-6900

カスタマーデスク ☎ 0120-585-271 (携帯電話、PHS からでもご利用になれます) 受付時間9:10~12:00 13:00~17:30(土・日・祝日を除く)

北陸地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月24日（金）16:00～17:00

会場：片山津温泉 佳水郷 コンベンションホール

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告の件

第2号議案 平成24年度収支決算報告の件

第3号議案 平成25年度活動及び予算案の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

医療ガス部門「災害時における協定」締結の件
産業ガス部門新会員紹介の件
役員交代の件

本部出席者

常務理事 篠塚 賢藏

常務執行役員 和田 彰

小倉本部長挨拶

本日はJIMGA北陸地域本部総会にご出席頂き、ありがとうございます。会員の皆様にはJIMGAの活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、平成25年の経済環境は、安倍首相が大胆な金融緩和を唱えデフレに決別することを約束した「アベノミクス」により、1ドルは100円を超える円安、株価は15,000円になろうかという株高となり、経済再生の期待が持てる雰囲気があります。当地域にも波及してくることを期待しております。しかしながら、原子力発電所の再稼働が先行き不透明であり、これが不安要素となっております。ガスの安定供給・保安の確保を着実に進めて行くことは業界の一番大切な責任であると思っております。

昨年1年間の事故件数は889件となり、前年比15%の減少となっております。そのうち、災害事故は379件で前年比17%減、喪失・盗難事故は510件で14%減となっております。

北陸地域本部では本年度の課題として、産業ガ



総会風景①



小倉本部長挨拶



総会風景②

ス部門では保安啓発活動、容器管理の徹底、北陸高圧ガス溶材組合との連携によるRFタグの取組みがあります。

医療ガス部門におきましては、協会重点課題でありました「災害時の医療ガス等の供給に関する協定」への取組みであります。本年5月10日をもって北陸3県すべての自治体と締結がなされました。今後は有事の際の迅速な対応を行えるよう、運用マニュアルの作成、模擬訓練の実施を企画して行きたいと思っております。

また、PIC/SのGMPガイドラインの改訂に伴い、本部では協会作成の自主基準との比較を行っているところです。MGRにつきましては、当地域本部内での受験者は第2回をピークに減少してきており、認定者が各協会員に行きわたった感がありますが、今後も認定者の拡充、資質向上を目指して行きます。

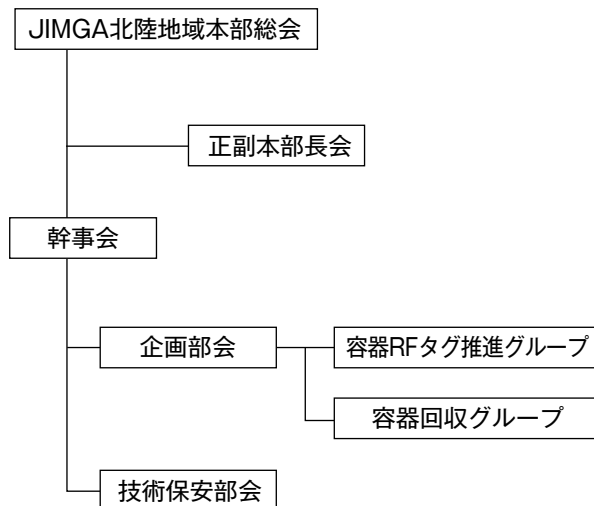
最後になりましたが、産業ガス部門、医療ガス

部門共々、平成25年度の事業を充実したものにしたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

- (1) 保安の推進 高圧ガス消費者保安講習会の開催
- (2) RFタグの取組み

3. 組織図



竹内副会長挨拶



和田常務執行役員産業ガス部門近況報告



篠塚常務医療ガス部門近況報告

4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長

谷屋 五郎
宇野酸素(株)
代表取締役社長



副本部長

板倉 久郎
北酸高圧瓦斯(株)
代表取締役社長



副本部長

桐田 信也
日星産業(株)
富山支店長

- 幹事 瀬戸 和義 日本エア・リキード(株) 北陸支店長
- 幹事 丹羽 信嗣 北越アセチレン(株) 代表取締役社長
- 幹事 田中 浩昭 日本液炭(株) 中部支社 富山営業所長
- 幹事 脇野 喜裕 太陽日酸(株) 中部支社 北陸支店長
- 幹事 木村 光彦 中部エア・ウォーター(株) 取締役 北陸支店長 兼 富山営業所 所長
- 幹事 南部 明彦 宇野酸素(株) 専務取締役
- 会計監事 脇野 喜裕 太陽日酸(株) 中部支社 北陸支店長
- 会計監事 櫻井 二郎 サカキ産業(株) 代表取締役社長

JIMGA評議員(北陸地域本部選出)

谷屋 五郎 宇野酸素(株) 代表取締役社長

企画部会

- 委員 谷屋 五郎 宇野酸素(株) 代表取締役社長
- 委員 浅田 昌樹 岩谷産業(株) 北陸支店長
- 委員 木村 光彦 中部エア・ウォーター(株) 取締役 北陸支店長 兼 富山営業所 所長
- 委員 瀬戸 和義 日本エア・リキード(株) 北陸支店長
- 委員 脇野 喜裕 太陽日酸(株) 中部支社 北陸支店長
- 委員 中渡 瀬久志 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 東海事業所 小松工場長
- 委員 板倉 久郎 北酸高圧瓦斯(株) 代表取締役社長
- 委員 田中 浩昭 日本液炭(株) 中部支社 富山営業所長
- 委員 杉浦 博之 昭和電工ガスプロダクツ(株) 中部支店 富山営業所長
- 委員 柳澤 敏幸 直江津アセチレン(株) 取締役工場長
- 委員 村木 利雄 新潟高圧ガス(株) 取締役工場長
- 委員 井村 平八 北越アセチレン(株) 取締役工場長
- 委員 谷屋 五郎 三国液酸(株) 代表取締役社長
- 委員 上原 真 北陸エア・ケミカルズ(株) 取締役 敦賀事務所長

技術・保安部会

- 委員 谷屋 五郎 宇野酸素(株) 代表取締役社長
- 委員 浅田 昌樹 岩谷産業(株) 北陸支店長
- 委員 木村 光彦 中部エア・ウォーター(株) 取締役 北陸支店長 兼 富山営業所 所長
- 委員 深谷 和則 東亜テクノガス(株) 北陸支店 北陸営業部

委員	瀬戸 和義	日本エア・リキード(株)	北陸支店長
委員	脇野 喜裕	太陽日酸(株)	中部支社 北陸支店長
委員	酒井 勉	北陸液酸工業(株)	取締役管理部長
委員	中渡瀬久志	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 東海事業所 小松工場長
委員	板倉 久郎	北酸高圧瓦斯(株)	代表取締役社長
委員	田中 浩昭	日本液炭(株)	中部支社 富山営業所長
委員	杉浦 博之	昭和電工ガスプロダクツ(株)	中部支店 富山営業所長
委員	山口 淳	上毛天然瓦斯工業(株)	長岡支店長
委員	柳澤 敏幸	直江津アセチレン(株)	取締役工場長
委員	村木 利雄	新潟高圧ガス(株)	取締役工場長
委員	井村 平八	北越アセチレン(株)	取締役工場長
委員	谷屋 五郎	三国液酸(株)	代表取締役社長
委員	上原 真	北陸エア・ケミカルズ(株)	取締役 敦賀事務所長

注)平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

近畿地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月13日(月)16:15～17:25

会場：メルパルク大阪「ソレイユの間」

議 題

- 第1号議案 平成24年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成24年度経常費収支決算報告承認の件
- 第3号議案 地域本部規約一部変更承認の件
- 第4号議案 幹事会及びグループ会役員変更承認の件
- 第5号議案 平成25年度事業計画(案)承認の件
- 第6号議案 平成25年度経常費収支予算(案)承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

(1) 会員数について

産業ガス部門62社(平成25年3月31日現在)

(2) 表彰関係(平成24年度の受賞者)について

経済産業大臣表彰、産業保安監督部近畿支部長表彰、大阪府知事表彰、大阪府商工関係表彰で、JIMGA関連の受賞者(個人・事業所)が紹介された。

(3) 今後の主な行事予定について

JIMGA(本部)評議委員会及び定時総会、並びに関係他団体の総会日程等が報告された。

本部出席者

常務執行役員 加藤 尚嗣

常務執行役員 和田 彰

加藤常務執行役員挨拶(要旨)

会員の皆様による協会活動への多大なるご尽力に対し、謝辞を述べられた後、新年度を迎えるための協会の2つの方針(コンプライアンスの徹底、産業・医療ガスの重要性を世間に再度認識して頂くこと)を説明された。次に部門ごとの取組み課題として、産業ガス部門では、「保安の一層の強化、推進」、「RFタグの普及促進」、「環境への取組み」、「国際整合化」の推進をお願いされ、特に電力問題・所有者不明放置容器撲滅のためのRFタグ普及促進を説明し、「尚一層、地域の会員の皆様方のご理解、ご協力、ご採用をお願いいたします」と述べた。

次に医療ガス部門の課題として、「事故防止」、「MGRの拡充」、「国際整合化」、「災害防災協定の締結促進」の4つを掲げられ、草の根講習会の本年度実施予定、国際整合化への進展、MGR講習会への協力依頼を要請された。本部事務所の移転と併せて今年度も協会活動への理解・協力をお願いされ、挨拶とされた。

姫尾代表本部長挨拶(要旨)

総会・懇親会へのご参加について謝辞を述べられた後、「経済も回復基調となり、産業の方にも何となく好景気観がもたらされている昨今ですが、電気代値上げ等の業界にとって大きな問題も発生して来ております。2年前の3月に東日本大震災が発生し、災害復興もまだまだ遠い所にございますし、本年4月にも再び淡路島を震源とする震度6の地震が発生し、肝を冷やされたものでした。また、高圧ガス関連事故に目を移しますと、暦年集計では前年度比が13年ぶりに減少しましたが、相変わらず高止まりをしており、特に人為ミスが目立っております。産業構造審議会よりの提言を見ましても、ヒューマンエラーに強く言及

されております。今後は我々業界団体の自主的取組みを強化して行くことを重点施策とする必要があるのではと感じております。

そんな中、我々業界団体としましては、現在できることを着実に正確に進めて行くことこそ肝要ではないかと考えております。どうぞ会員の皆様にもご協力を頂きますよう、お願い申し上げます」と締め括られた。



姫尾本部長挨拶

牧野副会長挨拶（抜粋）

「常日頃のJIMGAの活動にご支援ご協力を頂きまして、改めて御礼を申し上げます」と述べた後、「1年前と比較すると、政治・経済情勢は大きく変わっております。昨年末の安倍新内閣の発足に伴ういわゆる「アベノミクス」により、世の動きは大きく変わって参りました。前政権時代の決められない政治から、行動を伴った政治、経済に変わりつつあり、我々の業界にも今後いい影響が出るよう大いに期待しております。昨年来の電力料金の値上げは東京電力に始まり、関西電力、九州電力と実施に移され、今後も他の電力会社に広がりそうです。JIMGAではこの1年半これらの値上げについて、圧縮努力等を電力各社、関係官庁に要請をして参りました。会員会社におかれても電力料金の転嫁に向けて努力しておられるようですが、電力は当業界の死命を制する重要な問題ですので、本部としても引続きあらゆる面から会員の



牧野副会長挨拶

皆様にお役に立てるように、働きかけて行く所存です。今までの東電、関電、九電による値上げの業界への影響額は年間88億円であり、仮に同様の値上げが全国で実施されると年間約150億円となります。さらに、今後数か月間の燃料調整、円安による実質的な値上げも1kWhあたり1.2円程度考えられますので、これにより平成25年3月と比較して全国で年間76億円の負担となります」と話された。

続いて各部門の課題について述べられた後、今年は特にRFタグの普及と今年から運用が開始される表彰制度について地域の皆様方にも取組みをお願いしたいとされ、「RFタグは現状毎月約1万本程度普及しておりますが、これでは平成27年度末の目標310万本には到達することは不可能です。これを達成するには、産業、医療両部門、とりわけ地域の皆様方、会員の方々のご理解、ご協力、採用が非常に重要であります。表彰制度については、地域の方々のご理解、ご参加、お力をお借りしたいと思っております。せっかく始める制度ですので、権威ある賞とするためには、本部と地域が一体となって本表彰制度を運用し、盛り立てて行けるよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます」と締め括られた。

来賓ご挨拶（抜粋）

経済産業省中部近畿産業保安監督部

近畿支部保安課課長

花内 秀友 殿

平素は経済産業省の保安行政にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

本日は平成25年度定時総会が盛会に開催され、議案審議が滞りなく終了されましたことを心よりお喜び申し上げます。

貴会にあっては、各種保安講習会・保安セミナーの開催、自主基準の策定、容器管理におけるRFタグの普及促進、放置容器の回収等の事業活動を通じまして、消費者・販売事業者の自主保安活動の推進にご尽力を頂き、厚く感謝をしております。高圧ガスは産業分野・生活分野を中心に幅広く利用されており、我が国の産業活動発展と国民生活向上に不可欠な役割を果たしています。その保安活動の推進が、行政及び関係業界としてはきわめて重要な使命です。しかし、その一方で高圧ガスに関する事故に目を移しますと、昨年度は889件の事故で、その内災害事故が379件と高止まりしています。また重大事故としまして、5件のB級事故が発生し、3人の方が亡くなられており、近畿管内では容器の取扱い不備における死亡事故が発生しております。

貴協会内におかれましては、関係法令の厳粛な



懇親会風景

執行・自主保安の推進に向けてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。また、会員企業各社におかれては、安全は経営の基盤ということで、今一度自社設備について、安全確認及び自主保安の充実に努めて頂き、安全の確保に引き続きご尽力をお願い申し上げます。

乾杯挨拶（抜粋）

高圧ガス保安協会 近畿支部長

舟木 隆 殿

JIMGA近畿地域本部の平成25年度定時総会が滞りなく終了されたことを心よりお喜び申し上げます。常日頃は高圧ガス保安協会にも絶大なるご支援とご協力を賜り、高い所からではありますが、改めて御礼を申し上げます。

さて高圧ガスの保安に関する事故ですが、残念ながら相も変わらず高いレベルになっております。今後はできるだけ低いレベルに移して行きたいと考えております。今、日本経済の復興のきざしが見えてきています。この時期に皆様方の自主保安の力により、ぜひ保安の復興をなしとげ、日本経済を支えてもらえるよう期待しております。

中締め挨拶（抜粋）

近畿地域本部医療ガス部門

古野本部長

本日はお忙しい中、JIMGA近畿地域本部総会懇親会にご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。誠に和気あいあいと時間が流れる中、残念ではありますが中締めの時間となってしまいました。

今年度のJIMGA近畿にとりましては、産業ガス部門ではRFタグの裾野拡大、セミナー開催等、医療ガス部門におきましては、草の根講習の継続開催及び災害時対策運営要綱の各府県支部版の策定とやるべきことが目白押しでございます。

皆様方のお力をぜひとも頂きまして、着実に実



総会風景

行して参りたいと考えております。

何卒ご協力よろしくお願い申し上げます。

ご関係部署の方々、業界の皆様、ご出席の皆様方の今後のご活躍とご発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

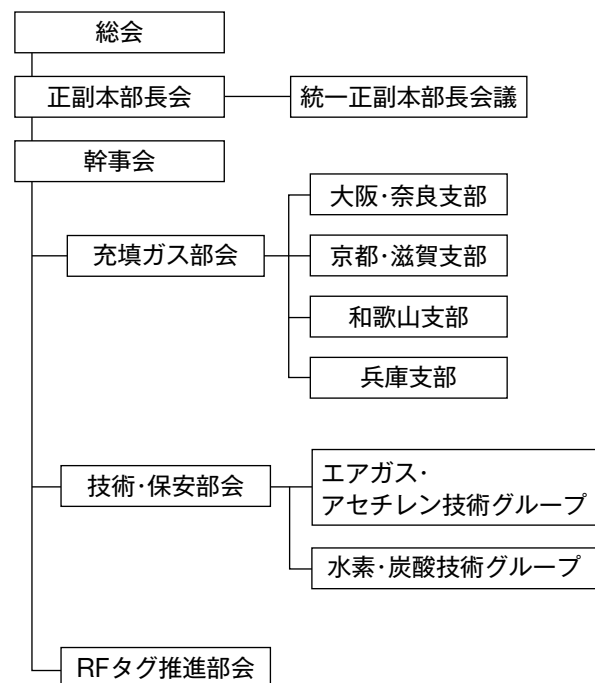
近畿地域本部本来の基本理念であるところの3つの理念「自主保安の確立」、「コンプライアンスの徹底」、「停滞容器の早期回収」、つまり防災とコンプライアンスを中心に活動を推し進めて参ります。

高圧ガス事故として前年比がマイナスに振れたことを受け、本年度もこの基調を踏襲すべく尽力いたします。保安大会、防災訓練等保安活動の推進に努めます。特に防災につきましては、南海

トラフ地震の到来がささやかれる中、いざという時に備えてのマニュアル作り・防災体制の制定に努めると共に、RFタグの運用をより広く推し進め、事故に繋がる放置容器等の減少のための枠作りに尽力したいと考えております。

コンプライアンスにおきましては、今一度活動の原点に戻り、より一層信頼される業界団体としての地位向上のための事業活動を推し進めて参ります。

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長
 姫尾 和彦
 日本エア・リキード(株)
 関西地域本部長



副本部長
 神崎 昌久
 大陽日酸(株)
 執行役員 関西支社長



副本部長
 三宅 新一
 大陽日酸(株)
 関西支社 技術部長



副本部長
 植田 秀樹
 京都帝酸(株)
 専務取締役

- | | | |
|------|-------|------------------------------|
| 幹事 | 岩永 友孝 | 岩谷産業(株) 常務執行役員 近畿支社長 |
| 幹事 | 村上 幸夫 | エア・ウォーター(株) 取締役 近畿支社長 |
| 幹事 | 森下 克則 | 小池酸素工業(株) 大阪支店支店長 兼 西日本グループ長 |
| 幹事 | 安田 英司 | 高圧ガス工業(株) 執行役員 ガス事業部 近畿地区長 |
| 幹事 | 山中 昭一 | エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店長 |
| 会計監事 | 林 功 | 協和ガス(株) 代表取締役社長 |
| 会計監事 | 福田 正 | (株)リキッドガス 常務取締役 営業本部長 |

充填ガス部会

- | | | |
|------|-------|-----------------------|
| 部会長 | 植田 秀樹 | 京都帝酸(株) 専務取締役 |
| 副部会長 | 的場 信之 | 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長 |

大阪・奈良支部

- | | | |
|------|--------|------------------------------|
| 支部長 | 面谷 正久 | (株)ダイオー 常務取締役 営業本部長 兼 産業事業部長 |
| 副支部長 | 久保 憲一 | (株)関西ガスファースト 代表取締役社長 |
| 委員 | 永田 裕信 | 大阪車輛工業(株) 取締役営業部部長 |
| 委員 | 神崎 昌久 | (株)大阪パッケージガスセンター 代表取締役社長 |
| 委員 | 竹川 卯三郎 | 大丸エナウイン(株) 代表取締役会長 |
| 委員 | 名倉 茂雄 | 大和熔材(株) 代表取締役社長 |
| 委員 | 林 豊 | 浪速酸素(株) 代表取締役会長 |
| 委員 | 伏山 英男 | (株)伏山酸素商会 代表取締役 |

京都・滋賀支部

- | | | |
|------|-------|--------------------|
| 支部長 | 森脇 勝久 | 森脇産業(株) 代表取締役 |
| 副支部長 | 岡田 隆義 | 舞鶴大同ガス(株) 代表取締役社長 |
| 委員 | 中森 信輔 | (株)泉産業 代表取締役社長 |
| 委員 | 藤井助三郎 | 京都帝酸(株) 取締役社長 |
| 委員 | 高橋 寛 | 滋賀カーバイド(株) 代表取締役社長 |

和歌山支部

- | | | |
|------|-------|-----------------------|
| 支部長 | 的場 信之 | 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長 |
| 副支部長 | 北山 雅章 | 和歌山酸素(株) 代表取締役社長 |

委員 竹内 光男 新宮酸素(株) 代表取締役社長

兵庫支部

支部長 堀田 秀樹 ネクスト・ワン(株) 常務取締役
 副支部長 山下 隼人 (株)水島酸素商会 常務取締役
 委員 大岡 久晃 (株)大岡酸素商会 代表取締役会長
 委員 神田 保男 近畿酸素(株) 代表取締役社長
 委員 高浜 充治 高浜酸素(株) 代表取締役
 委員 駒居 敬博 タツミ産業(株) 企画営業部 部長
 委員 橋詰 芳裕 (株)ニッコーコーポレーション 代表取締役
 委員 橋 快樹 姫路ダイサン(株) 代表取締役社長
 委員 藤田 陽一 藤田酸素工業(株) 播磨事業所 工場長

技術・保安部会

部長 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
 委員 八尋 正昭 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 近畿グループ長

エアガス・アセチレン技術グループ

グループ長 八尋 正昭 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 近畿グループ長
 副グループ長 米田 仁福 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 シニアマネージャー
 委員 中森 信輔 (株)泉産業 代表取締役社長
 委員 西田 善貞 イビデンケミカル(株) ガス事業部 高石事業所 取締役工場長
 委員 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
 委員 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 専任部長
 委員 的場 信之 紀州エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
 委員 植田 秀樹 京都帝酸(株) 専務取締役
 委員 石井 長文 協和ガス(株) 大阪工場 製造主任
 委員 和泉 良明 近畿エア・ウォーター(株) 取締役 技術部 部長 兼 医療部 部長
 委員 大村 明 小池酸素工業(株) 大阪支店 係長
 委員 西川 隆浩 高圧ガス工業(株) 堺工場長
 委員 椋橋 明次 大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 技術本部 保安技術統括部長 兼 保安技術課長
 委員 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
 委員 大岡 裕文 大丸エナウイン(株) 医療・産業ガス事業部 医療ガス課長
 委員 池田 恵英 日東アセチレン(株) 代表取締役
 委員 小林祐一郎 ネクスト・ワン(株) 本社営業部 ゼネラルマネージャー

水素・炭酸技術グループ

グループ長 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
 副グループ長 青木 孝之 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(近畿駐在)
 委員 佐藤 研一 尼崎水素販売(株) 所長
 委員 佐々木秀登 イワタニカーボニックス(株) 製造部長
 委員 浦谷 明弘 エア・ウォーター(株) コンプライアンスセンター 保安推進部 担当部長
 委員 米田 仁福 岩谷瓦斯(株) 環境保安部 シニアマネージャー
 委員 山中 昭一 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店長
 委員 岩見 憲二 近畿炭酸(株) 取締役管理部長
 委員 今村 清孝 昭和電工ガスプロダクツ(株) 西日本支店 主事
 委員 綱島 誠司 新日鉄住金化学(株) 水素充填班 班長

委員 阪田 尚久 日本液炭(株) 関西支社 技術サービス課長
委員 小川 悦郎 (株)リキッドガス 営業本部 営業技術部長

RFタグ推進部会

部長 神崎 昌久 大陽日酸(株) 執行役員 関西支社長
委員 岩永 友孝 岩谷産業(株) 常務執行役員 近畿支社長
委員 植田 秀樹 京都帝酸(株) 専務取締役
委員 和泉 良明 近畿エア・ウォーター(株) 取締役技術部 部長 兼 医療部 部長
委員 安田 英司 高圧ガス工業(株) 執行役員 ガス事業本部 近畿地区長
委員 三宅 新一 大陽日酸(株) 関西支社 技術部長
委員 松田 常博 日本エア・リキッド(株) 関西地域本部 担当部長

注) 平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 活動報告

(1) 近畿地域本部主催

○充填ガス部会 兵庫支部会

日時：平成25年3月5日(火) 16:00～17:00

会場：兵庫県中央労働センター

内容：震災による容器流出被害報告、会長巡回会議資料等

○幹事会

日時：平成25年3月7日(木) 11:00～12:30

会場：宇津房

内容：平成24年度収支見込み、平成25年度予算案承認

○エアガス・アセチレン技術グループ会議

日時：平成25年3月13日(水) 16:00～17:00

内容：会長巡回会議資料、行事予定等

○充填ガス部会 和歌山支部

日時：平成25年3月14日(木) 15:30～16:35

会場：ホテルグランピア和歌山

内容：震災による容器流出被害報告、会長巡回会議資料等

○幹事会

日時：平成25年4月19日(金) 10:00～11:20

会場：大阪会館

内容：総会議案書の承認、表彰推薦等

○充填ガス部会 京都・滋賀支部

日時：平成25年4月26日(金) 11:00～12:45

会場：新・都ホテル

内容：震災による容器流出被害報告、その他等

(2) セミナー講習会

○水素ガス消費基準

日時：平成25年2月13日(水) 13:30～16:25

会場：大阪科学技術センター

参加者：65名

○第4回RFタグ説明会

日時：平成25年2月22日(金) 14:00～16:00

会場：大阪府商工会館

参加者：60名

(3) 他団体行事

○大阪高圧ガス保安研修会

日 時：平成25年2月21日(木) 13:30～16:50

会 場：エル・おおさか 南館

出席者：事務局長

○防災研修会（大阪府地防協）

日 時：平成25年3月15日(金) 14:00～16:30

会 場：大阪府商工会館

出席者：事務局長

○大阪府高圧ガス安全協会定時総会

日 時：平成25年5月15日(水) 15:30～18:00

会 場：天王寺都ホテル

出席者：事務局長

○大阪高圧ガス熔材組合定時総会懇親会

日 時：平成25年5月23日(木) 17:30～19:00

会 場：スイスホテル南海大阪

出席者：本部長、事務局長

○近畿高圧ガス容器管理委員会理事会

日 時：平成25年5月28日(火) 14:00～15:30

会 場：大阪会館

出席者：派遣役員

○大阪府LPガス協会定時総会懇親会

日 時：平成25年5月29日(水) 17:00～18:30

会 場：ホテル阪神

出席者：本部長、事務局長

○兵庫県高圧ガス協同組合定時総会懇親会

日 時：平成25年5月30日(木) 17:00～19:00

会 場：神戸市産業振興センター

出席者：本部長、事務局長

○近畿高圧ガス容器管理委員会総会

日 時：平成25年6月18日(火) 14:00～14:55

会 場：大阪会館

出席者：派遣役員



水素ガス消費基準



第4回 RF タグ説明会

中国地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月16日(木) 15:00～15:55

会場：ホテル 広島ガーデンパレス「白鳥の間」

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会一致で承認された。

報告事項

- (1) 会員の動静について 指定代表者の交代4社、社名変更3社
- (2) 平成25年度の幹事について 3名の交代

本部出席者

副会長 鏑木 正
常務執行役員 達 嘉樹
常務執行役員 加藤 尚嗣

柳田本部長挨拶

本日は皆様方ご多忙の中、平成25年度のJIMGA中国地域本部 産業ガス部門の定時総会にご出席頂き、ありがとうございます。また本部からは、鏑木副会長、達常務執行役員、加藤常務執行役員のご出席も頂き、重ねて御礼申し上げます。

さて、昨夜平成25年度予算が成立しましたが、これから打ち出される第3の矢の「成長戦略」で景気上昇がいかにか我々のところにまで及んでくるか気になるところです。中国地方は自動車、鉄鋼、造船、化学、半導体、食品と非常にバランスよく配置された工業地域ですが、現状は、造船は底を脱していない、自動車は我々の業界まで恩恵が

廻ってきていない、半導体は依然よくないと、なかなか厳しい状況であります。しかしながら、高圧ガス業者においては、高圧ガス保安に常に取組んで行かなければならないことはいうまでもありません。大きな事故こそ起きていませんが、事故件数は依然増加傾向にあり、特に容器に関する事故が減らない状態です。事故撲滅に向けての努力をして行く必要性を感じています。

JIMGAでは容器管理のツールとしてRFタグの導入に力を入れていることは皆様ご承知だと思います。最新のデータでは、平成25年3月末現在58拠点で約25万本の容器にRFタグが装着されており、中国地域では約4万5千本、全国の18%程度となっています。皆様には今後一層の普及活動をお願いいたします。

同時に、JIMGAでは「高圧ガス容器管理指針」の発行を行政と交渉中でもあります。現在26都道府県から出しています。特に中国地区は消防への権限委譲が進んでいることもあり、未だゼロでございますので、こちらも進めて行きたいと考えています。

今後の中国地域の各産業の復活を期待しつつ、本総会の各議案の十分な審議をお願いしまして挨拶とさせていただきます。



柳田本部長挨拶

鎚木副会長挨拶

日頃は、JIMGAの活動にご支援、ご協力を頂きまして、改めて御礼を申し上げます。

さて1年前と比較しますと、政治、経済情勢は大きく変わっております。昨年末の安倍新内閣発足に伴ういわゆる「アベノミクス」により、世の動きは大きく変わって参りました。前政権時代の決められない政治から、行動を伴った政治、経済に変わりつつあり、我々の業界にも今後良い影響が出るよう大いに期待しております。

昨年来の電力料金の値上げは東京電力に始まり、関西電力、九州電力と実施に移され、今後も他の電力会社に広がりそうであります。JIMGAではこの1年半これらの値上げについて、圧縮努力等を電力各社、関係官庁に要請して参りました。会員会社におかれても電力料金の転嫁に向けて努力しておられるようですが、電力は当業界の死命を制する重要な問題ですので、本部としても引続きあらゆる面から会員の皆様にお役に立てるように、働きかけて行く所存であります。ご参考までに今までの東電、関電、九電による値上げの業界への影響額は年間88億円であり、仮に同様の値上げが全国で実施されると年間約150億円となります。さらに、今後数カ月間の燃料調整、円安による実質的な値上げも1kwhあたり1.2円程度考えられますので、これにより平成25年3月と比較して全国で年間76億円の負担となります。

次に、今年度の課題についてお話させていただきます。JIMGA産業ガス、医療ガス部門におきましては従来通りそれぞれ4つの課題に重点的に取り組めます。

まず産業ガス部門については、第一に「保安の一層の強化、推進」です。第二に、所有者不明容器・放置容器撲滅のためにRFタグの普及を更に推進し、容器管理の強化・徹底を図ります。この1年で16拠点、11万本増、現在53拠点で23万本に装着されていますが、平成27年に310万本

への装着を目指しています。第三に「環境安全部会」を中心とした環境への取組みと電力関係の問題です。第四に国際整合化です。これもますます重要なテーマであり、「国際部会」を中心に活発に取組みます。

医療ガスにつきましても4つの課題があります。第一に事故対策です。全国各地域本部で医療従事者を対象とした草の根講習会を今年度も14カ所で開催することにより、事故撲滅に努めます。第二に医療ガスの国際整合化の課題です。昨年度『医療用ガスに関する製造管理及び品質管理の基準』の説明会を全国10会場で開催しました。第三にMGR制度の拡充、充実です。現在延べ3,092名のMGR認定者となっています。今年度も更新時講習の実施によりMGRの資質の向上に努めます。第四は地域防災協定の展開です。この1年で12道県と新たに締結し、現在38都道府県と締結するに至りました。各地域の皆様には大変ご尽力を頂きましたが、特に中国地域本部におかれましては昨年8月に鳥取県と、また年が明けて2月に山口県、3月に島根県と締結して頂きました。これで管轄全県締結となり、中国地域本部の皆様方のご努力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

産業、医療ガス分野それぞれの課題は以上ですが、両部門共通の課題は2つあります。共通課題の第一はコンプライアンスの徹底です。第



鎚木副会長挨拶

二に、我々の産業・医療ガスが社会のインフラ及びライフラインとしての重要なものであるということ、これを社会の皆様方にご理解頂くことです。

以上産業ガス部門、医療ガス部門の課題を申し上げましたが、今年は特に次のことを地域の皆様方にも取組みをお願いしたいと思っています。一つは先ほども申し上げましたRFタグの普及です。現状毎月約1万本程度普及していますが、これでは平成27年度末の目標310万本に到達することは不可能です。これを達成するには、産業、医療両部門、とりわけ地域の皆様方、会員の方々のご理解、ご協力、採用が非常に重要です。もう一つは表彰制度の運用を今年から開始しますが、地域の方々のご理解、ご参加、お力をお借りしたいと思っています。せっかく始める表彰制度ですので、権威ある賞とするためには、本部と地域が一体となって本表彰制度を運用、盛り立てて行くことが重要です。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日までご出席の皆様方のますますのご健勝とご発展、またそれぞれの会社の発展隆盛を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

産業ガス事業における生産、流通、利用、消費に関して改善・合理化の推進、技術の向上及び安全・保安の確保に努め、高圧ガス事故を未然に防ぎ、国民生活に寄与するため次の活動を行う。

(1) 保安講習会、セミナーの実施

- ・ 保安法令講習会

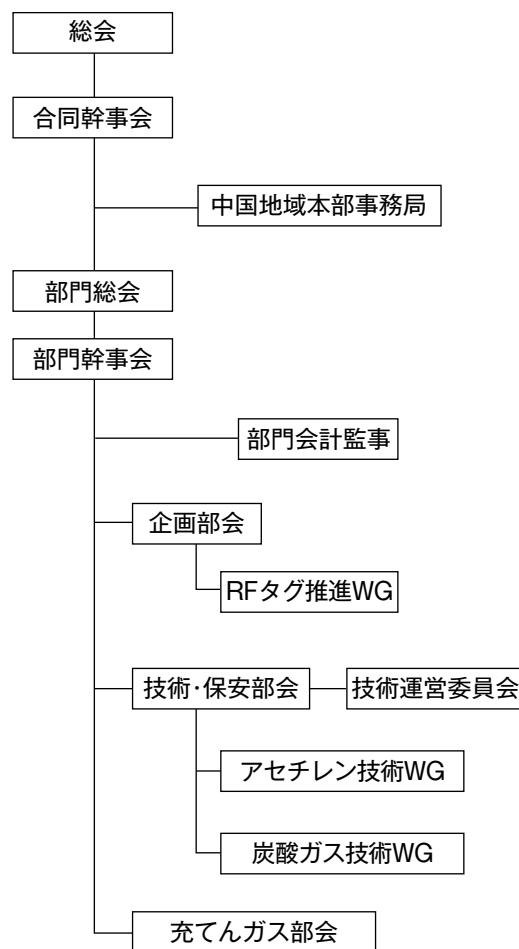
平成25年10月17日(岡山コンベンションセンター)

- ・ 保安セミナー

平成26年2月(場所未定)

- (2) 各県保安大会や高圧ガス保安活動促進週間行事への積極的参加
- (3) RFタグの普及・促進
- (4) 放置容器特別回収月間(10月)の推進

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿(平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同

役員



本部長

柳田 裕久
大陽日酸(株)
執行役員 中四国支社長



副本部長

藤井 基博
藤井商事(株)
代表取締役会長



副本部長

並河 勉
山陰酸素工業(株)
代表取締役社長



副本部長

町頭 禎之
岩谷産業(株)
中国支社長



副本部長

名越 一品
高圧ガス工業(株)
取締役 ガス事業本部
中四国地区長

- 幹事 都築 康彦 エア・ウォーター(株) 執行役員 中・四国支社長
- 幹事 田口 博章 日本エア・リキード(株) 中国支店長
- 幹事 松本 久昭 岡山エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
- 幹事 國廣 憲 中国アセチレン(株) 代表取締役社長
- 幹事 小椋 英邦 日本液炭(株) 中四国支社長

企画部会

- 部会長 古田 正彦 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長
- 委員 小林 靖昌 岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
- 委員 加納 郁久 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
- 委員 福井 雅則 高圧ガス工業(株) 広島工場長
- 委員 牧山 義仁 岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
- 委員 岡崎 貴之 藤井商事(株) 本社工場 製造部長
- 委員 櫛田 利道 山陰酸素工業(株) 取締役 安来ガスセンター長
- 委員 湯桶 定己 エア・リキード工業ガス(株) 山口工場長
- 委員 吉藤 宏行 岡山エア・ウォーター(株) 工場長
- 委員 黒田 秀昭 中国アセチレン(株) 取締役工場長

RFタグ推進WG

WG長	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 取締役工場長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長
委員	岡崎 貴之	藤井商事(株) 本社工場 製造部長
委員	小林 博	山陰酸素工業(株) 統括保安グループ 部長

技術・保安部会

部会長	加納 郁久	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
副部会長	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	羽生 優	中・四国エア・ウォーター(株) 広島支店 下松ガスセンター長
委員	花田 英治	(株)ゼネラルガスセンター 三原工場長
委員	竹部 和敬	山陰酸素工業(株) 常務取締役 技術本部長
委員	金塚 博	山陽酸素(株) 工場長
委員	水崎 正信	(株)ゼネラルガスセンター 工場長
委員	石川 桂	中国酸素(株) 取締役本社工場長
委員	海上 欣三	中・四国エア・ウォーター(株) 広島支店 広島工場長
委員	竹下 亨	大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 広島支店長
委員	岡崎 貴之	藤井商事(株) 本社工場 製造部長
委員	藤原 慎治	藤井商事(株) 水島工場 製造係長
委員	住岡 二郎	ニッキフッコー(株) 製造リーダー
委員	徳永 守男	リンクス(株) テクノガスセンター工場長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株) 岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株) 尾道工場長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 取締役工場長
委員	林 信次	水島アセチレン工業(株) 工場長
委員	大野 剛	安浦アセチレン(株) 広島工場長
委員	小林 統	日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長
委員	大坪 鉦二	昭和電工ガスプロダクツ(株) 西日本支店 中・四国営業所技術リーダー
委員	小林 靖昌	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
委員	桑木野順朗	広島日酸(株) 取締役工場長
委員	古田 正彦	日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ長

アセチレン技術WG

WG長	福井 雅則	高圧ガス工業(株) 広島工場長
委員	牧山 義仁	岩谷瓦斯(株) ガス事業部 中国事業所 広島工場長
委員	竹下 亨	大陽日酸ガス&ウエルディング(株) 広島支店長
委員	黒田 秀昭	中国アセチレン(株) 取締役工場長
委員	加納 郁久	大陽日酸(株) 中四国支社 技術部長
委員	西村 宏一	高圧ガス工業(株) 岡山工場長
委員	金谷 利雅	小池酸素工業(株) 尾道工場長
委員	林 信次	水島アセチレン工業(株) 工場長

炭酸ガス技術WG

WG長	小林 靖昌	岩谷産業(株) 環境保安部 保安担当 担当部長(中国駐在)
委員	大坪 鉦二	昭和電工ガスプロダクツ(株) 西日本支店 中・四国営業所 技術リーダー
委員	小林 統	日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長
委員	石葉 光伸	エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長

充てんガス部会

部会長	藤井 基博	藤井商事(株) 代表取締役会長
委員	小林 通匡	ニッキフッコー(株) 代表取締役社長
委員	並河 勉	山陰酸素工業(株) 代表取締役社長
委員	平松 丈始	旭化成酸素(株) 代表取締役社長
委員	松本 久昭	岡山エア・ウォーター(株) 代表取締役社長
委員	坪井 亮	小池酸素工業(株) 中国支店長
委員	岡本 茂裕	オカモト産業(株) 代表取締役社長
委員	木次 徳在	山陽酸素(株) 取締役社長
委員	橘 快樹	(株)ゼネラルガスセンター 代表取締役社長
委員	高山 眞司	高山産業(株) 代表取締役社長
委員	山本 敬史	大和酸素(株) 代表取締役社長
委員	國廣 憲	中国アセチレン(株) 代表取締役社長
委員	川崎 能弘	中国酸素(株) 常務取締役
委員	西村 浩和	中・四国エア・ウォーター(株) 広島支店 取締役支店長
委員	渋江 幹男	中・四国エア・ウォーター(株) 岡山支店 取締役支店長
委員	山脇 淳平	広島高圧ガス(株) 代表取締役
委員	桑木野順朗	広島日酸(株) 取締役工場長
委員	長谷川 利	エア・リキード工業ガス(株) 中四国支社長
委員	小西 章平	水島アセチレン工業(株) 取締役営業部長
委員	松本 眞	リンクス(株) 代表取締役
委員	川崎 兼二	岩谷瓦斯(株) 理事 中国事業所長

注)平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

四国地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月16日（木）15:00～15:45

会場：ホテル日航高知「旭ロイヤル」

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算
について承認を求める件・平成24
年度収支決算の会計監査報告

第2号議案 平成25年度事業計画（案）並びに
収支予算（案）について承認を求め
る件

第3号議案 四国地域本部災害時マニュアル制
定について承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会
一致で承認された。

本部出席者

代表監事 岩崎 廣和
常務理事 篠塚 賢藏
常務執行役員 増田 弘

野村本部長挨拶（要旨）

JIMGA四国では末端消費者向け保安講習会並
びに企業研修会を実施し、積極的に自主保安の確
保に努めており、関係各方面から多大の評価を頂
いていると述べた。「保安の確保」「事故の撲滅」
については高圧ガス事業者にとって事業を継続
し、発展させて行くためには欠くことのできない
課題なので、今後とも地域に密着した取組みを一
層推進して行きたいと述べ、RFタグについても
その優位性にふれ、より導入速度を速めるよう協
力をお願いしたいと締め括られた。

岩崎代表監事挨拶（要旨）

産業ガス部門での重点課題「保安の一層の強

化、推進」、「RFタグの普及の推進」、「環境への
取組みと電力関係の問題」、「国際整合化」の4点
にふれられたあと、RFタグ普及推進と表彰制度
の運用について会員各社へ従来以上のご協力、ご
支援を賜りたいと述べた。



野村本部長挨拶



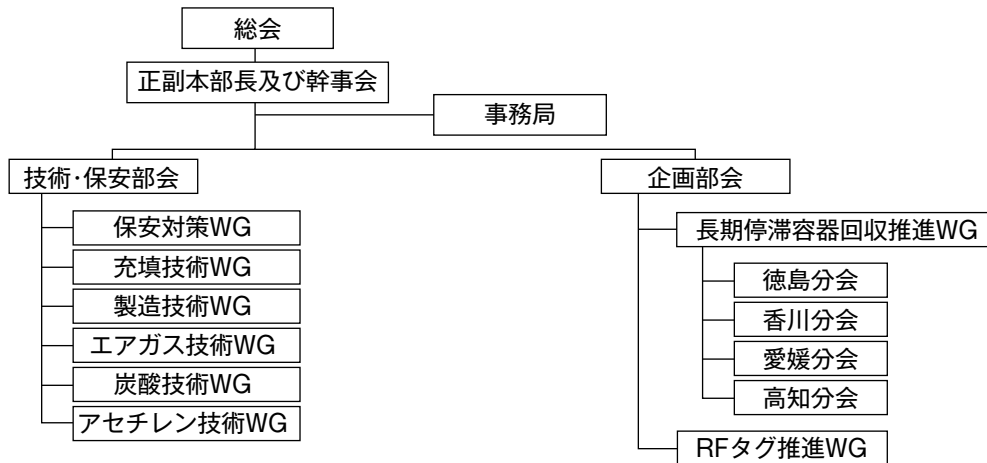
岩崎代表幹事挨拶

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

末端消費者向け保安講習会並びに企業研修会
を実施し、安全意識の浸透に努めます。また、長
期停滞容器・放置容器の撲滅のため、以下のこと
に取組んでいきます。

- (1) 県行政への環境改善に向けた要望の継続
- (2) RFタグの勉強会を通じた経過報告並びに
普及活動の促進
- (3) 高圧ガス関係諸団体との連携推進などによ
る当地区の高圧ガスに係る状況改善

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同
役員



本部長
野村 茂
土佐酸素(株)
代表取締役社長



副本部長
大橋 正明
四国アセチレン工業(株)
代表取締役社長



副本部長
太田 洋一
日本エア・リキード(株)
四国支店長



副本部長
長谷 眞史
四国岩谷産業(株)
取締役部長

- 幹事 米田 勝明 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 取締役支店長
- 幹事 武田 和倫 四国大陽日酸(株) 代表取締役社長
- 幹事 新田 茂 大陽日酸(株) 中四国支社 四国支店長
- 幹事 佐々木利明 高松帝酸(株) 専務執行役員
- 会計監事 一色あをみ 大和酸素工業(株) 代表取締役社長

技術・保安部会

部会長 太田 洋一 日本エア・リキード(株) 四国支店長

保安対策WG

- WG長 藤井 保秀 高松帝酸(株) 製造技術部 担当部長
- 委員 田中 智博 エア・ウォーター炭酸(株) 大阪支店 課長
- 委員 大村 孝司 四国大陽日酸(株) 常務取締役 技術部長
- 委員 福原 清文 大陽日酸(株) 中四国支社 技術部 担当課長
- 委員 竹内 正則 四国岩谷産業(株) 担当技術部長
- 委員 鈴木 利光 昭和電工ガスプロダクツ(株) 西日本支店 中・四国営業所 主査
- 委員 小林 統 日本液炭(株) 中四国支社 課長
- 委員 森山 康広 日本エア・リキード(株) カスタマー・エンジニアリング部 中四国グループ主査
- 委員 吉井 英世 小池酸素工業(株) 四国営業所長

委員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 課長

充填技術WG

WG長 立花 靖司 土佐酸素(株) 常務取締役 製造技術部長
委員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 専務取締役
委員 住吉 直人 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 香川工場長
委員 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長
委員 木村 昭夫 (株)東予ガスセンター センター長
委員 片山 昌也 エヒメ酸素(株) 主任

製造技術WG

WG長 三輪 朗 四国液酸(株) 取締役工場長
委員 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長
委員 伊藤 聖哉 住化高純度ガス(有) 製造課長

エアガス技術WG

WG長 武智 元 松山オキシトン(株) 工場長

炭酸技術WG

WG長 小林 統 日本液炭(株) 中四国支社 技術サービス課長

アセチレン技術WG

WG長 樋笠 和樹 四国アセチレン工業(株) 製造部門長

企画部会

部会長 野村 茂 土佐酸素(株) 代表取締役社長

長期停滞容器回収推進WG

WG長 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
徳島分会 堀田 禎一 四国大陽日酸(株) 徳島営業所長
香川分会 富家 康晴 四国大陽日酸(株) 香川営業所長
愛媛分会 齋藤 公司 エヒメ酸素(株) 常務取締役
高知分会 光本 章信 土佐酸素(株) 常務取締役

RFタグ推進WG

WG長 長谷 眞史 四国岩谷産業(株) 取締役営業部長
委員 大橋 正明 四国アセチレン工業(株) 代表取締役社長
委員 一色 貴志 大和酸素工業(株) 専務取締役
委員 大村 孝司 四国大陽日酸(株) 常務取締役 技術部長
委員 光本 章信 土佐酸素(株) 常務取締役
委員 齋藤 公司 エヒメ酸素(株) 常務取締役
委員 米田 勝明 中・四国エア・ウォーター(株) 四国支店 取締役支店長
委員 川崎 起樹 高圧ガス工業(株) 岡山工場 課長
委員 服部 厚司 高松帝酸(株) 製造技術部 部長

注) 平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 行事開催報告

(1) 第1回技術・保安部会

日時：平成25年5月9日(木) 11:00～13:00

会場：四国地域本部

出席者：16名

課題：平成25年度活動計画及びWG名簿の確認

(2) 第2回技術・保安部会

日時：平成25年7月4日(木) 12:00～13:40

会場：四国地域本部

出席者：14名

課題：①平成25年度活動計画について

- 1) 高圧ガス製造技術勉強会
- 2) 消費者向け保安講習会
- 3) 企業訪問

②四国地域本部災害時マニュアルについて

(3) 各種高圧ガス製造技術勉強会

日時：平成25年8月22日(木) 13:00～16:30

会場：ホテルパールガーデン

参加者：29名

<内容>

- ・高圧ガス保安法 移動、消費等について
- ・充てん工場の地震対策指針 追補版
- ・e-ラーニング炭酸ガスの安全な取扱い
- ・酸素による事故事例と安全対策DVD



各種高圧ガス製造技術勉強会の模様

6. 今年度の講習会予定

(1) 高圧ガス保安講習会

日時：平成25年11月6日(水) 13:00～

会場：サンピアシリーズ

九州地域本部

1. 定時総会

日時：平成25年5月17日（金）14:30～16:00

会場：博多都ホテル

議 題

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支報告の件

第2号議案 平成25年度事業計画（案）及び予算（案）の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り全会一致で承認された。

報告事項

- (1) 平成24年度販売・消費事業所高圧ガス点検結果報告
- (2) 平成24年度講習会開催報告

本部出席者

副会長 渡邊 秀生
常務理事 篠塚 賢藏
常務執行役員 小峰 史朗

永江代表地域本部長挨拶（抜粋）

日頃はJIMGA九州地域本部の活動にご支援、ご協力を頂きまして改めてお礼申し上げます。私は本年4月より上原前本部長の後任として本部長を仰せつかりました大陽日酸の永江です。今後、九州地域本部で会員各社の皆様と一緒に諸問題について対応して参りますので何卒ご支援のほどお願い申し上げます。また本日はJIMGA本部からご来賓として渡邊副会長、篠塚常務理事、小峰常務執行役員にお越し頂き、ありがとうございます。

昨年の政権交代から約半年で102円台半ばという円安傾向と5年4ヶ月ぶりの株価1万5,000円台回復により、一部企業では景気回復を先取りした



永江代表地域本部長挨拶

ところもありますが、当会員の関係ではいかがでしょうか。雰囲気だけを味わう、ちょうど空腹時のラーメン屋の店先で匂いだけを嗅いでいるもどかしさに似ているように思えます。

一方で東電に始まる関電、九電の3電力会社の値上げで業界の影響額は88億円と試算され、我々業界にとって本当に死活問題となっています。

JIMGA本部では産業部門、医療部門ともに4つの課題に取り組んでいますが、九州地域本部の本部長として2つの課題に言及したいと思います。一つは「保安の一層の強化と推進」です。報道では1月から3月の3ヶ月でGDPが前年比0.9%伸び、年率では3.5%です。我々業界の経験値ではガス使用量の伸びは1.5倍の5.3%になると言われています。九州の鉱工業生産指数は平成17年度を100として3月速報値も100であり、景気回復は感じられません。いずれにせよ本当に景気回復して、ガス需要が増えた途端に高圧ガス事故を起こして信用を失ってはならないので、そういった意味でも「保安の一層の強化と推進」に真剣に取り組んで行きたいと考えています。

もう一つは「地域防災協定の推進」です。一昨年の大震災では、防災協定が締結された地域にはスピーディーに医療ガスを届けることができましたが、この協定書は緊急車両の扱いだけでなく、

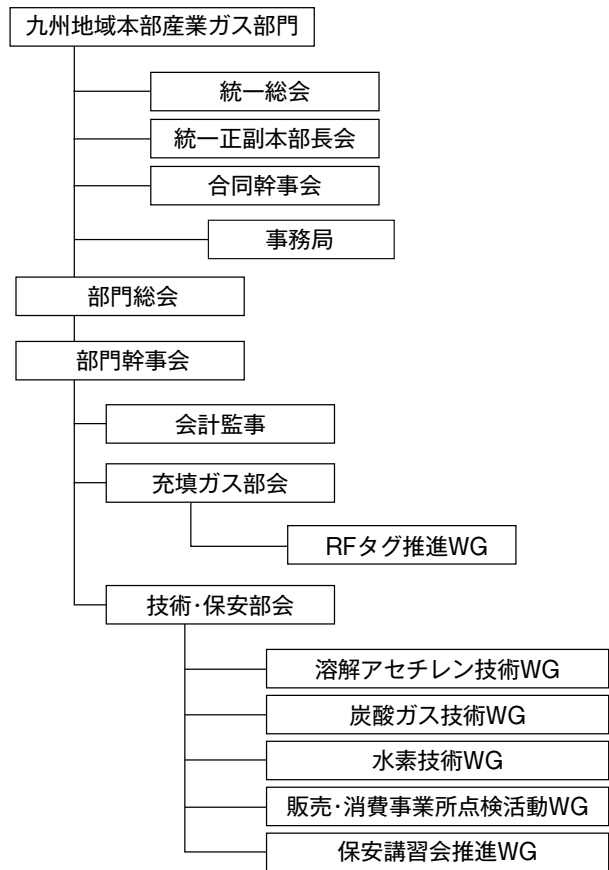
ガス代金支払いの確約や被災地にガスを運ぶ際の2次災害について公的保証もなされる、業界にとっても重要な協定です。九州地域は5県が未締結ですので、ぜひとも今年度中に締結させたいと思います。

これから提案する議題について、総会あるいは終了後の懇親会で忌憚のないご意見を頂きますよう、よろしくお願いいたします。

2. 平成25年度産業ガス部門活動方針

- (1) JIMGA本部、関係団体、行政関係部署との連携推進
- (2) 会員向け情報発信の迅速化及び充実 (JIMGA本部の活動状況、行政の動向等)
- (3) 放置容器・不明容器対策の推進 (九州高圧ガス容器管理委員会との連携)
- (4) 行政への容器管理指針発行要請 (KKHR、各県KHKと連携)
- (5) RFタグの周知・普及の推進

3. 組織図



4. 役員・部会・WG名簿 (平成25年7月1日現在) 敬称略・順不同 役員



本部長
永江 裕
大陽日酸(株)
九州支社 執行役員
支社長



副本部長
坂井 万城
日本エア・リキード(株)
西日本地域本部長



副本部長
田中 良典
エア・ウォーター(株)
執行役員 九州支社長

- | | | | |
|----|-------|------------|------------|
| 幹事 | 宮嶋 寛幸 | 福豊帝酸(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 田井中秀喜 | 岩谷産業(株) | 九州支社長 |
| 幹事 | 岡田 一夫 | 福岡酸素(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 三浦正太郎 | 西日本高圧瓦斯(株) | 代表取締役社長 |
| 幹事 | 廣瀬 俊明 | 高圧ガス工業(株) | 執行役員 九州地区長 |
| 幹事 | 江藤 伸一 | 江藤酸素(株) | 代表取締役会長 |

幹事	佐藤 泰憲	日本液炭(株)	九州支社長
幹事	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
幹事	山崎 俊隆	(株)武田商事	取締役社長
幹事	今川 敬志	内村酸素(株)	代表取締役社長
幹事	山本 和久	江藤酸素(株)	専務取締役
幹事	岩切 充弘	宮崎酸素(株)	代表取締役社長
幹事	内村 武志	サツマ酸素工業(株)	代表取締役社長
幹事	與儀 盛輝	(株)オカノ	代表取締役社長
会計監事	福田愛二郎	貴船商事(株)	代表取締役社長
会計監事	小林 孝	岩谷瓦斯(株)	理事 九州事業所長

充填ガス部会

部会長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
副部会長	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	岡田 正博	(株)武田商事	取締役本部長
委員	古場 孝則	内村酸素(株)	嘉島事業所 保安課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役 技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

RFタグ推進WG

WG長	宮嶋 寛幸	福豊帝酸(株)	代表取締役社長
委員	杉谷 英範	(株)朝日酸素商会	代表取締役社長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (九州駐在)
委員	東 成政	九州エア・ウォーター(株)	取締役製造技術部長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	渡島 康隆	西日本高圧瓦斯(株)	取締役 生産部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	園木 稔	福岡酸素(株)	業務部課長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	岡田 正博	(株)武田商事	取締役本部長
委員	古場 孝則	内村酸素(株)	嘉島事業所 保安課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役 技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	金城 優典	(株)オカノ	ガス部 部長

技術・保安部会

部会長	田中 良典	エア・ウォーター(株)	執行役員 九州支社長
委員	古賀 道義	福岡酸素(株)	取締役 技術統轄部長 兼 ガスエンジニアリング部長 兼 技術開発部長
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長

委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (九州駐在)
委員	渡島 康隆	西日本高压瓦斯(株)	取締役 生産部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役 専務執行役員 営業本部長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	ガス事業部 部長
委員	楠村 芳樹	内村酸素(株)	有明事業所 保安課長
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役 技工ブロック長
委員	岩切 英教	宮崎酸素(株)	専務取締役
委員	米重 義男	サツマ酸素工業(株)	メディカル事業部長
委員	諸喜田 隆	(株)オカノ	取締役

溶解アセチレン技術WG

WG長	野本 勝郎	高压ガス工業(株)	小倉工場長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (九州駐在)
委員	田坂 友成	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 九州事業所 北九州工場長
委員	三上 良宣	江藤酸素(株)	常務取締役
委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん	取締役
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	小柳 直	西日本高压瓦斯(株)	部長代理
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長

炭酸ガス技術WG

WG長	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	森 宏太郎	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 (九州駐在)
委員	吉田 秀幸	エア・ウォーター炭酸(株)	福岡支店 課長
委員	嘉陽 宗治	(株)おきさん	取締役
委員	村田 眞信	昭和電工ガスプロダクツ(株)	九州支店 副主事
委員	前原 郁美	福岡酸素(株)	品質管理部 次長

水素技術WG

WG長	折尾 美昭	岩谷瓦斯(株)	ガス事業部 九州事業所 佐賀工場長
委員	谷口 洋三	伊藤忠工業ガス(株)	取締役 営業本部 副本部長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (九州駐在)
委員	田坂 文夫	昭和電工(株)	福岡支店 マネージャー
委員	舟橋 和生	新日鉄住金化学(株)	ガス部 マネージャー
委員	菊池 誠	大陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	小林 隆	福岡酸素(株)	代表取締役 常務

販売・消費事業所点検活動WG

WG長	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長 (九州駐在)
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造・技術部係長
委員	野本 勝郎	高压ガス工業(株)	小倉工場長
委員	栗田 英次	大陽日酸(株)	九州支社 技術部 技術課長
委員	渡島 康隆	西日本高压瓦斯(株)	取締役 生産部長

委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	福田 寛治	福岡酸素(株)	保安管理部課長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役 専務執行役員 営業本部長
委員	長家 茂	福岡酸素(株)	伊万里支社長
委員	男澤 隆	(株)武田商事	ガス事業部 部長
委員	楠村 芳樹	内村酸素(株)	有明事業所 保安課長
委員	野尻 裕二	江藤酸素(株)	保安課長代理
委員	浜砂 幸次	宮崎酸素(株)	営業課長
委員	荒川 一裕	サツマ酸素工業(株)	専務取締役
委員	粟國 博史	(株)オカノ	中部営業所 ガス部第2課係長

保安講習会開催WG

WG長	山口 和美	日本エア・リキード(株)	カスタマー・エンジニアリング部 九州グループ長
委員	森 洋之介	岩谷産業(株)	環境保安部 保安担当 担当部長(九州駐在)
委員	佐藤 祐平	江藤酸素(株)	取締役 技工ブロック長
委員	山下 隆二	九州エア・ウォーター(株)	製造・技術部係長
委員	野本 勝郎	高圧ガス工業(株)	小倉工場長
委員	菊池 誠	太陽日酸(株)	九州支社 技術部長
委員	麻薙 克紀	日本液炭(株)	九州支社 技術サービス課長
委員	古賀 道義	福岡酸素(株)	取締役 技術統轄部長 兼 ガスエンジニアリング部長 兼 技術開発部長
委員	大村 利美	福豊帝酸(株)	取締役 専務執行役員 営業本部長

注) 平成25年7月1日現在の名簿ですが、7月1日以降の交代が判明した場合や組織の新設が明らかな場合は、交代後、新設後の内容を記載しております。

5. 今年度の講習会予定

(1) 地震対策セミナー

日時：平成25年9月9日(月) 13:30～16:30

会場：福岡商工会議所

統計データ一覧

2008年～2012年 地区別酸素（一般）販売実績推移表	107
2008年～2012年 地区別窒素（一般）販売実績推移表	108
2008年～2012年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表	109
業種別酸素（一般）販売実績推移表（5年間：2008～2012年度）	110
業種別窒素（一般）販売実績推移表（5年間：2008～2012年度）	111
業種別アルゴン（一般）販売実績推移表（5年間：2008～2012年度）	112
2012年4月～2013年3月 地区別酸素生産・販売実績表	113
2012年4月～2013年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ	113
2012年4月～2013年3月 地区別窒素生産・販売実績表	114
2012年4月～2013年3月 窒素生産量・一般販売実績推移グラフ	114
2012年4月～2013年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表	115
2012年4月～2013年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ	115
2008年度～2012年度 溶解アセチレン生産・販売実績表	116
2008年度～2012年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表	116
2008年～2012年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表	117
2008年～2012年 標準ガス国内販売実績推移表	118
2008年～2012年 圧縮水素出荷実績推移表	118

2008年～2012年 地区別酸素（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦 (暦年)	液化酸素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2008	14,470	105%	9,396	118%	5,104	100%	28,970	108%
	2009	16,286	113%	9,416	100%	4,555	89%	30,257	104%
	2010	14,470	89%	11,028	117%	4,520	99%	30,018	99%
	2011	14,277	99%	8,320	75%	4,415	98%	27,012	90%
	2012	14,464	101%	7,292	88%	4,538	103%	26,294	97%
東北	2008	60,714	104%	70,654	98%	2,638	97%	134,006	101%
	2009	53,430	88%	56,924	81%	2,441	93%	112,795	84%
	2010	54,503	102%	90,331	159%	2,251	92%	147,085	130%
	2011	49,218	90%	54,093	60%	2,033	90%	105,344	72%
	2012	46,121	94%	87,610	162%	2,223	109%	135,954	129%
関東	2008	249,468	97%	371,320	94%	12,697	93%	633,485	96%
	2009	217,448	87%	289,076	78%	10,981	86%	517,505	82%
	2010	236,465	109%	283,970	98%	10,529	96%	530,964	103%
	2011	231,474	98%	256,548	90%	9,968	95%	497,990	94%
	2012	231,529	100%	278,950	109%	9,787	98%	520,266	104%
東海	2008	195,610	96%	195,861	89%	5,058	99%	396,529	92%
	2009	138,249	71%	134,793	69%	3,680	73%	276,722	70%
	2010	158,513	115%	182,949	136%	3,755	102%	345,217	125%
	2011	159,609	101%	187,330	102%	3,903	104%	350,842	102%
	2012	148,354	93%	184,363	98%	3,830	98%	336,547	96%
近畿	2008	290,967	105%	189,246	98%	6,815	97%	487,028	102%
	2009	211,127	73%	119,877	63%	5,894	86%	336,898	69%
	2010	261,597	124%	143,115	119%	6,136	104%	410,848	122%
	2011	254,300	97%	142,700	100%	5,716	93%	402,716	98%
	2012	241,383	95%	129,184	91%	5,375	94%	375,942	93%
中国	2008	96,254	102%	238,895	84%	4,282	99%	339,431	89%
	2009	84,573	88%	165,045	69%	3,442	80%	253,060	75%
	2010	87,434	103%	203,870	124%	3,249	94%	294,553	116%
	2011	76,428	87%	182,820	90%	3,200	98%	262,448	89%
	2012	65,890	86%	130,976	72%	3,073	96%	199,939	76%
四国	2008	40,523	100%	65	52%	2,608	102%	43,196	100%
	2009	33,595	83%	121	186%	2,274	87%	35,990	83%
	2010	28,077	84%	803	664%	1,986	87%	30,866	86%
	2011	33,715	120%	190	24%	2,059	104%	35,964	117%
	2012	31,126	92%	0	0%	2,027	98%	33,153	92%
九州	2008	111,681	94%	133,662	159%	2,972	98%	248,315	121%
	2009	89,878	80%	120,036	90%	2,266	76%	212,180	85%
	2010	87,624	97%	109,043	91%	1,888	83%	198,555	94%
	2011	90,350	103%	114,457	105%	1,820	96%	206,627	104%
	2012	95,265	105%	87,480	76%	1,789	98%	184,534	89%
合計	2008	1,059,687	100%	1,209,099	96%	42,174	97%	2,310,960	98%
	2009	844,586	80%	895,288	74%	35,533	84%	1,775,407	77%
	2010	928,683	110%	1,025,109	115%	34,314	97%	1,988,106	112%
	2011	909,371	98%	946,458	92%	33,114	97%	1,888,943	95%
	2012	874,132	96%	905,855	96%	32,642	99%	1,812,629	96%

2008年～2012年 地区別窒素（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦 (暦年)	液化窒素	対前年比	パイピング	対前年比	ポンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2008	33,755	90%	26,005	99%	960	92%	60,720	94%
	2009	33,708	100%	24,415	94%	1,020	106%	59,143	97%
	2010	34,906	104%	25,941	106%	1,028	101%	61,875	105%
	2011	36,159	104%	24,349	94%	995	97%	61,503	99%
	2012	35,035	97%	24,192	99%	1,017	102%	60,244	98%
東北	2008	216,655	96%	38,237	102%	1,423	101%	256,315	97%
	2009	173,485	81%	31,024	81%	1,206	85%	205,715	80%
	2010	185,974	107%	30,033	97%	1,286	107%	217,293	106%
	2011	162,812	88%	27,572	92%	1,233	96%	191,617	88%
	2012	172,095	106%	34,399	125%	1,297	105%	207,791	108%
関東	2008	893,708	100%	914,818	104%	12,580	97%	1,821,106	102%
	2009	760,589	85%	911,235	100%	8,658	69%	1,680,482	92%
	2010	836,197	110%	954,586	105%	6,424	74%	1,797,207	107%
	2011	805,457	96%	932,672	98%	6,400	100%	1,744,529	97%
	2012	831,449	103%	911,513	98%	6,077	95%	1,749,039	100%
東海	2008	478,273	92%	320,706	101%	3,213	97%	802,192	95%
	2009	434,241	91%	301,045	94%	1,905	59%	737,191	92%
	2010	518,452	119%	331,641	110%	1,886	99%	851,979	116%
	2011	521,493	101%	326,836	99%	2,087	111%	850,416	100%
	2012	500,223	96%	356,072	109%	2,318	111%	858,613	101%
近畿	2008	508,549	102%	306,882	110%	3,604	95%	819,035	105%
	2009	438,013	86%	300,499	98%	2,767	77%	741,279	91%
	2010	457,554	104%	302,523	101%	3,078	111%	763,155	103%
	2011	435,744	95%	329,769	109%	3,039	99%	768,552	101%
	2012	391,682	90%	348,115	106%	2,930	96%	742,727	97%
中国	2008	136,553	91%	582,156	103%	1,243	93%	719,952	101%
	2009	113,054	83%	540,846	93%	883	71%	654,783	91%
	2010	135,420	120%	543,989	101%	740	84%	680,149	104%
	2011	127,146	94%	517,791	95%	729	99%	645,666	95%
	2012	128,088	101%	517,798	100%	823	113%	646,709	100%
四国	2008	41,459	95%	62,747	111%	815	99%	105,021	104%
	2009	34,850	84%	40,768	65%	673	83%	76,291	73%
	2010	34,640	99%	52,317	128%	638	95%	87,595	115%
	2011	43,883	127%	61,670	118%	631	99%	106,184	121%
	2012	46,300	106%	59,419	96%	573	91%	106,292	100%
九州	2008	168,754	91%	123,539	263%	1,256	92%	293,549	126%
	2009	148,842	88%	116,711	94%	783	62%	266,336	91%
	2010	153,780	103%	117,884	101%	821	105%	272,485	102%
	2011	158,273	103%	117,585	100%	793	97%	276,651	102%
	2012	160,164	101%	121,304	103%	757	95%	282,225	102%
合計	2008	2,477,706	97%	2,375,090	108%	25,094	96%	4,877,890	102%
	2009	2,136,782	86%	2,266,543	95%	17,895	71%	4,421,220	91%
	2010	2,356,923	110%	2,358,914	104%	15,901	89%	4,731,738	107%
	2011	2,290,967	97%	2,338,244	99%	15,907	100%	4,645,118	98%
	2012	2,265,036	99%	2,372,812	101%	15,792	99%	4,653,640	100%

2008年～2012年 地区別アルゴン（一般）販売実績推移表

単位：千 m³

地区別	西暦 (暦年)	液化アルゴン	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合計	対前年比
北海道	2008	2,426	100%	0	－	698	86%	3,124	96%
	2009	1,664	69%	0	－	535	77%	2,199	70%
	2010	2,640	159%	0	－	589	110%	3,229	147%
	2011	2,690	102%	0	－	500	85%	3,190	99%
	2012	2,455	91%	0	－	516	103%	2,971	93%
東北	2008	33,832	107%	0	－	777	88%	34,609	106%
	2009	23,748	70%	0	－	710	91%	24,458	71%
	2010	30,261	127%	0	－	728	103%	30,989	127%
	2011	23,676	78%	0	－	645	89%	24,321	78%
	2012	22,524	95%	0	－	755	117%	23,279	96%
関東	2008	59,692	97%	0	－	3,863	95%	63,555	97%
	2009	44,363	74%	0	－	2,695	70%	47,058	74%
	2010	53,358	120%	0	－	2,537	94%	55,895	119%
	2011	48,179	90%	0	－	2,319	91%	50,498	90%
	2012	48,624	101%	0	－	2,447	106%	51,071	101%
東海	2008	57,613	95%	0	－	1,699	98%	59,312	95%
	2009	43,606	76%	0	－	1,243	73%	44,849	76%
	2010	50,147	115%	0	－	1,087	87%	51,234	114%
	2011	48,053	96%	0	－	1,189	109%	49,242	96%
	2012	46,780	97%	0	－	1,544	130%	48,324	98%
近畿	2008	43,104	102%	0	－	2,292	98%	45,396	102%
	2009	33,558	78%	0	－	1,654	72%	35,212	78%
	2010	39,262	117%	0	－	1,586	96%	40,848	116%
	2011	39,671	101%	0	－	1,666	105%	41,337	101%
	2012	35,554	90%	0	－	1,614	97%	37,168	90%
中国	2008	12,961	95%	0	－	1,524	98%	14,485	95%
	2009	10,772	83%	0	－	983	65%	11,755	81%
	2010	12,692	118%	0	－	763	78%	13,455	114%
	2011	11,768	93%	0	－	751	98%	12,519	93%
	2012	11,099	94%	0	－	725	97%	11,824	94%
四国	2008	4,965	121%	0	－	712	101%	5,677	118%
	2009	4,590	92%	0	－	517	73%	5,107	90%
	2010	4,006	87%	0	－	474	92%	4,480	88%
	2011	4,350	109%	0	－	451	95%	4,801	107%
	2012	4,479	103%	0	－	483	107%	4,962	103%
九州	2008	22,878	106%	0	－	1,402	98%	24,280	105%
	2009	17,687	77%	0	－	893	64%	18,580	77%
	2010	21,071	119%	0	－	744	83%	21,815	117%
	2011	22,186	105%	0	－	719	97%	22,905	105%
	2012	18,782	85%	0	－	694	97%	19,476	85%
合計	2008	237,471	100%	0	－	12,967	96%	250,438	100%
	2009	179,988	76%	0	－	9,230	71%	189,218	76%
	2010	213,437	119%	0	－	8,508	92%	221,945	117%
	2011	200,573	94%	0	－	8,240	97%	208,813	94%
	2012	190,297	95%	0	－	8,778	107%	199,075	95%

業種別酸素（一般）販売実績推移表 (5年間：2008～2012年度)

単位：千m³

業種別	西暦 (年度)	液化酸素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2008	169,796	17%	393,465	38%	2,673	8%	565,934	28%
	2009	150,043	17%	315,030	33%	2,170	7%	467,243	25%
	2010	175,251	19%	395,389	39%	1,774	6%	572,414	30%
	2011	151,667	18%	375,008	40%	1,718	6%	528,393	29%
	2012	150,572	19%	351,056	39%	1,435	6%	503,063	29%
輸送用機械器具製造業	2008	68,030	7%	0	0%	940	3%	68,970	3%
	2009	63,092	7%	0	0%	655	2%	63,747	3%
	2010	61,002	7%	0	0%	515	2%	61,517	3%
	2011	57,590	7%	0	0%	514	2%	58,104	3%
	2012	52,198	7%	0	0%	465	2%	52,663	3%
機械器具製造業 (輸送用機械器具製造業を除く)	2008	82,880	8%	0	0%	864	2%	83,744	4%
	2009	78,412	9%	0	0%	633	2%	79,045	4%
	2010	81,693	9%	0	0%	560	2%	82,253	4%
	2011	81,015	9%	0	0%	510	2%	81,525	5%
	2012	71,872	9%	0	0%	518	2%	72,390	4%
金属製品製造業	2008	57,016	6%	31,263	3%	1,851	5%	90,130	4%
	2009	52,857	6%	25,626	3%	1,420	5%	79,903	4%
	2010	50,467	6%	26,714	3%	733	3%	77,914	4%
	2011	71,844	8%	24,745	3%	795	3%	97,384	5%
	2012	61,387	8%	20,906	2%	774	3%	83,067	5%
化学工業	2008	48,991	5%	550,826	54%	664	2%	600,481	29%
	2009	46,004	5%	537,680	57%	567	2%	584,251	32%
	2010	63,337	7%	504,108	50%	507	2%	567,952	29%
	2011	62,383	7%	457,331	49%	437	2%	520,151	29%
	2012	47,285	6%	468,437	52%	371	1%	516,093	30%
販売業者向け	2008	229,001	23%	3,283	0%	19,777	57%	252,061	12%
	2009	179,053	21%	2,858	0%	16,657	56%	198,568	11%
	2010	167,697	19%	906	0%	16,833	59%	185,436	10%
	2011	140,646	16%	0	0%	16,388	60%	157,034	9%
	2012	142,445	18%	0	0%	15,414	60%	157,859	9%
その他	2008	341,877	34%	45,651	4%	7,919	23%	395,447	19%
	2009	303,634	35%	61,855	7%	7,509	25%	372,998	20%
	2010	300,897	33%	84,334	8%	7,488	26%	392,719	20%
	2011	288,896	34%	72,149	8%	6,971	26%	368,016	20%
	2012	273,656	34%	67,204	7%	6,766	26%	347,626	20%
合計	2008	997,591	91%	1,024,488	83%	34,688	93%	2,056,767	87%
	2009	873,095	88%	943,049	92%	29,611	85%	1,845,755	90%
	2010	900,344	103%	1,011,451	107%	28,410	96%	1,940,205	105%
	2011	854,041	95%	929,233	92%	27,333	96%	1,810,607	93%
	2012	799,415	94%	907,603	98%	25,743	94%	1,732,761	96%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別窒素（一般）販売実績推移表 (5年間：2008～2012年度)

単位：千 m³

業種別	西暦 (年度)	液化窒素	構成比	パイピング	構成比	ポンベ詰	構成比	合計	構成比
鉄鋼業 (非鉄金属製造業を含む)	2008	119,935	5%	189,373	8%	798	3%	310,106	7%
	2009	137,707	6%	185,571	8%	524	3%	323,802	7%
	2010	142,881	6%	207,040	9%	374	3%	350,295	8%
	2011	132,137	6%	163,814	7%	406	3%	296,357	7%
	2012	127,945	6%	161,649	7%	455	3%	290,049	7%
輸送用機械器具製造業	2008	163,506	7%	10,226	0%	925	4%	174,657	4%
	2009	149,131	7%	42,906	2%	549	3%	192,586	4%
	2010	149,945	6%	10,822	0%	403	3%	161,170	3%
	2011	148,610	7%	10,705	0%	451	3%	159,766	4%
	2012	141,496	7%	11,726	1%	445	3%	153,667	3%
電気機械器具製造業	2008	655,418	28%	423,765	19%	3,105	12%	1,082,288	24%
	2009	678,896	30%	386,247	17%	2,261	14%	1,067,404	24%
	2010	691,489	30%	439,748	19%	1,810	13%	1,133,047	24%
	2011	667,039	30%	398,906	18%	1,888	13%	1,067,833	24%
	2012	601,243	28%	432,789	19%	1,633	12%	1,035,665	23%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2008	158,924	7%	857	0%	1,883	8%	161,664	4%
	2009	111,251	5%	812	0%	787	5%	112,850	3%
	2010	127,612	6%	843	0%	642	4%	129,097	3%
	2011	124,444	6%	745	0%	714	5%	125,903	3%
	2012	121,497	6%	812	0%	686	5%	122,995	3%
化学工業	2008	360,791	16%	1,354,138	61%	1,508	6%	1,716,437	37%
	2009	382,899	17%	1,367,532	61%	1,175	7%	1,751,606	39%
	2010	406,083	18%	1,426,364	61%	1,175	8%	1,833,622	39%
	2011	436,911	20%	1,417,466	63%	1,111	8%	1,855,488	41%
	2012	414,695	20%	1,407,541	62%	1,006	7%	1,823,242	41%
食品製造業	2008	133,590	6%	0	0%	602	2%	134,192	3%
	2009	135,501	6%	0	0%	286	2%	135,787	3%
	2010	144,304	6%	0	0%	216	2%	144,520	3%
	2011	136,900	6%	0	0%	225	2%	137,125	3%
	2012	134,820	6%	0	0%	201	1%	135,021	3%
販売業者向け	2008	296,640	13%	111,950	5%	12,304	49%	420,894	9%
	2009	287,941	13%	109,616	5%	8,320	50%	405,877	9%
	2010	238,494	10%	104,661	4%	7,362	51%	350,517	8%
	2011	199,033	9%	108,734	5%	7,449	51%	315,216	7%
	2012	213,255	10%	95,498	4%	7,046	52%	315,799	7%
その他	2008	436,835	19%	147,025	7%	3,830	15%	587,690	13%
	2009	366,259	16%	146,106	7%	2,641	16%	515,006	11%
	2010	413,348	18%	148,118	6%	2,344	16%	563,810	12%
	2011	382,063	17%	160,160	7%	2,291	16%	544,514	12%
	2012	367,065	17%	165,895	7%	2,170	16%	535,130	12%
合計	2008	2,325,639	89%	2,237,334	100%	24,955	102%	4,587,928	94%
	2009	2,249,585	97%	2,238,790	100%	16,543	66%	4,504,918	98%
	2010	2,314,156	103%	2,337,596	104%	14,326	87%	4,666,078	104%
	2011	2,227,137	96%	2,260,530	97%	14,535	101%	4,502,202	96%
	2012	2,122,016	95%	2,275,910	101%	13,642	94%	4,411,568	98%

* 合計欄の構成比は対前年度比

業種別アルゴン（一般）販売実績推移表 (5年間：2008～2012年度)

単位：千 m³

業 種 別	西暦 (年度)	液アルゴン	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合 計	構成比
鉄 鋼 業 (非鉄金属製造業を含む)	2008	50,392	24%	0	0%	1,429	13%	51,821	23%
	2009	53,022	27%	0	0%	1,198	16%	54,220	27%
	2010	56,429	27%	0	0%	1,140	16%	57,569	27%
	2011	57,678	30%	0	0%	1,097	16%	58,775	30%
	2012	52,094	29%	0	0%	1,004	15%	53,098	29%
輸送用機械器具製造業	2008	23,234	11%	0	0%	1,125	11%	24,359	11%
	2009	21,055	11%	0	0%	570	8%	21,625	11%
	2010	22,460	11%	0	0%	464	7%	22,924	11%
	2011	21,451	11%	0	0%	451	7%	21,902	11%
	2012	21,575	12%	0	0%	397	6%	21,972	12%
電気機械器具製造業	2008	41,428	20%	0	0%	472	4%	41,900	19%
	2009	40,424	21%	0	0%	363	5%	40,787	20%
	2010	44,427	22%	0	0%	389	5%	44,816	21%
	2011	35,445	19%	0	0%	383	6%	35,828	18%
	2012	30,173	17%	0	0%	412	6%	30,585	17%
機械器具製造業 (輸送用、電気機械器具製造業を除く)	2008	13,451	6%	0	0%	788	7%	14,239	6%
	2009	10,087	5%	0	0%	518	7%	10,605	5%
	2010	10,775	5%	0	0%	492	7%	11,267	5%
	2011	11,346	6%	0	0%	491	7%	11,837	6%
	2012	11,047	6%	0	0%	440	7%	11,487	6%
金属製品製造業	2008	8,550	4%	0	0%	936	9%	9,486	4%
	2009	8,039	4%	0	0%	519	7%	8,558	4%
	2010	9,806	5%	0	0%	456	6%	10,262	5%
	2011	11,938	6%	0	0%	439	6%	12,377	6%
	2012	11,456	6%	0	0%	396	6%	11,852	6%
化学工業	2008	5,249	2%	0	0%	271	3%	5,520	2%
	2009	5,387	3%	0	0%	204	3%	5,591	3%
	2010	5,726	3%	0	0%	182	3%	5,908	3%
	2011	5,975	3%	0	0%	183	3%	6,158	3%
	2012	5,590	3%	0	0%	212	3%	5,802	3%
販売業者向け	2008	42,114	20%	0	0%	4,844	45%	46,958	21%
	2009	38,166	19%	0	0%	3,661	49%	41,827	20%
	2010	37,923	18%	0	0%	3,561	50%	41,484	19%
	2011	29,383	15%	0	0%	3,389	49%	32,772	17%
	2012	29,347	16%	0	0%	3,258	50%	32,605	18%
そ の 他	2008	27,825	13%	0	0%	825	8%	28,650	13%
	2009	20,892	11%	0	0%	493	7%	21,385	10%
	2010	19,000	9%	0	0%	440	6%	19,440	9%
	2011	18,323	10%	0	0%	476	7%	18,799	9%
	2012	16,783	9%	0	0%	426	7%	17,209	9%
合 計	2008	212,243	88%	0	-	10,690	90%	222,933	88%
	2009	197,072	93%	0	-	7,526	70%	204,598	92%
	2010	206,546	105%	0	-	7,124	95%	213,670	104%
	2011	191,539	93%	0	-	6,909	97%	198,448	93%
	2012	178,065	93%	0	-	6,545	95%	184,610	93%

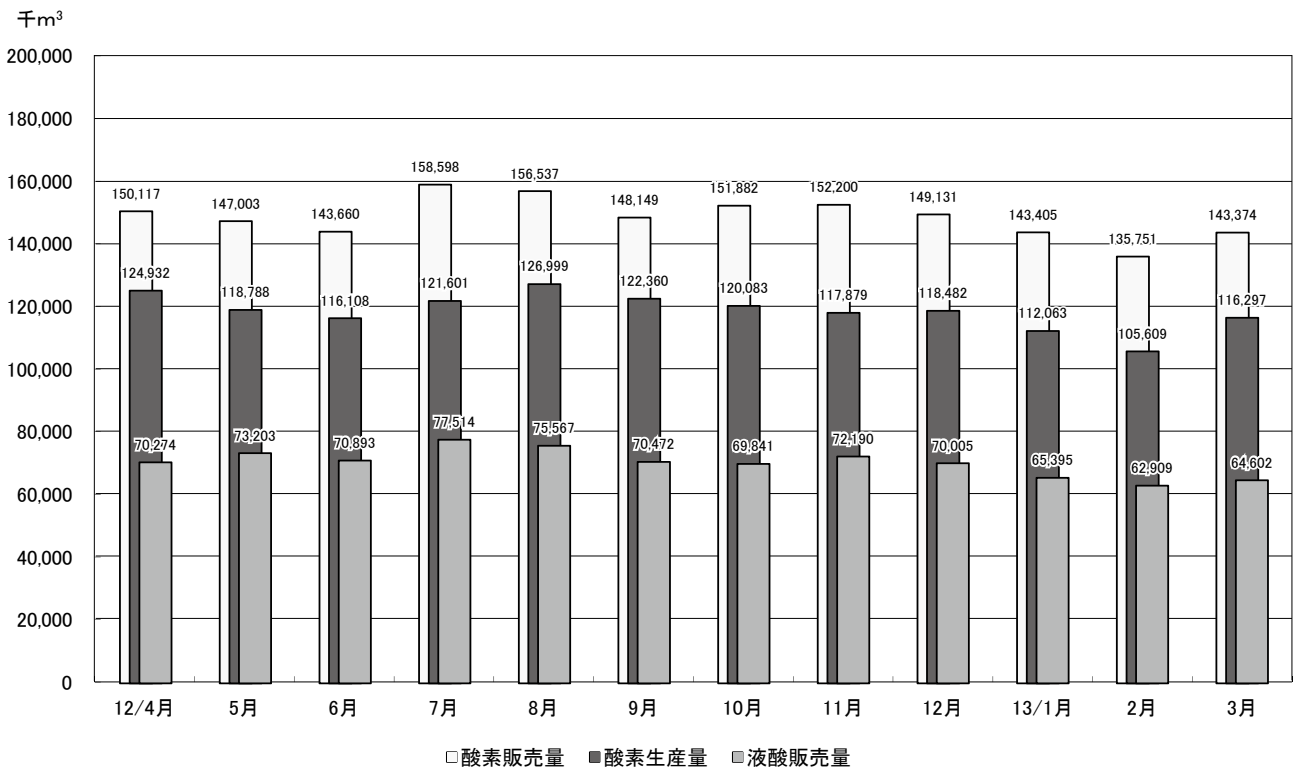
* 合計欄の構成比は対前年度比

2012年4月～2013年3月 地区別酸素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		12/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13/1月	2月	3月
北海道	生産	1,304	1,289	1,375	1,371	1,104	1,237	1,220	1,283	1,374	1,333	1,411	1,517
	販売	2,199	2,214	2,179	2,250	2,035	2,084	2,158	2,094	2,121	2,145	2,191	2,327
東北	生産	5,191	5,349	6,215	5,211	4,679	4,916	5,464	5,482	5,173	4,062	5,435	5,636
	販売	11,478	11,646	11,535	11,254	10,998	11,455	11,577	11,432	11,282	10,714	10,634	11,636
関東	生産	39,796	34,062	34,277	39,552	38,992	38,058	40,170	40,281	39,447	39,093	35,139	37,895
	販売	45,056	37,328	38,109	45,115	43,355	42,538	46,125	45,948	44,255	44,244	41,275	41,163
東海	生産	23,244	26,269	27,118	25,861	24,834	23,771	23,951	23,625	22,609	21,796	22,096	22,858
	販売	26,215	29,281	30,460	29,242	27,135	26,169	28,977	28,049	26,720	24,524	26,413	26,082
近畿	生産	27,101	25,373	23,610	20,813	25,459	25,079	21,911	21,647	21,890	19,987	19,753	22,665
	販売	29,378	32,874	30,977	31,228	30,837	30,481	28,484	31,314	28,359	28,145	26,893	29,953
中国	生産	15,366	13,683	10,954	14,292	15,730	14,547	13,283	12,565	13,079	11,756	10,099	11,558
	販売	18,569	15,350	14,249	17,873	19,875	16,674	17,498	17,360	18,628	17,457	15,318	16,695
四国	生産	999	1,579	1,493	1,446	1,457	1,384	1,400	1,163	1,437	1,550	1,472	1,556
	販売	2,548	2,580	2,659	2,716	2,598	2,419	2,765	2,656	2,833	2,553	2,473	2,234
九州	生産	11,931	11,184	11,066	13,055	14,744	13,368	12,684	11,833	13,473	12,486	10,204	12,612
	販売	14,674	15,730	13,492	18,920	19,704	16,329	14,298	13,347	14,933	13,623	10,554	13,284
合計	生産	124,932	118,788	116,108	121,601	126,999	122,360	120,083	117,879	118,482	112,063	105,609	116,297
	販売	150,117	147,003	143,660	158,598	156,537	148,149	151,882	152,200	149,131	143,405	135,751	143,374

2012年4月～2013年3月 酸素生産量・一般販売実績推移グラフ

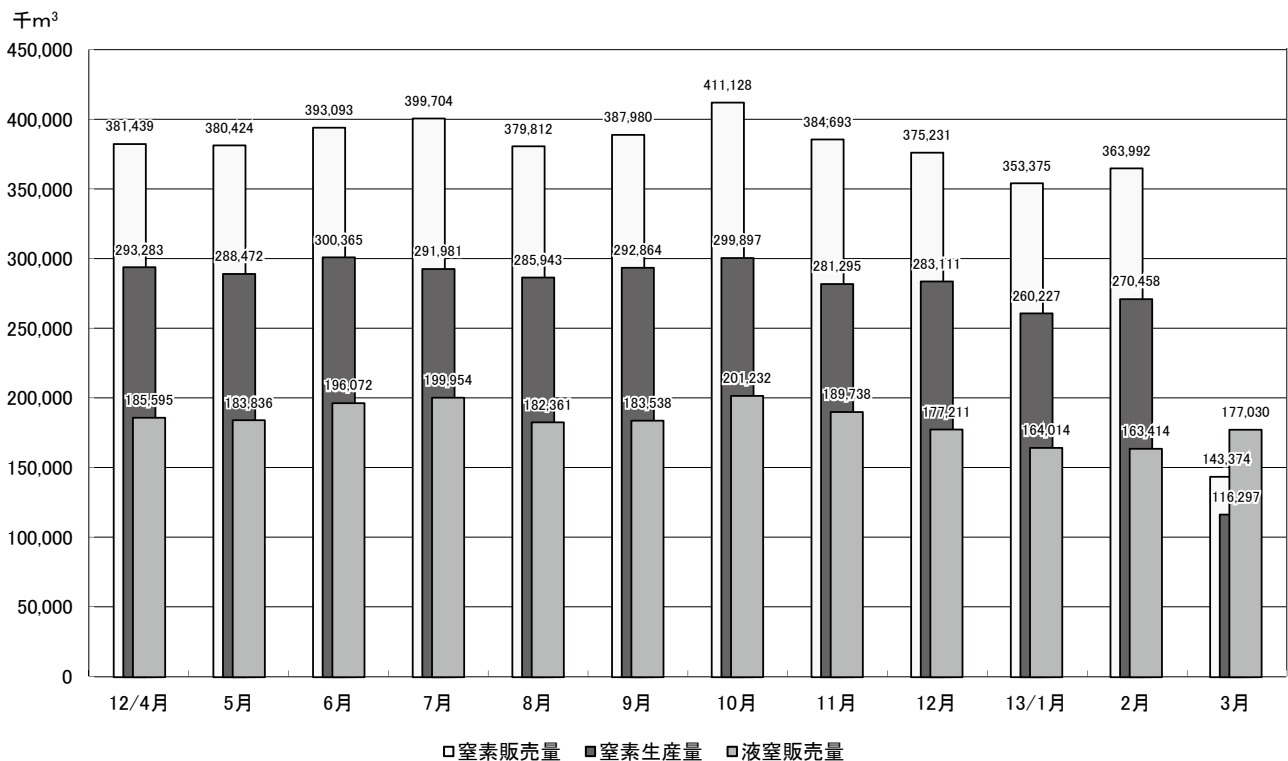


2012年4月～2013年3月 地区別窒素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		12/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13/1月	2月	3月
北海道	生産	3,775	4,004	4,110	4,734	3,987	4,307	3,727	3,516	3,420	3,089	3,509	1,517
	販売	4,715	5,865	5,416	5,894	5,504	5,408	4,990	4,506	4,390	3,953	4,416	2,327
東北	生産	10,565	11,163	12,938	20,450	10,743	11,802	11,599	11,999	11,946	10,992	8,298	5,636
	販売	17,891	16,742	17,991	18,089	15,851	16,673	17,930	17,620	15,965	15,539	15,316	11,636
関東	生産	130,516	130,410	132,619	122,938	128,261	131,031	136,238	132,093	130,960	118,514	126,737	37,895
	販売	142,937	144,781	146,427	145,646	142,802	142,549	154,271	147,251	146,019	133,479	140,945	41,163
東海	生産	41,884	39,811	41,389	42,959	38,952	41,391	44,242	40,490	38,273	35,338	39,306	22,858
	販売	72,250	69,354	72,528	75,754	71,378	72,793	75,724	70,813	66,655	65,831	62,533	26,082
近畿	生産	43,905	38,327	46,952	37,742	40,841	39,556	38,945	35,379	36,296	36,590	33,819	22,665
	販売	58,727	57,357	63,866	64,252	59,265	61,643	63,724	60,349	58,481	57,231	58,285	29,953
中国	生産	33,450	32,308	30,451	33,030	32,852	33,735	35,130	30,400	32,304	29,013	30,682	11,558
	販売	53,328	53,234	52,747	54,162	53,769	56,067	61,862	52,958	51,438	49,695	51,586	16,695
四国	生産	7,122	8,379	7,811	8,297	8,203	8,323	8,264	7,229	8,129	7,379	7,743	1,556
	販売	8,853	9,317	9,732	9,568	8,751	9,373	8,996	8,442	9,488	7,989	8,813	2,234
九州	生産	22,066	24,070	24,095	21,831	22,104	22,719	21,752	20,189	21,783	19,312	20,364	12,612
	販売	22,738	23,774	24,386	26,339	22,492	23,474	23,631	22,754	22,795	19,658	22,098	13,284
合計	生産	293,283	288,472	300,365	291,981	285,943	292,864	299,897	281,295	283,111	260,227	270,458	116,297
	販売	381,439	380,424	393,093	399,704	379,812	387,980	411,128	384,693	375,231	353,375	363,992	143,374

2012年4月～2013年3月 窒素生産量・一般販売実績推移グラフ



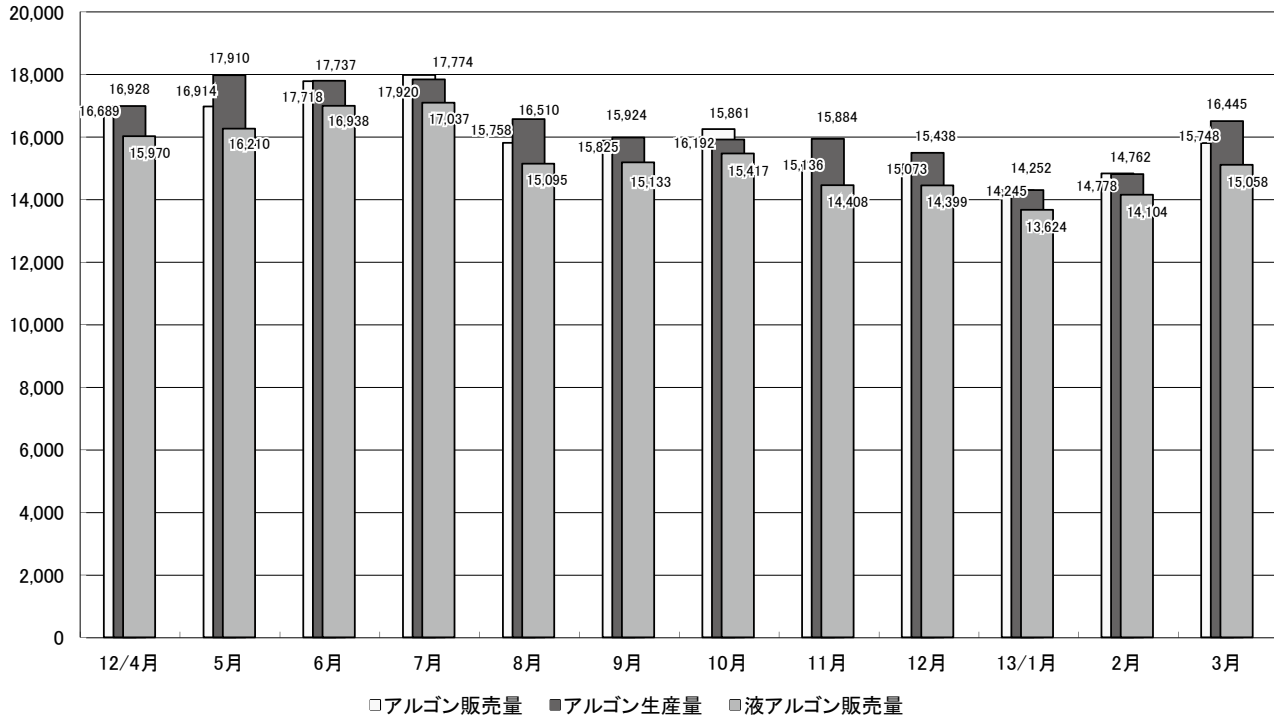
2012年4月～2013年3月 地区別アルゴン生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		12/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13/1月	2月	3月
北海道	生産	281	308	299	289	267	248	258	240	245	265	247	275
	販売	257	279	265	254	244	223	226	216	211	235	218	242
東北	生産	285	261	306	285	272	280	251	290	288	242	261	296
	販売	1,989	2,265	2,164	2,215	1,922	1,830	1,959	1,810	1,491	1,407	1,417	1,496
関東	生産	4,851	4,959	5,055	5,149	4,866	4,542	4,803	4,883	4,822	4,003	4,204	4,836
	販売	4,051	4,438	4,510	4,352	3,987	4,102	4,290	4,100	4,195	3,884	4,034	4,251
東海	生産	3,597	4,442	4,025	4,119	3,365	3,921	3,509	3,403	3,169	3,245	3,573	3,861
	販売	3,765	3,995	4,197	4,860	3,854	3,857	3,768	3,658	3,598	3,471	3,658	3,928
近畿	生産	4,040	3,901	4,178	4,020	4,018	3,756	3,711	3,604	3,593	3,368	3,439	3,765
	販売	3,368	2,953	3,143	3,129	2,925	2,847	2,990	2,866	2,765	2,636	2,784	3,006
中国	生産	2,713	2,817	2,555	2,623	2,376	2,090	2,071	2,056	2,120	1,886	1,878	2,086
	販売	1,245	850	972	1,017	869	941	1,026	693	993	862	936	921
四国	生産	82	170	141	183	176	178	155	89	174	159	151	136
	販売	471	490	490	446	351	386	391	328	317	284	355	351
九州	生産	1,079	1,052	1,178	1,106	1,170	909	1,103	1,319	1,027	1,084	1,009	1,190
	販売	1,543	1,644	1,977	1,647	1,606	1,639	1,542	1,465	1,503	1,466	1,376	1,553
合計	生産	16,928	17,910	17,737	17,774	16,510	15,924	15,861	15,884	15,438	14,252	14,762	16,445
	販売	16,689	16,914	17,718	17,920	15,758	15,825	16,192	15,136	15,073	14,245	14,778	15,748

2012年4月～2013年3月 アルゴン生産量・一般販売実績推移グラフ

千m³



2008年度～2012年度 溶解アセチレン生産・販売実績表

単位：t

地区別		2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
北海道	生産	779	91.0%	688	88.3%	633	92.0%	634	100.2%	606	95.6%
	販売	787	90.1%	726	92.2%	592	81.5%	593	100.2%	607	102.4%
東北	生産	857	100.7%	721	84.1%	678	94.0%	687	101.3%	718	104.5%
	販売	423	88.1%	372	87.9%	367	98.7%	412	112.3%	383	93.0%
関東	生産	4,141	90.4%	3,396	82.0%	3,485	102.6%	3,638	104.4%	3,466	95.3%
	販売	5,008	92.0%	4,048	80.8%	4,086	100.9%	4,083	99.9%	3,784	92.7%
北陸	生産	724	71.6%	619	85.5%	619	100.0%	644	104.0%	609	94.6%
	販売	448	88.2%	394	87.9%	407	103.3%	412	101.2%	379	92.0%
東海	生産	1,934	88.9%	1,587	82.1%	1,544	97.3%	1,505	97.5%	1,439	95.6%
	販売	2,132	89.8%	1,729	81.1%	1,691	97.8%	1,663	98.3%	1,583	95.2%
近畿	生産	2,305	92.5%	1,877	81.4%	1,875	99.9%	1,879	100.2%	1,857	98.8%
	販売	2,901	89.9%	2,381	82.1%	2,371	99.6%	2,357	99.4%	2,272	96.4%
中国	生産	1,711	95.0%	1,502	87.8%	1,489	99.1%	1,509	101.3%	1,396	92.5%
	販売	1,735	91.5%	1,484	85.5%	1,493	100.6%	1,449	97.1%	1,451	100.1%
四国	生産	353	92.4%	279	79.0%	273	97.8%	262	96.0%	117	44.7%
	販売	833	91.4%	692	83.1%	664	96.0%	613	92.3%	457	74.6%
九州	生産	1,271	91.4%	1,147	90.2%	1,154	100.6%	1,066	92.4%	1,060	99.4%
	販売	1,744	93.9%	1,403	80.4%	1,405	100.1%	1,561	111.1%	1,214	77.8%
合計	生産	14,075	90.5%	11,816	84.0%	11,750	99.4%	11,824	100.6%	11,268	95.3%
	販売	16,011	91.1%	13,229	82.6%	13,076	98.8%	13,143	100.5%	12,130	92.3%

2008年度～2012年度 液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表

単位：t

年度	工場出荷量	前年比	用途別販売実績割合					
			溶接用	飲料用	冷却用	製鋼用	化学用	その他
2008年度	767,239	95%	52%	14%	16%	5%	6%	7%
2009年度	688,133	90%	50%	15%	13%	6%	9%	8%
2010年度	700,239	102%	51%	14%	12%	6%	10%	6%
2011年度	716,244	102%	50%	15%	10%	6%	13%	6%
2012年度	674,691	94%	50%	16%	11%	5%	10%	8%

2008年～2012年 主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表

単位：kg

番号	ガス名称	化学記号	2008年 (平成20年)		2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)	
			需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比
1	アルシン	AsH ₃	21,400	106%	15,600	73%	20,600	132%	16,400	80%	13,300	81%
2	ジボラン	B ₂ H ₆	590	94%	430	73%	480	112%	540	113%	390	72%
3	三塩化ホウ素	BCl ₃	98,000	107%	101,100	103%	123,600	122%	120,700	98%	105,400	87%
4	四フッ化炭素	CF ₄	489,000	99%	357,500	73%	475,900	133%	494,900	104%	484,300	98%
5	三フッ化メタン	CHF ₃	85,200	115%	73,400	86%	86,100	117%	79,800	93%	78,300	98%
6	六フッ化エタン	C ₂ F ₆	343,300	88%	206,500	60%	247,900	120%	227,300	92%	206,300	91%
7	八フッ化シクロブタン	C ₄ F ₈	29,000	107%	40,700	140%	43,700	107%	48,200	110%	51,800	107%
8	塩素	Cl ₂	203,000	110%	172,900	85%	247,300	143%	347,800	141%	255,800	74%
9	ゲルマン	GeH ₄	120	109%	110	92%	110	100%	240	218%	240	100%
10	臭化水素	HBr	83,000	115%	74,900	90%	94,300	126%	106,700	113%	95,000	89%
11	アンモニア	NH ₃	1,168,000	103%	979,400	84%	1,589,600	162%	2,488,200	157%	2,842,200	114%
12	三フッ化窒素	NF ₃	1,423,000	122%	1,232,600	87%	1,658,200	135%	1,637,600	99%	1,588,800	97%
13	一酸化二窒素	N ₂ O	580,000	95%	490,700	85%	603,400	123%	593,400	98%	739,500	125%
14	ホスフィン	PH ₃	17,700	96%	11,700	66%	15,800	135%	12,400	78%	11,500	93%
15	モノシラン	SiH ₄	407,000	117%	430,300	106%	547,500	127%	541,900	99%	323,500	60%
16	ジシラン	Si ₂ H ₆	500	100%	550	110%	580	105%	*			
17	ジクロロシラン	SiH ₂ Cl ₂	155,000	108%	130,000	84%	160,000	123%	172,900	108%	166,100	96%
18	四フッ化ケイ素	SiF ₄	6,000	100%	6,000	100%	5,700	95%	5,700	100%	6,000	105%
19	TEOS	(C ₂ H ₅ O) ₄ Si	378,000	111%	390,600	103%	424,500	109%	407,700	96%	399,600	98%
20	六フッ化硫黄	SF ₆	207,000	105%	186,300	90%	267,400	144%	267,400	100%	243,000	91%
21	六フッ化タンガステン	WF ₆	86,000	110%	90,000	105%	108,000	120%	103,000	95%	100,000	97%
22	有機金属		1,750	117%	1,610	92%	2,470	153%	2,780	113%	3,040	109%
23	その他ガス	H ₂ Se BF ₃ 、Si ₂ H ₆ SiHCl ₃ 等										
年間需要金額 (単位：億円)			552	117%	497	90%	603	121%	612	101%	534	87%

(注) *1 ジシラン：2011年よりその他ガス欄に移行

2008年～2012年 標準ガス国内販売実績推移表

単位：本

品 目	2008年 (平成20年)		2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)	
	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率	本数	伸び率
一酸化炭素 (CO) 標準ガス	14,000	89%	12,500	89%	12,800	102%	12,800	100%	12,500	98%
二酸化炭素 (CO ₂) 標準ガス	10,400	95%	9,200	88%	11,000	120%	10,100	92%	7,900	78%
二酸化硫黄 (SO ₂) 標準ガス	7,000	101%	7,000	100%	6,700	96%	6,700	100%	6,600	99%
一酸化窒素 (NO) 標準ガス	18,400	102%	18,000	98%	17,600	98%	18,000	102%	17,900	99%
酸素 (O ₂) 標準ガス	15,900	101%	14,900	94%	14,900	100%	14,600	98%	15,000	103%
炭化水素 (HC) 標準ガス	11,600	96%	10,800	93%	11,700	108%	11,500	98%	11,100	97%
その他 標準ガス	52,800	96%	44,000	83%	49,400	112%	48,400	98%	46,200	95%
標準ガス合計	130,100	97%	116,400	89%	124,100	107%	122,100	98%	117,200	96%
ゼロガス	6,200	107%	5,800	94%	6,000	103%	6,500	108%	6,600	102%
標準ガス、ゼロガス合計	136,300	97%	122,200	90%	130,100	106%	128,600	99%	123,800	96%
金額	35億円	97%	32億円	90%	34億円	106%	33億円	98%	32億円	97%

2008年～2012年 圧縮水素出荷実績推移表

単位：千m³

分 野	2008年 (平成20年)		2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
弱 電	52,204	96%	41,699	80%	50,207	120%	40,413	80%	34,337	85%
化 学	21,758	96%	16,483	76%	18,399	112%	16,032	87%	16,819	105%
金 属	38,941	94%	24,110	62%	27,003	112%	25,384	94%	22,301	88%
硝 子	14,225	89%	13,347	94%	15,898	119%	14,987	94%	9,540	64%
その他	15,155	101%	14,978	99%	19,363	129%	20,700	107%	18,629	90%
合 計	142,283	95%	110,617	78%	130,869	118%	117,516	90%	101,626	86%

編集後記

○豊澤専務理事の退任に伴い、7月30日に開催されました臨時理事会で専務理事代行の大役をおおせつかりました林谷です。よろしくをお願いいたします。

JIMGAにおいては平成15年度より約10年間、技術・保安部会の副会長として活動して参りました。この活動を通じ、この度の専務理事の役目がいかに重要であるか改めて痛感している次第です。

○当協会は産業・医療ガスに関する多種、多岐にわたる問題解決のため、会員各社がそれぞれの経験、知恵を出し合い、各部会で小委員会を立ち上げ、具体策を策定して産業・医療ガスの発展に寄与しており、また経済産業省、KHK等と連携して安全保安の確保に取り組んでいます。

その中でも特に優先順位の高い課題につきましては待ったなしの対応を行っており、現在、最優先事項として来年度4月に実施される可能性が高い消費税導入に対して、産業・医療ガス業界の会員各社様が円滑かつ適正な転嫁ができるよう、弁護士先生の助言のもと、平成25年10月1日より施行されます時限立法をどのような形で活用できるか、また制定された“消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正等に関する特別措置法”の運用について遵法厳守しつつ検討に入っています。

○先般、高圧ガス保安協会の作田会長様と面談したおり、作田会長より昨年大手化学工場で多発した重篤事故が二度と再発しないよう安全保安対策を強化し、自主保安を徹底させてほしいとのお話がありました。

安全確保はすべての企業の根幹です。特に我々は高圧ガス、医療ガス、毒性ガスを取扱っており、常に潜在的な危険と隣合わせです。安全を軽視すると大変な惨事を招きかねません。昨年の化学工場で発生した重篤事故はいずれも非定期作業中に発生したとお聞きしました。事故の発生を限りなくゼロにするためにJIMGAの役目は大変重要だと認識しています。会員会社の皆様、KHKまた有識者の皆様にご意見を拝聴しながら、JIMGAとしても自主保安作りを強化して行く所存です。

○潜在危険リスクの重要な課題の一つに容器管理があります、容器管理の切り札として現在JIMGA主導のもと、業界としてRFタグの導入を加速させています。RFタグの普及が不明容器、長期停滞容器の撲滅に大いに役立つと確信しています。

○最後に私の抱負といたしまして、会員各社様の目線に立って皆様から頼られるJIMGAを目指す所存です。ご協力よろしく願います。

(E.H記)



会誌「産業ガスレポート」 Vol.29 (2013年秋号)

発行所：一般社団法人 日本産業・医療ガス協会
編集発行人：林谷英司

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-8-13 サクセス芝大門ビル 4階
TEL：03-5425-2255 FAX：03-5425-2256
URL：<http://www.jimga.or.jp>

2013年9月発行